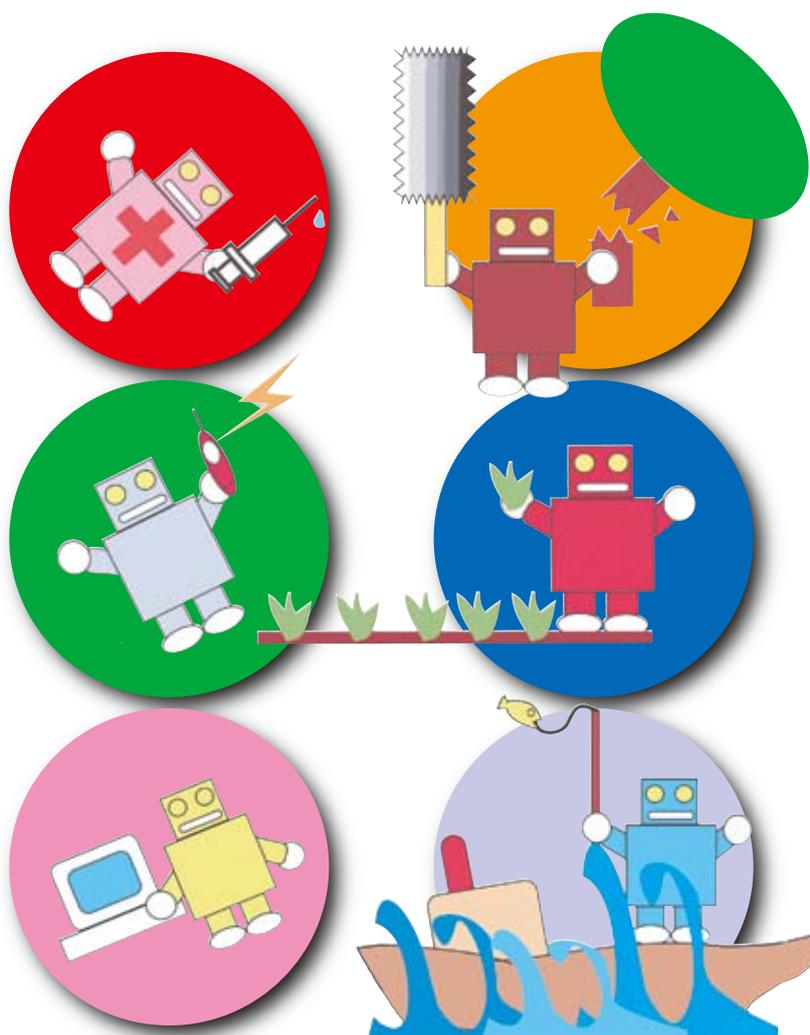


東京の産業教育

特集 魅力ある産業教育を目指して
—各校・学科の取り組み—



平成22年度 48号

東京都産業教育振興会

良い仕事を する

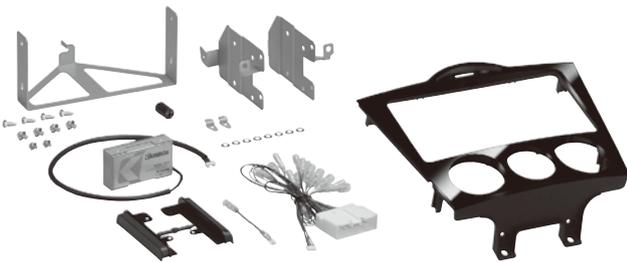
ものづくりとおもてなしの調和

良い仕事をすればお客様が喜ぶます。
お客様が喜べば利益が生み出せます。
利益を生み出せば社会に貢献できます。
社会に貢献できれば会社が繁栄します。
会社が繁栄すれば社員が成長できます。
社員が成長できれば生活が豊かになります。
だから私達は良い仕事をします。



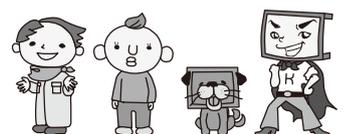
カーAV取付キット

株式会社カナルック企画は、車にカーオーディオやカーナビゲーションを取付けるためのキットを設計/製造/販売している取付キット業界では日本のトップ・メーカーです。



社会貢献活動 Social Support Activities

社会貢献活動として、地域中学校/高等学校の職業実習受入れを行い、次世代技術者の育成に力を注いでいます。
インターンシップをご希望の学校がございましたらお問合せください。



東京の産業教育 第48号 目次

巻頭のことば

- 「原点回帰でヒトづくり・モノづくり」 東京都産業教育振興会副会長 金子昌男・・・1
(株カナック企画 相談役)

特集 魅力ある産業教育を目指して—各校・学科の取り組み—

- 1 技能習得型インターンシップ報告
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事 守屋文俊・・・2
- 2 町の特産品をつくる～地域との連携をとおして～
東京都立瑞穂農芸高等学校 江森忍・・・4
- 3 デュアルシステムの導入に向けて
東京都立多摩工業高等学校長 浅井嘉平・・・6
- 4 科学技術の夢を育て伸ばす進学型専門高校
東京都立多摩科学技術高等学校長 役山孝志・・・8
- 5 地域に融合できる教育活動
東京都立赤羽商業高等学校長 戸田勝昭・・・10
- 6 「総合学科 杉総」のブランドの確立を目指して
東京都立杉並総合高等学校長 三橋信也・・・12
- 7 魅力ある産業教育を目指して
昭和鉄道高等学校教頭 菅野育夫・・・14
- 8 「魅力ある産業教育を目指して～各校・学科の取り組み～」
安部学院高等学校長 安部元彦・・・16
- 9 「地域密着型実践教育」の取り組み
中央工学校 建築系学科長 浜野和孝・・・18
- 10 「対外活動を通じたキャリア教育」
— 「技能五輪全国大会」と「産学連携」の事例より —
日本電子専門学校校長 古賀稔邦・・・20
- 11 役に立ちたいという気持ちを大切にしよう
練馬区立上石神井中学校長 小野雅保・・・22

東京の産業界

- 1 真のものの作り人材育成の大波を
(株)ムトーエンジニアリング 代表取締役社長 前川 善太郎・・・24
- 2 「歯車を育む、人を育む」－ニッチな分野で一流になる－
(株)チバダイス 代表取締役 千葉 英樹・・・26

情報スクエア

- 1 第8回創造ものづくりフェア in TOKYO
東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長
目黒区立第九中学校長 情野 政彦・・・28
- 2 第20回全国産業教育フェア茨城大会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・30

報 告

- 1 平成22年総会・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・33
- 2 平成22年度東京都産業教育振興会教育功労者表彰・・・・・・・・・・・・34
- 3 平成22年度東京都産業教育振興会後援事業・・・・・・・・・・・・・・34
- 4 平成22年度東京都産業教育振興会作文コンクール
① 入賞者一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・36
② 最優秀作文・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・38
③ 応募校一覧・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・41

本会の概要

- 1 平成22年度事業経過報告（平成23年2月28日現在）・・・・・・・・・・・・44
 - 2 平成21年度決算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・46
 - 3 平成22年度予算・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・47
 - 4 平成22年度役員、委員・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・48
 - 5 会員名簿・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・50
 - 6 会 則・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・66
- 編集後記・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・68

表紙デザイン（平成17年度都産振50周年記念表紙デザインコンクール最優秀作品）
製作者 半澤寛之さん（東京都立第三商業高等学校 定時制課程 商業科 3年：当時）

巻頭のことば

「原点回帰でヒトづくり・モノづくり」

東京都産業教育振興会副会長
㈱カナック企画 相談役

金子 昌男



昨今、日本経済の劇的変化の背景には、企業のグローバル化と言う大きなうねりがあり、企業経営者も、そのスピードに対応していく事が、大きな任務となっています。

今年度、大企業の決算発表では、大幅な増収増益予想であります。その中身は、今までの輸出を中心とした事業構造から、海外生産で収益を確保する構造に変化させた事です。近年日本の豊かさと比例して、コストが高くなり、弱くなった企業の競争力を、海外生産に転化し、成功させた企業努力の結果だと認識しております。日本企業が今迄培ってきた技術力と、信用を武器に、生産拠点を、世界の地域（消費地生産方式を念頭に入れた戦略）、特に東アジアの安い労働力を背景に、競争力のある、生産工場を作り

上げたのです。一方、日本国内ではデフレ現象と、雇用問題が深刻な社会問題となっております。しかし企業側にしてみれば、生き残りをかけた戦略として、消費地生産を推進していく事になるのは、自然の理です。

そこで新たにクローズアップされてきた出来事は、一部の大手企業で、採用予定者の何割かを外国人にする予定であると発表している事です。企業がグローバルな戦略を取りつつあれば、当然言語の問題・思考力の問題も含めて、外国人を採用する動きは、至極当然な発想だと思いますが、日本国内では益々就職口は狭くなり、産業教育に関係する学校関係の人達には、大変なご苦労があると理解しております。だからこそ、今、職業高校として、学校教育のあり方を、もう一度見つめ直す事が重要だと思います。原点に立ち帰ることにより現状が正しく見えてくるものと確信しております。「何の為の産業教育か」大学に行く為の産業教育ではないはずです。立派な職業人（その道の技術者）を育てる事が産業教育の根幹であると認識しております。【不易流行】の諺通り、時代とともに変化していくものがあります。語学の必要性も一端にはあるでしょう。しかし技術力の向上も又、常に確実に求められるものです。この様な時代の中で、昨年、日立製作所が創業100周年を迎えました。創業社長である小平浪平翁は、何としても国産のモーターを作って、国に貢献したいと言う大志を抱いて、開発に乗り出し、1910年に（明治43年・創業期）日本で初めて国産のモーター（5馬力）を完成させたと伺いました。その時の設計図面が保存されており、日立市にある小平記念館で実物の図面を見た時の感動は忘れる事が出来ません。明治時代手書きで、あの細かい複雑な図面を書き上げた苦労。何としても国産のモーターを開発して、国に貢献したいと言う強い意志。日本の技術が世界で通用し、リードしてきたのは、この先輩技術者達の努力の結晶が原点にあると言っても、過言ではなからうと思っております。ぜひ、教育現場の皆様にも、この原点である手書きの図面を生徒さんに教えることにより、モノづくりに対する愛着心を啓発し、それが、広い心の持ち主となって、相手（国家・社会）を重んじ思いやる心、モノづくりに対する、強い意志を持てる生徒さんの育成に取り組んでいただきたいと思います。



技能習得型インターンシップ報告

東京都教育庁指導部高等学校教育指導課 守屋 文俊
指導主事

1 概要

東京都には、世界的に高いシェアを誇る技術や他社にまねのできない高度な技術をもつ企業が多数存在している。しかし、少子高齢化や団塊の世代の大量退職期の到来により、企業の人材不足が深刻化する中で、新入社員に、ものづくりの技能・技術を社内で教育する余裕がないという企業も多く、即戦力となる人材が必要となる。このような産業界のニーズを受け止め、現場の高い技術力を継承し、工業技術を支える、優秀な人材の育成が、工業高等学校に求められている。

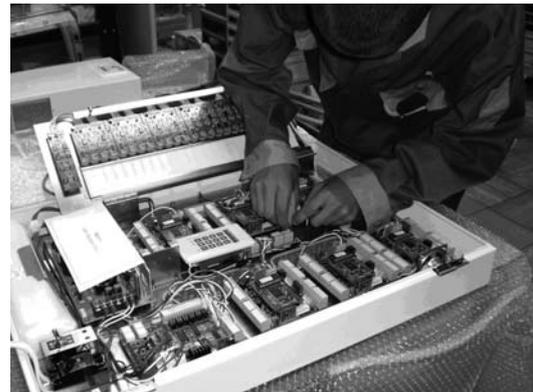
そのため、工業高等学校においては、ものづくりの基礎的・基本的な知識・技能を確実に身に付けさせるとともに、「現場力」の育成についても力を注ぐ必要があることから、東京都教育委員会は、平成20年度より、ものづくりの基礎・基本を学んだ工業高等学校の2学年の生徒を対象に、夏季休業期間中に10日間、ものづくり企業における、「技能習得型インターンシップ」を実施している。

この事業は、「10年後の東京」への実行プログラム計画のうち、目標7「意欲ある誰もがチャレンジできる社会を創出する」施策24「東京の産業人材とアジアの将来を担う人材の育成」の一環として行っている。

2 平成20年度の実施について

初年度であったこの年は、ものづくり企業71社から協力の承諾をいただき、生徒80名が47社のものづくり企業において、10日間の技能取得

型インターンシップを実施してきた。インターンシップを終えた生徒からは、「仕事に対する責任感と、働くことの大切さを改めて考えさせてくれる場であった。」「ものをつくる心構えを学び、学校の授業に積極的になれた。」という感想が寄せられた。



3 平成21年度の実施について

この年は、受け入れを承諾いただいた協力企業は43社であった。64名の生徒が33社のものづくり企業において、技能習得型インターンシップに参加した。生徒からは、「一つのことを的確にこなし、理解したうえでしっかりとした製品がつくれ、次の事を考え、より多くの製品をつくる。そして、会社のため、自分のために精一杯集中し、一生懸命な作業をするという『作業効率』と『集中力』を学んだ。」「測定器のマイクロメータの読み方や使用方法及びNC工作機械の操作方法などは、これからの学校生活で活かせると思う。」「第2種電気工事技能試験に出てくるような配線をきれいに正確にしっかりと接続できるような技術を学ぶことができた。」という感想が寄せられた。

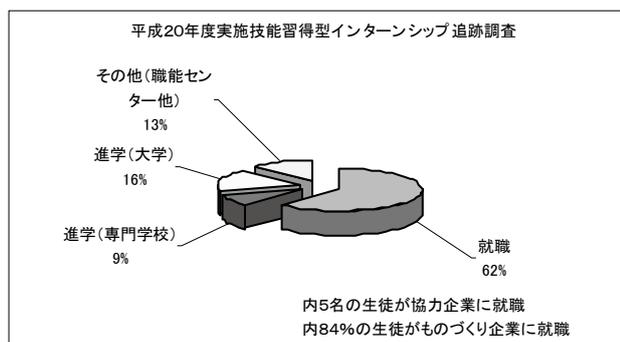


4 平成 22 年度の実施について

この年は、受け入れを承諾いただいた協力企業は 39 社であった。54 名の生徒が 28 社のものづくり企業において、技能習得型インターンシップに参加した。生徒からは、「大きなプレス機や折り曲げ機等の作業体験をすることができ、いい経験になった。旋盤で穴あけ作業をする際には、学校では行わないような大きな穴を開けるため、しっかりと固定することが大事であることを学びました。ねじ穴を加工した際には、材料だけではなく、ドリルにも切削油を塗って、熱による変形や、加工面の精度を保つ等の工夫をしていたことが印象に残った。」という意見があり、学校とは違う実習を体験していることが伺えた。

5 追跡調査

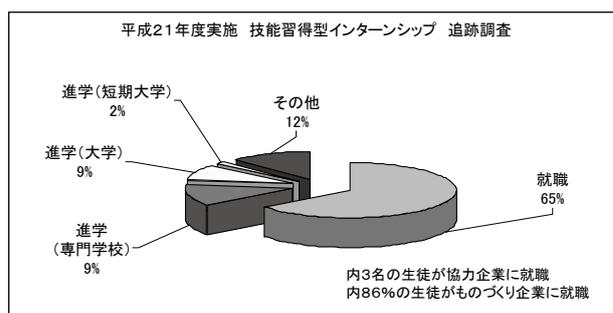
平成 20 年度に参加した生徒を対象に、卒業時に追跡調査を行ったところ、下記のグラフにあるように技能習得型インターンシップに参加した生徒の 62% が就職し、その内 5 名（10%）の生徒が協力企業に就職した。



ある生徒は、体験した企業への就職を目的に参加していたが、当該年度は求人が出されていなかった。しかし、技能習得型インターンシップに参加したということで、当該企業から特別に求人を出され就職することができた。

平成 21 年度に参加した生徒を対象の、卒業時の追跡調査では、下記のグラフに示されたとおり、技能習得型インターンシップに参加した生徒の 74% の生徒が就職し、その内 3 名（7.3%）の生徒が協力企業に就職した。

参加した生徒からは、「インターンシップに参加したことにより、職場の人達の仕事に対する熱意や技術を学ぶことができたので、これからの仕事に活かしていきたいです。」との声が聞かれた。



6 まとめ

3 年間で 199 名の生徒が参加した。2 年目までに参加した生徒は 144 名であり、92 名（64%）の生徒が就職した。ものづくり企業に 78 名（就職者の約 85%）が就職し、その内 8 名（8.8%）が実際に協力企業に就職している。このことから、技能習得型インターンシップで身に付けた技能・技術やものづくり企業への理解度が深まったことにより、就職先に反映されていることが確認できた。今後は、技能習得型インターンシップによって、身に付けさせる技術を明確にすることや、協力企業を増やし、企業と生徒とのマッチングを丁寧に行うことなどが課題である。

町の特産品をつくる ～地域との連携をとおして～

東京都立瑞穂農芸高等学校 江 森 忍

はじめに

瑞穂農芸高校は、西多摩地域唯一の農業の専門高校として、畜産科学科、園芸科学科、食品科、生活デザイン科を設置している。本校は、「生命・環境・未来を大切に作る学校」として、自然に学び、自然を活かす力を身につけ、農業環境関連産業をはじめ地域の産業や生活・文化の創造に寄与できる重要な学習の場を提供してきた。

しかしながら、ここ瑞穂町では、郊外型の大型ショッピングセンターの進出に伴い、町の商店街が活気を失ってきている。そのことに、生徒達も毎日の通学から気づき、自分達も瑞穂町の一員として心配をしていた。そこで、生徒達の取り組みについて、紹介させていただきます。



新聞取材を受けた食品研究部の生徒

1 瑞穂町特産品の開発の経緯

「瑞穂町の商店街を通ると、シャッターが下りている店が多くなってきてさびしいな。」と生徒達の会話の中に町のことが話題に上りました。そして、「瑞穂農芸高校の生徒として、何かできないかと考えよう。」と、自発的にはじまりました。そこで、食品研究部として、瑞穂町の特産品を使って、瑞穂町の名物になるような食品の開発に、独自に取り組むことになりました。

2 名物の定義

瑞穂町の名物として、瑞穂町を象徴するものでなければならないということで、①瑞穂町の有名なものを利用すること。②多くの方に食してもらえるもの。と決めました。

瑞穂町は古くから、『お茶』、『牛』、『だるま』が有名な町であることから、お茶と牛乳を利用すること、また、誰でもいつでも手にとってもらえることを考慮し、パンの製造に取り組むことに決定しました。

3 瑞穂町役場の協力

生徒達が研究活動を行っているところへ、偶然にも瑞穂町役場の方々から、瑞穂町ブランド開発について考えているため、是非、協力をしていただきたいというお話をいただきました。

①材料の提供

農業組合に働きかけていただき、「地粉」と「お茶」を提供して頂きました。瑞穂町不耕作地解消事業で生産された小麦「地粉」と瑞穂町の緑茶を粉末にした「粉末茶」を利用することで、地産地消にもなることとなりました。



茶葉の形をイメージした抹茶
クッキー生地のみロンパン

②発表の場の提供

瑞穂町産業祭など町のイベントで試食会を催す機会をいただきました。直接、町の方々からアンケート調査を実施し、おいしいというプラス評価をいただき、生徒達も自信をもって取り組むことが出来ました。



産業祭での試食アンケート調査

4 瑞穂町を調査してからの開発

生徒達は、瑞穂町との交流から、この町で多く生産されている野菜を知ったことから、トマトを利用したトマトパンの開発にも取り組みました。トマトは、嫌いな野菜 No. 1 であり、好きな野菜 No. 1 でもある面白い野菜です。そこで、トマト嫌いの小さな子どもでも食べられるパンを目標に開発しました。

また、茶の利用では東京狭山茶をよりわかりやすいイメージとしてアピールできるよう、茶葉の形に成形する工夫を行いました。



瑞穂町のトマトを利用したトマトパン製造

5 まとめ

今回の取り組みでは、偶然にも町からの協力依頼がありましたが、地域への働きかけを行うことが重要であると感じました。町の方々との交流から、地域の現状や抱えている問題などに気づき、積極的な取り組みへと変化していったことが効果的に働いたと感じました。

とくに、外部からの評価をいただくことで、生徒達は学校での学習が生かされることを理解し、意欲的に取り組むことができました。学校の成績だけでははかれない、社会の方々からの直接感謝されること、町の方々の応援、役場の方々の協力などが励みになり、生きる力につながっていったように感じました。

6 今後の課題

町の直売所での販売など積極的に取り組み、消費者からの評価を得ながら、地域の利益となるような活動に発展させていきたいと考えます。

また、地域の方々への講習会等の検討し、外部へ情報発信をしていくことを生徒達が中心となって、企画していきたいと思えます。瑞穂町の食材の学習やそれらを利用した特産品の作り方など、瑞穂町をPRするための活動を役場や生産者の方々と連携しながら、実現させたいと思えます。

おわりに

生徒たちの独自の取り組みとして、活動を行ってきたので、遅々として進まないこともありましたが、周囲の方々の温かい励ましや協力で、特産品という形にすることができました。この場をかりて御礼を申し上げます。

今後も地域との連携、協力は続けていきたいと思えますので、互いのより効率的な体制づくりなどを進め、よりよい関係を継続していきたいと思えます。



デュアルシステムの導入に向けて

東京都立多摩工業高等学校長 浅井 嘉平

1 学校の概要

本校は、日本の高度経済成長期の昭和38年(1963年)に地場産業の即戦力となる人材の育成を目標に創立された工業専門高校です。これまでに約1万人の卒業生を輩出し、現在は、機械科(2クラス)、電気科(2クラス)、環境化学科(1クラス)の3学科を設置しています。工業人になるための工業技術・技能、知識の習得をはじめ各種検定・資格取得に力点を置くとともにスポーツ教育推進校(平成21～22年度)、人権教育研究指定校(平成20～21年度)として心・技・体の調和のとれた技術者の育成をめざしています。本校は約7割の生徒が就職を希望し、ここ数年、100%の内定率を維持しています。残りの約3割が大学・専門学校へ進学しています。

また、本校は平成19年3月に環境省が提唱する「エコアクション21」に認証・登録されました。全校一丸となって環境負荷の削減をはじめとしてリデュース、リユース、リサイクルの徹底を推進するとともに環境教育のセンター校として、環境保全活動やその啓蒙活動にも力を入れています。



多摩工は環境負荷の低減に努め、CO₂排出量の削減をめざします。

主な取り組み

- ・ 昼休みの消灯(10分間)
- ・ ゴミの計量廃棄
- ・ 年3回の環境講話 等

《エコアクション21のポスター》

2 地場産業との連携

本校周辺、昭島、羽村、青梅、八王子地区などには、製造業を中心とするロボット、半導体、電子デバイス、計測・分析など多種多様な地場産業がひしめいており、これらの多くの企業は即戦力となる人材を求めています。本校では、数年前から希望者によるインターンシップを実施してきましたが、さらに社会に通用する人材を育成するために、東京都の施策として平成20年度から10日間の技能習得型インターンシップ(協力企業3社)を導入するとともに、平成21年度からは、2学年全員にインターンシップ(協力企業・機関52社)を実施しています。加えて、平成22年度には、3年次の機械科の授業「課題研究」で砂型アルミ鋳物企業である双葉(株)の協力を得て、企業現場での実践的な技術・技能を身につけています。



《技能習得型のインターンシップ》

3 デュアルシステムの導入

本校は、これまでの企業との連携を踏まえて、平成23年度入学生から3学科にデュアルシステムの導入を予定しています。デュアルシステムと

は、産業界と学校が協同して人材を育成しインターンシップよりも長期の就業訓練を行い、企業や産業界が求める実践的な技術・技能を身につけ、企業と生徒の双方が合意すれば卒業後にその企業へ就職していくことも可能とするシステムです。

平成 23 年度入学生は、1 年次にマナー講習会及びインターンシップ（5 日間）を実施し、2 年次には、技能習得型のインターンシップ（10 日間）及び通常のインターンシップ（2 日間）を実施します。加えて、1 年間を通じて週 1 日（6 時間）の企業内での就業訓練を実施します。3 年次には、週半日（3 時間）の企業内での就業訓練を実施します。

4 デュアルシステム導入の効果

デュアルシステムを導入することによって、生徒へのメリットとして以下のことが考えられます。

- 勤労観・職業観が身につく、進路決定も積極的になる。
- 実践的な技能・技術が身につくとともに、学校での基礎的な学習の大切さに気づく。
- 挨拶、コミュニケーション・プレゼンテーション能力が早い段階から身につく。

○より自分の能力を生かせる企業に就職でき、ミスマッチが少なくなる。早期離職を回避できる。

また、企業側にとっては、

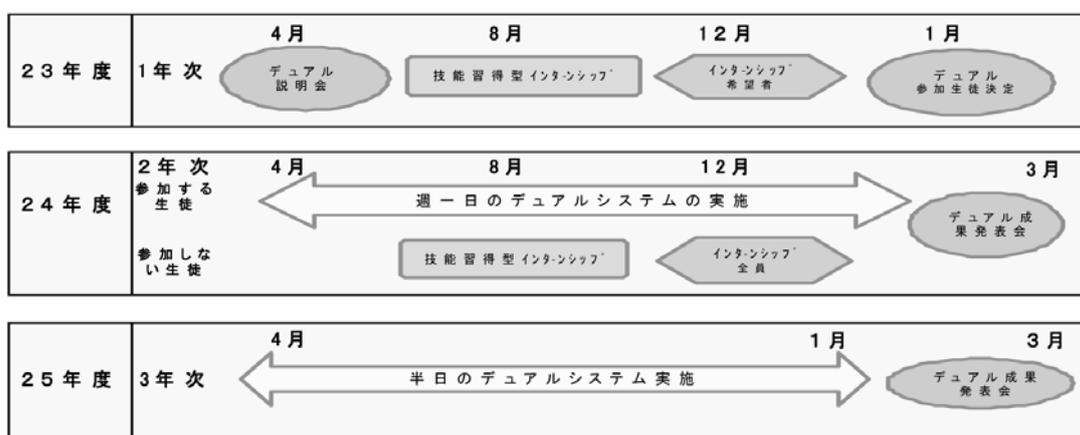
○生徒受入れにより職場に活気が出るとともに、受入れのための研修により、職員の能力向上につながる。

○実践的な技能・技術を有するため、入社後の育成が低コストになるとともに、後継者が確保できる。

○受入れ生徒に安全指導を行うことで、入社後の安全確保をより徹底できる。

今後、工業系の専門高校は、工業人としての基礎的・基本的で実践的な技術・技能・知識を生徒に身につけさせると同時に、技術者としての倫理観や社会人として必要なルール・マナーを守る規範意識の育成が強く求められています。

このデュアルシステムは、生徒が高校で学んだことを生かしながら、企業内での就業体験や訓練によって、現場の技術者から、直接、より実践的で先端的な技術力を身につけられます。加えて、企業人として必要な規範意識や社会性を身につけることによって、激変する社会をたくましく生きる力を育むことができると考えています。



《デュアルシステムの流れ》

科学技術の夢を育て伸ばす進学型専門高校

東京都立多摩科学技術高等学校長 役山 孝志

1. 本校のねらい

本校は、科学技術に興味のある子供たちの素質を伸ばし、意欲を持って理系大学等に進ませる目的で平成22年度小金井市に開校した「進学型専門高校」である。

理科や科学技術に興味をもつ中学生は多い。しかしながら進学を希望する生徒の多くは普通高校へ進学するため、せっかくの科学技術への興味や能力を伸ばす機会が限られている。理系学部へ進学してきた生徒たちの科学の基礎知識の不足や、目的意識の低さを憂う声も大学から聞こえる。

伸び盛りである高校時代に、積極的に科学技術に触れさせてその可能性を高める。そして目的意識を持って大学へ進ませることが本校の大きなねらいである。



本校の位置づけイメージ図

「科学技術高校」の名称をもつ高校は全国にいくつか存在するが、工業高校として職業教育内容を基本に位置づけた上で、大学進学のための学科やコース機能を強化しているものが多い。これに対し、東京都における科学技術高校は将来の科学技術者や研究者を育てる「進学型専門高校」として理系大学進学に特化していることが特徴であり科学技術科のみ

としている。なお、本校は平成13年度に開校した都立科学技術高等学校に次いで、多摩地域に設置された都内2校目の科学技術高校である。

2. 本校教育の特徴

数学、英語、理科等の普通教科を充実させることで、大学入学センター試験に対応可能な教育課程としていることが特徴である。普通教科を十分に配置することで総単位数が増加するため7時限制(45分)としている。また、前後2期制の採用により、時数確保と共に半期単位認定など科目配置に柔軟性を持たせている。

普通教科の基礎学力を確実に身に付けるために習熟度別、少人数授業の実施や土曜補習、夏期には勉強合宿や補習なども充実させている。また全国模試などの実力診断も活用している。

専門教科においては、次代の中心技術であるインフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコ(環境)テクノロジーなど先端技術に関する基礎学習を行なう。これらの学習は大学進学後に学ぶことになる専門技術への導入として位置づけており、全員が全体を1年目に広く学んだ後、希望の内容を選択し知識を深める。また課題研究、卒業研究では課題解決力や探究心を育成し、その取組み経験をAO方式などによる大学入試においても活用させる。



専門教科授業の様子

3. 一期生の様子

理科や科学が好き、そして理系大学へ進みたい、というように目的意識を持つ生徒が多いことが特徴である。部活動では「高校生ものづくりコンテスト(化学分析部門)」東京大会に出場した科学研究部の生徒が、他校の上級生選手に伍して見事1位と3位になり、一人が関東大会に駒を進めた。早速、彼らの可能性を感じさせている。



ものづくりコンテスト(化学分析)東京大会

また、第一回文化祭(9/11,12)では「科学技術高校らしい文化祭にしよう!」という呼びかけに対し、「気球実験」「科学実験コーナー」「ロボット展示」「ガウス砲展示」「研究発表」など理系を感じさせる数々の企画で生徒たちは応えていた。来場者からは「科学技術高校らしい一味違った文化祭で大変楽しめた」というアンケート結果や、「一年生だけなのに大変に頑張っている。将来が楽しみだ」などの反響をいただいた。科学技術高校への期待を感じていただけたようである。



第一回文化祭(多摩未来祭)

4. 科学技術アドバイザー

日々進歩していく先端技術に触れ、学ぶために、約10の大学や先端企業、研究機関などに本校の「科学技術アドバイザー」として支援をお願いしている。

先端技術講義や研究施設見学などの連携を実施していく予定である。この7月には東京農工大、東京理科大、情報通信研究機構など5団体のご協力をいただいて第一回目の先端技術に関する特別講義を実施した。生徒からは「興味分野の専門家からの講義が聞けて大変刺激になった」等の声が多数あった。今年度は年4回の特別講義を予定している。2年生以降では施設見学や体験などでの連携への拡大を考えている。



特別講義の様子

(上:新しい光「レーザー」、下:自動車の環境先進技術)

5. 今後の充実に向けて

今後2年間をかけて学年を進め、卒業生を送り出すことになる。教員、生徒数共に毎年増加するほか、建設中の新棟完成、引越し等多くの準備を引き続き行っていく必要がある。特に、新しい領域を扱う専門教科においては指導内容の細部の充実や、新校舎の完成に合わせての教育設備・機器の配置や立上げなど多くの業務をこなしていく必要がある。

現在の計画内容を確実にしながら、地域を代表する科学技術高校として、生徒、保護者、都民の皆さんの期待に応えていく。



地域に融合できる教育活動

—知られざる専門高校卒業生の活躍—

東京都立赤羽商業高等学校長 戸田 勝昭

1 はじめに

本校は、昭和25年東京都立城北高等学校赤羽分校（定時制課程普通科）として創設された。昭和34年東京都立赤羽高等学校（定時制課程普通科及び商業科）となる。昭和37年12月に全日制課程商業科が新設され、東京都立赤羽商業高等学校と校名を変更し、現在に至っている。

本校は、生徒の目的意識を育成・高揚させ、その特性を伸長させる取り組みを重視した教育活動を展開し、社会を構成し運営するとともに自立した一人の人間として生きていくための力である人間力を培いつつ、資格取得を糧に就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援する学校を目指している。

2 本校卒業生の一部現状

今年度の本校の目標は、1社でも多く企業訪問や民間企業研修等に参加することである。理由の第1は、新学習指導要領の商業科の目標に「商業の各分野に関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ、ビジネスの意義や役割について理解させるとともに、ビジネスの諸活動を主体的、合理的にかつ倫理観をもって行い、経済社会の発展を図る創造的な能力と態度を育てる」ことを肌で実感することにある。第2に高校、専門学校、大学、大学院卒の全ての就職を希望する人たちの厳しい就職状況を把握し、就職難だからといって、単純に大学進学や専門学校の進学を勧めてよいものなのか等、様々な情報を収集し、少しでも商業高校に学ぶ生徒のために役立ちたいと考えたことによる。

企業訪問や民間企業研修等に参加して、現実に対応して下さる企業人のお話や仕事を拝見させていただくことができ、以下のことが理解できた。

経済のサービス化・グローバル化、ICTの急速な進展等への対応、知識基盤社会の進展は目覚ましいものがある。その上に世界レベルでの大競争（メガ・コンペティション）時代が到来しつつある今日、商業経済科目群で学ぶビジネスに関する専門用語や周辺の知識は、仕事をする上で不可欠であると改めて認識することができた。

更に再認識させられたことは、赤羽商業高校卒業生が様々な企業で活躍していることである。商業高校卒業という学歴で、大手企業の関連会社の代表取締役をしている方をはじめ、部長、課長等の役職に就かれている方々がいます。お会いしてお話を伺うと一昔前の商業高校の話題で大変盛り上がり、大変有意義なひと時を過ごさせていただいた。

また、昔のOBだけでなく、若手の本校卒業生も頑張っている。A社に入社した21歳の卒業生は、部下のアルバイト約40名に指揮して、千葉県全域の700店舗のコンビニを任せられ、雑誌の配送及びマーケティングを担当して、若手社員の有望株として期待されている。B社に入社した20歳の卒業生は、同期入社で大学卒、専門学校卒、高校卒の中で接客実績はNo1だそうです。今年度C社に入社した18歳の卒業生は、社内研修で評価され、男子社員40名の中に女子社員1名という部署に配属され、40名の営業事務を補佐して活躍している。

その他にも、他校の高卒の方々の活躍にも素晴らしいことが理解できた。これらのことは、教育関係者の中でも、意外と知られていないのではないかな。

一部の専門高校卒業生の方々の実績例ではあるが、サロヴェイとメイヤーが提唱しているEQ（心の知能指数）理論「ビジネスの成功とIQの間には、相関関係は認められない」が実証されているのでは

ないかと考えつつある。

3 3学年にわたる職業教育

今日の職業教育を推進する上で、本校におけるインターンシップは重要な位置づけとなっている。各学年に総合的な学習の時間を1時間配当し、3学年を通じてキャリア教育を実施している。

本校は、東京都の高等学校では、公私立を含め、初めてディズニーキャンパスを実施した。1年次の12月に実施してディズニーの「おもてなしの心」を学び、キャリア教育の一助としている。

2年次は、12月にJALアカデミーで「接客の心」を学び、2年間にわたる事前学習を経て、2月に3日間国際ロータリークラブと連携して、2学年生徒全員が、インターンシップを通じて職業教育の「かおり」を体験させていただいている。

3年次は、三者面談実施後、進路指導部と3学年担任団の協力のもと集団面接練習、個人面接練習を経て、就職選考に望んでいる。



住友信託銀行（株）



メルセデスベンツ日本（株）

4 地域との連携

本校は、「地域に根ざしている学校」、「地域に支えられる学校」、「地域に貢献できる生徒を育てる学校」を積極的に推進しつつある。

公共心、社会貢献、規範意識などを言葉だけで教えるのではなく、実社会の中で「奉仕体験」「勤労体験」「生活体験」などの体験を学ぶことは、本校卒業後も必ず役に立つと確信している。

平成21年度の「奉仕体験学習」の事例を掲載させていただく。

- ① 公園の清掃及び樹木の伐採などを通して、地域美化の手伝い
- ② エイズを理解しながら人権教育を学ぶ
- ③ 保育園・児童館の手伝い
- ④ 人に優しいまちづくり
- ⑤ ポスター十条商店街マップ
- ⑥ バリアフリー
- ⑦ 高齢者向けパソコン教室
- ⑧ 障がい者・高齢者の疑似体験や福祉施設の手伝い



十条商店街マップ

上記の体験を通じて、「おじいちゃんの夢」「おばあちゃんから学ぶ貴重な体験談」等は、生徒たちの脳裡に生涯にわたって焼きつくと信じている。

5 おわりに

以上のように、本校では、様々な体験学習を通じて企業、地域、関連諸機関等から多様な学びの学校全体で教えを請うている。紙面を借りて心より感謝申し上げます。

今後も「地域の根ざしている学校」、「地域の支えられる学校」、「地域の貢献できる生徒を育てる学校」であり続けたい。



「総合学科 杉総」のブランドの確立を目指して

東京都立杉並総合高等学校長 三橋 信也

1. はじめに

東京都立杉並総合高等学校は平成16年に開校した東京都では3校目の総合学科高校です。前身は都立永福高等学校と都立桜水商業高等学校で、現在の校舎は旧桜水商業高等学校の校舎を改修したものです。開校2年目以降に入選倍率が急落し、生徒指導に課題を抱える状況に陥りましたが、その後、学校のあり方の見直し、教育課程の一部変更、部活動・学校行事の活発化等により生徒・保護者・中学生の評価も上向き経営が軌道に乗ってきました。総合学科として次の展開が求められる段階に入ったと考えております。

2. 東京都8人目の民間人校長として

私は東京都の8人目の民間人校長として、昨年4月に本校に着任致しました。巷では大学生の就職内定率が記録を取り始めてから最低を記録したとか、大学入学後や就職後に数年で辞めてしまう若者が多いなど、生徒が在学中に抱いていた進学や就職への期待と現実とのミスマッチが生じています。又、若者が海外に出たがらない状況が問題になっています。民間時代の知識と経験を生かし、総合学科という枠組みを生かして、これらの問題に対処できるのではないかと考えています。

3. 基礎・基本の定着

生徒諸君に、高校で学ぶことが社会に出てからどのように役に立つのかを、自らの体験を通して伝えることが民間人出身の私の役割であると考えています。この一年間、学校説明会などで中学生や保護者の方々によく話させて戴いたことに、英語の学び方の話があります。英語は喋れるのが大切と言うことで Oral English が人気ですが、英

語はひとつではありません。私は米国に駐在した後、2007年から2年間インドにいましたが、インド人の英語を理解できるようになるまで随分時間がかかりました。今後、成長すると予想されているのは BRICs や VISTA と呼ばれる、人口が5000万人以上で平均年齢が若く、年率7~8%程度の高い経済成長率の見込まれる国々です。一口に海外と言っても、そういう国に市場があり、そこで活動することを考えないといけないのですが、そこで通じる英語を日本で学習するというわけにはいきません。あくまでも、英語の基礎的な文法や用語を身につけて、行く先々で基礎基本との違いを意識しながら、その国で通ずる英語を体得していくということが必要です。そして、交渉の場においては、たどたどしくても自分の意見をはっきり伝え、理解できないことを理解できないと表明する態度、公の場においては喋るのが下手でも正しい英語を使う姿勢こそ、学校で身につけるべきことではないかと考えます。

4. キャリア教育の充実

生徒諸君に学ぶ意義をよく理解して貰い、自ら学ぶ姿勢を身につけてもらうためにも、高校で学ぶことが将来役に立つことを出来るかぎり具体的に説明すると共に、自らの適性を知ること、在学中に上級学校や就職に関する情報をよく検討し自らの進路について考えを深めることが重要であると考えています。私自身が民間企業と学校経営という全く異なる職業を経験したことで、この思いを強くしました。在学中に自らの進路について考える機会があればより自分に相応しい職業選択ができるし、少なくとも、もっと職業選択について

考える機会があってよいと実感しております。キャリア教育を充実させていくことで、在学中の夢や希望と卒業後に得た職業の実際とのミスマッチを少なく出来るはずです。

5. 国際人の育成

企業でも大学でも海外に行きたがる若者が少なくなることが指摘されています。人口が減少していく超高齢社会の日本が豊かな社会を維持していくためには、市場を求めて海外に出ていくか、海外から人を受け入れて国内の市場を大きくするしか方法はありません。いずれにしても、国際理解教育、国際人の育成は不可欠です。その為、本校では学校経営目標のひとつに国際人の育成を掲げています。オーストラリアのシドニーに姉妹校があり、約2週間のホームステイを隔年で行っている他、多くの国際交流の機会を設けるようにしています。毎年4～5名の在校生が北米、ヨーロッパに留学しますし、海外の留学生の受け入れも積極的に行っています。昨秋にはフランスからの留学生が本校に在学していましたし、現在は約一年の予定でタイの留学生が在学中です。4月からはアメリカからの留学生を受け入れます。言葉が通じにくいなかで、何とかコミュニケーションを図ろうとする姿勢、身近なところに、日本とは異なる文化・考え方をを持った人間と一緒に学んでいるという体験、そして、それに違和感を覚えない感性は国際人育成の第一歩であると考えています。

5. 総合学科として

「杉総」という総合学科のブランドの確立を目指して取り組んでいるのが、総合学科の特徴的な授業、「産業社会と人間」「課題研究」です。本校では、新入生のオリエンテーションから、「自らの興味、関心、進路希望」に基づいて多くの選択科目の中から「自分の時間割」をつくることを学びます。4月の後半の新入生合宿では、本校独自のワークシートを使って自らを振り返るとともに、種々の職業やその職業に求められる特性、技

能、資格等について学びます。中学校を卒業したばかりの生徒にとっては、「遠い先」のことでしょが、自らの興味のある分野や職業などこれからの高校生活との関わりについて、何かを感じ考えることになります。その後も、「職業人インタビュー」や卒業生とのパネルディスカッション、上級学校の授業体験等、常に生徒が進路と向き合う環境を作っています。その成果は3年次の「課題研究」に集約されます。今年度はその成果をAO入試に活かし国立大学をはじめとする四年制大学の合格を早々に決める生徒も出てきました。

6. 重点支援校の指定

本校は平成23年度から重点支援校の指定を受けることができました。上述のように、基礎・基本をしっかりと学ぶことを土台にして、キャリア教育と国際理解教育を2本柱とし、本校の改革スローガンである「生徒の最良の進路を実現する活動力にあふれる総合学科」をめざして取り組みたいと考えております。



ダンス部、東京マラソン



台湾武陵高校の来校



魅力ある産業教育を目指して

昭和鉄道高等学校教頭 菅野育夫

はじめに

本校は、昭和3年（1928年）に「鉄道事業に従事しようとする青少年のための、教育機関」として創設され、以来一貫して鉄道交通を中心とする産業教育をすすめてきた。全国で唯一校名に鉄道の名を冠し、1学年5クラス鉄道科のみを有する高等学校である。

この十数年でいくつかの学校改革を経て現在に至っている。

1科コース制の導入

昭和23年（1948年）新制高等学校として認可されて以来、運輸科・機関科の2科を設けてきたが、平成18年より鉄道科1科とした。1年次は共通履修とし、2年次より営業を中心とした運輸サービスコースと鉄道技術を中心とした運輸システムコースに分けることとした。

2学年からコース制にしたことで、受験生にとって難しかった運輸・機関の選択が授業内容を理解した上での選択となり生徒にとって容易になった。

運輸サービスコースは、駅業務を始め鉄道で必要な知識を学んでいる。「旅行取扱」など観光業にも必要な学習をとり入れ、旅行業務取扱管理者試験等の資格取得にもチャレンジでき、鉄道関連企業やさまざまな業種に羽ばたく力を育成している。

運輸システムコースは、電気系統を学べる工学的なカリキュラムを編成。運転士を目指す者

や技術職を目指す者等に必要な知識と技術部門やメカニカルな分野に生きる力を育てている。

女子の受け入れ

近年、鉄道業界にも女性の進出が目立つようになった。そうした社会情勢を鑑み、平成16年（2004年）、男女共学を実現した。未だ女子生徒の割合は各学年5%程度であるが年々徐々に増加しており今後に期待したい。また、女子一期生も車掌として勤務しており、本校卒業の女性運転士が誕生するのを楽しみにしているところである。

教科としての取り組み

さて、いくつか特色ある授業を紹介したい。1学年で履修する「鉄道基礎実習」は車両の構造や速度制御とブレーキの仕組みを始め、信号や運転規則、安全への心構えを基礎から学んでいる。また、この授業においては実物を用いて学習させようと、運転シミュレーターはJRの社員研修に使われていた機器と同じものを、車両の学習は現東京地下鉄より寄贈された実物の丸ノ内線車輛を使用している。

また「ホスピタリティマインド」という教科では、客と接する鉄道業やサービス業にとって大切な、ホスピタリティ（もてなし）の心を学ぶ。身だしなみや、挨拶の仕方、敬語の使い方など、社会でのマナーを習得し、コミュニケーション能力を高めている。また、この授業をも

とに、ビジネス能力検定取得を目指している。

「旅客営業」では、乗車券や旅客運賃等について旅客営業規則を学び、2 学年での駅務研修に結びつけている。

サービスコースの「旅行取扱」では旅行約款等について学び、総合及び国内旅行業務取扱管理者試験合格を目指している。

ここに、各資格試験の合格人数を示してみる。

年度	ビジネス能力検定 試験合格		旅行業務取扱 管理者試験合格	
	2 級人数	3 級人数	種類	人数
2 2	4 名	1 2 9 名	国内	1 6 名
2 1	3 名	9 5 名	国内	1 5 名
2 0	0 名	8 7 名	国内	1 0 名
1 9	5 名	1 3 9 名	国内	2 8 名

※平成18・20年には総合旅行業務に1名合格

インターンシップとしての取り組み

「駅務研修」は、JRや各私鉄の協力を得て毎年2 学年の夏に4 日間行っている。ホームや改札など実際の現場に駅員として立つことで鉄道への憧れから仕事へと生徒の意識変化がみられる。また、「工場見学実習」は、車両の点検・整備を行う鉄道会社の工場や検修区を訪問し、車両機器や装置、細部の構造などを間近で観察でき機会である。実際の作業と自分の知識とを照らし合わせ車両構造の知識や整備業務への理解を深めている。

進路指導について

近年、工業高校からの進学率も増加しているが本校生徒の9 割は鉄道業界への進路を目指している。そのため、生徒にはきめ細かい就職指導が必要になる。進路資料の作成や効果的な履歴書の書き方、要点をふまえた小論文や作文の書き方などそれぞれの特性を生かした自己表現



方法を確立させることが大切である。また、就職試験での面接を想定した練習や事前指導なども大事にしている。より実践的な進路指導を行うことで就職率アップを目指している。

まとめ

現在、鉄道は高い旅客輸送量を有し、利便性が高いため、首都圏の経済活動に鉄道は不可欠である。首都圏の鉄道各社は、鉄道業を中心とする一方、鉄道利用者や沿線住民の生活に関する様々な関連事業を展開している。このように鉄道企業が生活総合産業へと変貌していく中で、専門分野の知識を習得することはもちろんのこと、関係する人々と協力関係が築ける幅広い視野と豊かな人間性が求められる。自らの将来を切り開く力、人間としての力の養成が本校に科せられた課題である。

過去5年間就職状況

	鉄道関係 の就職者	全就職 者人数	就職者のうち、鉄道関 係の占める割合(%)
平成22年度	141	153	92.2
平成21年度	136	145	93.8
平成20年度	181	183	98.9
平成19年度	198	200	99.0
平成18年度	191	195	97.9

「魅力ある産業教育を目指して ～各校・学科の取り組み～」

安部学院高等学校校長 安部 元彦

【はじめに】

東京都北区にあります安部学院高等学校です。本校は、昭和15(1940)年4月に「滝野川第一商業女学校」として、安部元章により創立されました。

昭和19年(1944)に「滝野川女子商業学校」と改称しました。

昭和25(1950)年9月に、現在の北区栄町35-4へ移転し、「安部学院高等学校」と改称。現在に至ります。

今年度平成22年度に創立満70年を迎え、平成22(2010)年6月に教職員と在校生とともに、構内に於いて「創立満70年記念式典」を挙行了しました。

平成23年3月の時点での卒業生は、14,084名を数えます。

【挨拶の励行】

初代校長・安部元章、二代校長・安部恵一は、「学業成績は悪いよりは良い方が良いに決まっている。でも、社会に出たら、学校での成績よりも、もっと大事なものがある。それは気持ちの良い挨拶です。」と、常日頃から言っていました。

私立学校はそれぞれに建学の精神を持っていますが、本校では「5つの挨拶」を人間教育の中に取り入れています。

人と会ったら「おはようございます」と言えること。人と別れる時は「さようなら」を言う。何かして頂いたら、「有り難うございます」が言えて、自分が間違ったら「ごめんなさい」を言えること。名前を呼ばれたら、「はい」と返事が出来ること。

この「5つの挨拶」は簡単なことのように思えますが、実際に声に出してみようということは意外と難しいようです。

本校でも、教職員一丸となって挨拶の指導に力を入れていますが、3年かけて何とか「挨拶の出来る生徒」を育てたいと願っています。

【資格の取得】

本校は商業高校ですので、他の商業高校と同じように必然的に「検定・資格の取得」ということが出てきます。

本校へ入学してくる生徒の多くは、算数・数学や英語に苦手意識を持っています。

初代も二代目も「評定2という成績は、勉強が出来ないのではなく、やっていないだけ。頑張れば、理解できるし、成績もきちんと取れる。」とよく言っていました。

そこで、まず基礎的な部分を復習し、苦手意識を無くすようにしています。その中から「やれば出来る」という気持ちが生まれてきます。

そして、簿記・電卓などの公の検定を取れるようになると、生徒は「やれば出来る」という自信を強く持つことが出来るようになります。

せっかく商業科の学校へ入学したのですから、「1つでも多くの資格を取ること」「1つでも上の級の資格を取ること」「1人でも多くの生徒が合格すること」を目標として、資格の取得について頑張らせたいと考えています。

今年度を実施した初めての取り組みとして、「秘書検定」があります。

第2学年の教員から発案があり、2年生が11月と2月の2回受験しました。

敬語・言い回し、ビジネスマナー、接遇、書類(ファイリング、文書作成、グラフの読み方、書類のまとめと渡し方)、冠婚葬祭での服装など、内容はとても広範囲に渡りますが、教員も熱心に指導し、生徒も一生懸命に講習を受けました。

生徒には、「資格の取得」ということを通して、大きな自信を持ってもらいたいと願っています。

【上級生から下級生へ】

例年、3年生の卒業試験が終わった後の2月中旬に「3年生からの進路報告会」を実施しています。

これは、就職や進学を決めた3年生が、進路決定に至るまでに経験したことを、2年生へ伝えるものです。

成功談は勿論ですが、失敗談や反省点も含めて、次に控える下級生たちへアドバイスをします。

「進路報告会」は、実施して10年ほどになりますが、話す側の3年生の代表生徒には、原稿作りや発表という面で良い経験となります。

また、聴く側の2年生にとっても、年代の近い上級生からの実体験に基づく話を聴くことは、普段の教員から受ける指導とは違う面があり、3年生の話を真剣に聴く姿が印象的です。

【最後に】

本校は、決して規模は大きくない、ちぢまりとした学校です。

創立者の思いを引き継いで、社会で役立ち活躍する人材を1人でも多く育てていきたいと願っています。

最後になりますが、東京産業教育振興会、そして関係する企業・団体・学校の益々のご発展をお祈り申し上げます。



創立満70年記念式典



「地域密着型実践教育」の取り組み

中央工学校 建築系 学科長 浜野 和孝

1、はじめに

中央工学校（北区王子）は明治42年に創立され、建築・機械・電気、翌年には土木を加え4学科による工業専門学校としてスタートしました。平成21年10月21日に100周年を迎え、送り出した卒業生は10万人を超え、各方面において活躍しています。その中で、建築系は2年課程の建築設計科をはじめ3、4年課程の学科も合わせ8学科を有し、建築・インテリア・設備の専門教育を行っている部署です。

2、地域密着型実践教育の導入

地域密着型実践教育は、平成15年度に「文部科学省専修学校先進的教育研究事業」の一つとしてスタートしました。

「地域ブランド確立のための建築デザイン・コンペティション」として、地元工務店振興の為に、学生の若い感性に溢れた自由な発想のデザインソースをコンペティション（競技設計）により集め、データ化し、同時に提供することを目的に以下の取り組みを行いました。

- ①「深川の町家」下町における地域に愛される小住宅の提案 東京都江東区
- ②「日立における地域ブランドの提案」 茨城県日立市
- ③「三河足助町における地域ブランドの提案」 愛知県豊田市

3、平成16年度から17年度までの取り組み

平成16年度からは、地元産業の振興を目的に行政及び近隣商店街等と連携して、地域の活性化を目的とした、提案型授業を実施し、毎年様々な提案を行ってきました。平成16年度から17年度の取り組みは以下の8つです。

- ①「足助町を活性化する方法としての建築提案」 愛知県豊田市
- ②「地域活性化のための住まいつくりの提案」 足助町足助川河岸における住まい方の提案 愛知県豊田市
- ③「王子の商店計画」Shop Design in 王子 - 王子・森下通り商店街における活性化の提案 - 東京都北区
- ④「軽井沢の家」～古宿の里計画～ 長野県軽井沢町
- ⑤「歴史ある王子銀座商店街を学生達が現代的にアレンジ」 東京都北区
- ⑥「森下通り商店街活性化計画」女子学生の目から見た商店街の問題点改善への提案 東京都北区
- ⑦「昭和の飲食街のもつ雰囲気を活かしつつ、さらに公共性の高い施設を提案」 東京都北区
- ⑧「子供たちを“ショッピングロード”によびこむアイデアで商店街の活性化を提案」 東京都北区

4、平成18年度から21年度までの取り組み

平成18年度以降も10か所に及ぶ地域に密着した様々な提案を行ってきました。なかでも北区商工会議所、北区商店街との連携による商店街に対する提案では、学生の若い感性による自由な発想に対し、店主の方々などから「思いも付かなかった。若者の柔軟な発想は、これからの商店街に必要なものだ」といった感想をいただきました。

この取り組みは、地域の振興と共に学生の実社会に対する教育訓練の役割も、あわせ持っています。実社会とのふれあいを通して学生の社会性を育成す

ることにも役立っているのです。また、これらの取り組みは産学協同の新しい提案として、NHKのTVニュースや読売新聞など各種新聞にも取り上げられました。

5、平成22年度の取り組み

「地元産業の活性化を教育的見地から提案実施する」というコンセプトをもとに、「西日暮里 冠新道商興会」リニューアルプラン、「王子本町2丁目商店街」リニューアルプラン、「M邸住宅新築工事計画案」の3つについて取り組みました。

その中でも「西日暮里 冠新道商興会」は荒川区西日暮里にある冠新道商興会（商店街）の6店舗に対しリニューアルプランの提案を行ったものです。作品制作の流れを追ってみます。

① 現地調査

学生は1班4名～6名くらいのグループに分かれて各店舗に赴き、店内の採寸、什器の位置の確認を行い、店主から改装にあつての要望や問題点などを聞き取り調査します。

② データ整理

各店舗から持ち帰ったデータをもとに正確な平面図と壁の状態が分る展開図を描きます。また、店主からの要望や問題点を整理しておきます。

③ 発想のまとめ

デザインをどうするのか、学生と教師とのディスカッションにより方向性を決めていきます。店主からの要望や学生の発想を生かしたリニューアルプランを考えます。

④ 発表用ボードの作成

出来上がったプランをもとに、正確な平面図や展開図を描きます。素人にも分かり易くする為に店内を3D(立体)にした完成の予想図なども描きます。また、おおよその金額が分るように見積書も添付します。これらをまとめて説明する為のボードを作成します。

⑤ 現地プレゼンテーション

出来上がったボードをもとに、現地へ赴き店主に提案内容の説明をします。



リニューアルプランを店主に説明



店主との記念写真

6、学生の感想

「この課題は、グループでの協力がとても重要でした。打合せや現場調査に何度もお店に通ったり、苦労することが色々ありました。しかし、作業が進むうちにメンバーと協力し合うことで逆に作業が順調に進むようになり、協調性や思いやりの大切さに改めて気づきました」と実社会での協調性の大切さを実感できたようです。

7、まとめ

平成15年から始まった地域密着型実践教育は、回数を重ねるにつれて着実にその成果を上げてきました。しかし、最終的な成果としては、提供した学生のプランをもとに新築または改装に至ることですが、いまだ実現には至っていません。今後とも、さらに充実した地域密着型実践教育を目指し、この提案が少しでも地域振興に役立つことを念頭に置き授業展開を図っていきたく思います。



「対外的活動を通じたキャリア教育」

— 「技能五輪全国大会」と「産学連携」の事例より —

日本電子専門学校 校長 古賀 稔 邦

1. はじめに

日本電子専門学校は、1951年、東京都新宿区に創立した工業系の専門学校である。電気・電子、IT、ゲーム、CG、デザイン、アニメ、ミュージックといった分野に、昼・夜間合わせて30学科を設置し、創立以来、一貫して職業教育を行ってきた。

近年、我が国の高等教育段階における大きな課題として、キャリア教育の充実がある。平成23年1月の文部科学省中央教育審議会「今後の学校におけるキャリア教育・職業教育の在り方について」の答申のなかでも、その点が指摘されている。若者の社会的・職業的自立に向けた基礎的・汎用的能力の涵養が、キャリア教育の中核を成すものである。基礎的・汎用的能力とは、①人間関係形成・社会形成能力、②自己理解・自己管理能力、③課題対応能力などであるとされている。本校ではこうした能力を、大会・コンテストへの参加や産学連携といった対外的活動を通して、養うことを教育方針の一つとしている。ここでは、その事例として、技能五輪全国大会への出場と産学連携の事例を報告する。

2. 技能五輪全国大会への出場

技能五輪全国大会は、中央職業能力開発協会が開催する、青年技能者の技能レベル日本一を競う大会である。出場するためには、予

選会で優秀な成績を収めなければならない。ここ数年、本校からは、ウェブデザインとITPCネットワークサポートの競技に連続して出場している。

特にWebデザイン科では、この技能五輪全国大会への出場を学科運営の柱の一つと位置付けている。平成22年第48回大会では、6名の学生が予選を通過し、全国大会に出場した。この競技は、大会約3週間前に公表される課題に応じて、大会当日の競技時間内にWebページを制作し、審査員にそのプレゼンテーションを行うというものである。デザインの技能とプログラミング技能に加えて、プレゼンテーション能力が求められる。Webデザイン科は、主にデザイン的な技能を学ぶ学科であるため、大会に向けてはプログラミング技能のレベルアップを図らなければ、高成績は残せない。そこで、ウェブプログラミングを専門に学ぶオープンソースシステム科と連携し、オープンソースシステム科の学生等により、Webデザイン科の学生へのプログラミング技能を鍛える指導が連日放課後に行われた。また、前年の同大会に出場した経験のある学生等による企画案やプレゼンテーションの指導、選手の精神的ケアや当日のサポートを行う学生達などと、参加選手を中心にチームとしての活動が行なわれた。

第48回大会は、10月に神奈川県で行われ、

ウェブデザイン競技には全国から20名の選手が出場し、その技能が競われた。本校学生の結果は、金賞、銀賞、敢闘賞を受賞することができた。



写真1. ウェブデザイン競技受賞式
(本校の学生：左から敢闘賞、銀賞、金賞)

3. NEC との産学連携

高度コンピュータグラフィックス科では、平成20年より、NECディスプレイソリューションズ株式会社（以下：NEC）からの依頼を受けて、NEC製プロジェクタを使った映像コンテンツの制作を行っている。

NEC側から作品の企画（テーマ）が提示され、それを学生が制作し、NECが主催する展示会に出展する。これまでに制作した作品のなかには、NEC製プロジェクタと合わせて実際に販売された実績もある。

作品のテーマは、インタラクティブ性のあるもので、単なるCG映像制作だけでなく、プログラミングも必要な高度な技術が求められる。平成22年度の作品は、「空飛ぶ魔法のジュータン」というタイトルで、ジョイスティックを操作することで、3D立体視により渋谷の町を魔法のジュータンで飛び回るといった仮想現実を体感できるインタラクティブ作品である。

制作には、CGプログラム担当5名、CGデザイン担当4名、NEC職員、本校教員か

ら成るプロジェクトチームが構成された。制作期間は1ヶ月で、完成までの間に、各担当者間で多くの打合せが繰り返された。展示会への出展に向け、学内での課題とは違う高い緊張感があった。展示会では、来場者への説明も学生が担当し、好評を得た。



写真2. 実演中の空飛ぶ魔法のジュータン

4. まとめ

大会参加や産学連携といった対外的活動は、チームを構成して取組んでおり、メンバー間の人間関係形成が必須である。また、明確な期限・目標があり、それに向けて自己管理能力や課題対応能力が求められる。専門職大学院などで行われているPBL（Project Based Learning）と類似した点もあるが、PBLは学生の側に立てば、単位取得が主目的の疑似体験的な授業の一形態であり、本校の取組みはそれ以上にリアリティのあるものである。

本校では、基礎的・汎用的能力の涵養を図るキャリア教育の一環として、様々な対外的活動の機会を設け、学生の参加を奨励している。しかし、参加は基本的に学生の自由な意思に任せられ、積極的に参加する学生もいれば、そうでない学生もいる。今後は、在学中の対外的活動への参加の有無が、卒業後のキャリア形成にいかに関与するかといった点も、卒業生調査などを通して確認する計画である。

役に立ちたいという気持ちを大切にしよう

—「職場体験」や「リトルティーチャー」を通して—

練馬区立上石神井中学校長 小野 雅保

キャリア教育の大切さを述べるにあたって、恐縮ですが、はじめに、本校の学校だよりの「一部」を二つここで紹介させていただきます。

1 希望を持つこと

8月の最後の週には、2年生の職場体験がありましたので、「希望する職業」についてお話いたします。職場体験をした生徒たちの感想の中には、次のように真剣に取り組んだ姿が多くみられました。「小さな頃から、自分から相手に伝えることの大切さを学びました（保育園）。」「華やかに見える仕事でも、いろいろな苦勞があり、努力が大切だと実感しました。（美容院）。」「契約を結ぶためには、お客様に好感をもってもらうことが大切だと知りました。学校ではなかなか知ることのできない社会でのきびしさ、楽しさ、やりがいを今回学ぶことができました（銀行）。」など、働くことの意義や役立つことの大切さを実感した感想がとてもたくさん見られました。

さらに、職場体験を受け入れていただいた方々からのアンケートの中でも、「熱心に取り組む、素直でした。指示されたことをしっかりとやり遂げる努力をしていました。一生懸命に仕事をして、てきぱきと動き、笑顔とあいさつがよくできました。夢中になって仕事をしてとても好感もてる生徒たちでした。お客様からの評価も良いようでした。来年も喜んで受け入れます」など、本当に多くのありがたいご意見をいただき感謝しています。

働くことについては、ある調査によると、「小さい頃に、希望する職業を具体的にもっていた人のほうが、もっていなかった人よりも、やりがいのある仕事に就いている」との結果が出ています（東京大学社会科学研究所の調査）。このことは、思春期に、将来についての希望をもつことの重要性を示していると思います。大切な点は、その「希望」に向かって、自分で最大限の努力や工夫をして社会の中で主体的に一生懸命に行動することだと思います。また、やりたいことをもつこと自体に意味があるともいわれています。将来、子どもころに希望したとおりの人生を歩むことはとても難しいけれど、やりがいのある人生を送ることは可能です。

希望をもつことで、自分で努力をして一生懸命に行動すること。行動することで自分に本当に向いていることや、社会で役に立てそうなことが見えてきます。

だから、ぜひたくさん希望をもって、走り始めてほしい、そう願っています。

2 リトルティーチャーからの学び

7月4日の金曜日、2年生は、上石神井小学校で、「リトルティーチャー」を行いました。事前に、上石神井小の先生方と打合せを行い、役割をしっかりと果たしてくれ立派にできました。今回は、リトルティーチャーについてお話いたします。

当日、リトルティーチャーが始まる前に、

体育館で担当の先生からの説明がありましたが、生徒たちは、1～6年生の各班を、一人で1班ずつ任されるためか、かなり緊張していました。それでも、授業が始まると、小学生の子どもたちの元気さに圧倒されながらも、優しい表情で一生懸命に教えていました。小学生から「字がきれい」「正しい言葉遣いをしている」など、あこがれのまなざしで見られていたようです。また、小3のクラスでは、生徒たちは、アルトリコーダーを演奏したりして教えていました。ここでも、尊敬のまなざしで小学生は見ていました。

さらに、小4のクラスで英語で自己紹介をすると「中学生ってすごい」というつぶやきも聞かれました。小5・6の家庭科のボタン付けや縫い物にしても、作業をしながら丁寧にやり方を教えていました。小2の絵本の読み聞かせは、小学生が身を乗り出して聞いていて、とても素晴らしい光景でした。そして、終わりに小学生に向かって「お話をよく聞いてくれてありがとう」と言うと、小学生たちも「ありがとう」とお礼のあいさつを受け、中学生も優しく会釈をしていました。

生徒の感想に、「最初、笑顔を作ろうと考えていたけど、小学生がなごやかなふんいきで笑わせてくれてリラックスしてできた」「小学生も小学生なりに気をつかってくれたことがとても嬉しかった」など、初めて会う小学生からの温かな思いやりに接してホッとした様子が見受けられました。また、「先生ってすごく大変。でも小学生から元気をもらった」と、人に教える楽しさが感想から伝わってきました。一方で、「小学生の無邪気さに本当に救われた。ひたむきにがんばる小学生を見て、もう一度ここで授業をしたいと思った。小学生の前に立って授業をするというこ

とは、彼らの人生の一部をつくっているということ。そんな思いで一步大人になった気がする。」と自分が教えることの認識を深めた生徒もいました。

「自分が一生懸命教えれば、相手も一生懸命やってくれる」「大きな声で笑顔で接すれば、どんな子でも、みんな笑顔になれる」と、自信をつけた生徒もいました。このリトルティーチャーの経験を通して「お互いに、気持ちを受け止め、伝える」とても良い交流体験ができました。

これらの「職場体験」や「リトルティーチャー」の体験から分かったことは、中学生にとって、「誰かのために何かをしよう」とすると意欲が湧いてくるもの。感謝されたり、人から認められたりすることも中学生にとって、とても大きなエネルギーになるものだということ。ですから、私は、希望の実現に向けて役立つ喜びを体得し、積極的によりよい人間関係を築こうとする生徒を育てるためにも、キャリア教育をさらに進めていきたい、そう強く思っています。

東京の産業界



真のものの作り人材育成の大波を

株式会社ムトーエンジニアリング 前川 善太郎
代表取締役社長

1: はじめに

当社は、東証一部上場、「MUTOH ホールディングス株式会社」の関連子会社として、産業教育界、各種産業界にてドラフター・平行定規等の“手描き製図機械”“2D・3D-CAD システム”等のお取引を通じ、貢献させて頂いております。MUTOH は 1953 年に、我が国初のアーム式（ベルトプリー機構）製図機械『ドラフター』を世に送り出しました。《この 1 号機は、2007 年に日本機械学会より『日本の機械遺産』に選ばれました》以来、CAD 時代の走りである大型自動製図機械や PC-CAD、CAD 出力デバイス等を開発し、常に各種産業界・産業教育界の発展と共に成長して来た企業であります。

現在、手描き～2D・3D-CAD～2D-3D 出力デバイスまでの製品アイテムを持った企業は唯一と自負しております。その他に、弊社では、デジタルカウンターやエンコーダー等の計測機器、更には各種 LED 製品を中核とした、環境関連機器を取扱い、幅広く産業界にウイングを拡げております。

2: 産業界の声と期待 “創造力” の向上

企業の設計部門から『新しい発想が生まれず、発想が貧弱』と言った声が、頻りに聴かれるようになって 10 年以上が経過しました。建築分野では『新しい発想以前に、建具が納まらない現場図面が出るようになった』、製造分野では『全体図と部品図の連携が旨くない』等々、産業界の現場を歩いて、様々な嘆きの声を聴きました。また最近では『新卒の人に図面を見せたら、全く読めず、とても設計や開発を担えない』といった

“創造力” が極端に落ちているとの切実な声も聴かれるようになりました。

一方、あのリーマンショック前年までに、自動車関連の大手会社に一斉に、手描きの製図機械が導入されました。この CAD の時代に不思議な現象でした。また、去年は国内の工業高校・大学に、近年に無い数量の手描き製図機械が導入され、海外では台湾一国に約 400 台弱の製図機械が導入されました。調べて見たところ、日本国内も台湾も、CAD 偏重教育のマイナス面が出て、“創造力” が極端に落ちている現象があり、強化施策の一環として国家予算が付いた事がわかりました。今後も、このような動きは続くと思われま

す。これは今、産業界では“創造力” の向上、本物のものの作り人材が求められております。学校を卒業しても、肝心の“創造力” の基本が出来ていなければ、それを補う為に企業内で、製図・工学の再教育の必要性が迫られている証左であると思

3: 教育現場の現状と今後

昨年度行われた、小中学校の全国学力テストの結果によると、小中学校の生徒の中で、もの作りの基本である、図形認識力が数年前と比べ、更に落ちている事が鮮明となりました。

これについて、桜美林大学の芳沢教授は『授業時間の削減から、図形を表す式は教えても、実際の図形を思い描ける様な指導まで手が回らなくなっている。子供達が空間図形を認識する力を育てる積み木や、あやとり等の遊びも減った』と話されています。

これは私の私見ですが、生まれた時からデジタ

ル社会の中に放り出されている今の環境下では、この様な現象は当然であり、教育界への警鐘であると思います。更に大きく捉えれば、現在の数々の社会的事件の影には、デジタル社会の闇があると思わざるを得ません。人の痛みや、一人の人間の背景に隠れた内容を読み取れない人間がつくられた一因があると思います。死んだ者が、簡単に生き返るバーチャルゲームはその顕著な例であり、そこからは人の実際の痛みは感じ取れません。教育の抜本的な改革が必要だと思います。

実際、中学校の現場で技術家庭等の科目は、ほとんど姿を消しています。また、一部の高等学校や大学ではCAD等の操作を含む情報教育に力を入れる余地、製図や図学の時間数を減らす動きが数年前に多くありました。

更には大変残念な事であるが、工・商業などの産業教育専門高校は普通科に行けない生徒の受け皿化した時期も、我々は経験している。その結果の延長が、先に述べた企業の声に象徴される通り、もの作りの基本的な思考や創造力が、極めて落ちてきている事に繋がるわけであります。

産業教育の復興が叫ばれる中、手描き授業を止めた学校が再び、製図機械を導入し、もの作りの基本の図学に力を入れ始めている事実も、私達は目の当りにしています。ITの先端を行く、つくば大学でも、数年前に手描き製図機械を導入すると共に、模型工作や手を使った製作物の学習時間も復活して来ており、文部科学省の教育政策にも、職業人を意識した教育を初等中等教育方針に盛り込み、産業教育を基本から見直していく動きがはっきりと出てきているのは、このような現状から考え当然であり、真に悦ばしい事であると思います。

4：“楽”から“楽しい”へ

昨年、都立科学技術高校の巽校長先生（全国工業高等学校長協会理事長）にお話を伺う機会がありました。期間中に作る教材を与えてサマーセミナーを開催したところ、教材と格闘する中で、楽しくその目が生き生きと輝き、親御さんも大変喜んでいたとの話しをお聴きました。

やはり、もの作り教育の根本はここにあると思う。一時ゆとり教育が叫ばれましたが、その結果、そのマイナス面がクローズアップされ、今反省が始まっている。先生も生徒・学生も楽をしては、本当の基礎は身につかない！私達はIT社会、デジタル社会の中で大切な物を忘れて来たのではないだろうか？生まれてからすぐ目の前に勝手にデジタル情報が入って来る、その洪水に流される事無く、物を考え、想像し、苦勞し作り上げる喜びを、その喜びの中で得る独自の技術や楽しさを教え、身につけさせる事こそ、産業教育の使命であります。教師も生徒・学生も“楽”を追ってはいけない。時代が変わっても教育の基本は、苦勞しその中から“喜び”“楽しさ”を教え身につけさせる事であると、私は強く思います。

5：真のもの作り人材育成の大波を

今、大学の中にも『工房教育』なるものが登場しています。入学時から物作りの基本から入り、卒業までに匠の技を身につけさせるというものです。極端な先生は、「学校教育にCADは要らない」とまで言う先生もおられます。これも、産業界からの声や実態を知り、物作り教育を真剣に考えられての事と思います。要は、学校教育の中で、手描きで考える力をしっかり養い、2D-CAD・で便利さを学び、3D-CADで解析を体験し、実際の出力物（製作物）を作成する中で、喜びと創造力をどう養い、力を持った真のもの作り人材を産業界に輩出していくかが問われているのだと思います。

産業教育の復興が叫ばれ、産業教育のレベルが上がってきている今、手描き製図機械から、2D、3DCADシステム、そして各種出力デバイスまでをトータルに扱う国内唯一の企業として、その使命は大きいものと自覚しています。今後は、このような教育ツールのみならず、実際にももの作り人材として身に付けるべき技術を楽しく学べる教材の開発にも力を入れ、もの作り人材育成の大波をつくる一翼を担っていきたくと念願しております。



「歯車を育む、人を育む」

—ニッチな分野で一流になる—

株式会社チバダイス 代表取締役 千葉 英樹

1. パイオニア精神

歯車というと外からは見えない、地味な存在に思われますが、動力を伝達するという意味においては紀元前より非常に重要な役割を担ってきました。当社では金属からプラスチックまで多様な材質の歯車やその金型を作っています。大きいもので手のひらサイズ、小さいものだと埃のような極小歯車は自動車、OA 機器、医療関係などで使われています。その中で世の中になくものを創造し、社会に貢献することを目指しています。これは「パイオニア精神」と呼ばれ社内の合言葉のようになっています。当社の企業理念である「歯車を育む、人を育む」に基づくこのパイオニア精神を維持するには、技術力向上と人材教育が欠かせません。そんな当社の取り組みをお話させて頂きます。

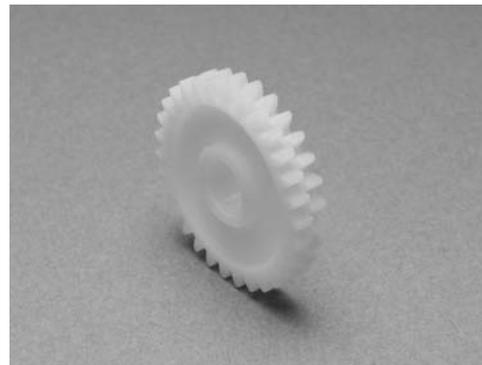
2. 歯車を育む

当社の設立は昭和41年(1966年)ですから、まもなく45周年を迎えることになります。「歯車を育む」というパイオニア精神の由来については私の祖父の時代に遡ります。祖父は戦前、時計の技師として精工舎に勤務し、昭和11年(1936年)には歯車製造の会社を始めました。数々の発明を行い、よく知られるものとしては「ダイヤルノギス」があります。現在はデジタルが主流ですが、このモノを挟み込み寸法を容易に知り得る測定具は、後の製造業に大きく貢献したといえます。

当社の創業者である父は切削加工されたアヤメローレット、「チバレット」を発明しました。こ

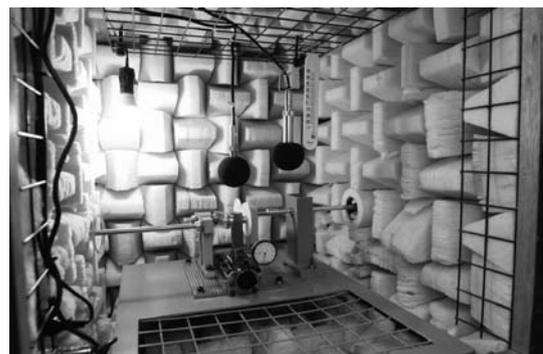
れは製品形状の穴があいたダイスに丸棒を通し、切削しながら引き抜いていくCD加工による製品です。自社ではダイス作りに専念しましたが、この製品は主にアジア諸国で生産され、世界中で使われています。

その後も当時青山学院大学の武士俣貞助研究室との産学共同開発製品である、低騒音プラスチック歯車「ノブシクギヤ」など、世の中になく歯



二つの平歯車が一体化した「ノブシクギヤ」車やサービスを提供し続けています。このような伝統を受け継ぐことは容易ではありません。社内では開発を後押しするさまざまな取り組みが行われています。

埼玉県八潮工場に併設するPGS(プラスチック・ギヤ・システム)研究所は世界でも珍しい、歯車のトライボロジーを扱う研究所です。



「PGS 研究所」騒音試験

青山学院大学を退官された武士俣貞助氏を所長として招き、プラスチック歯車同士、または金属歯車との耐久、強度、騒音試験などが行えます。委託研究はもちろん、新しい歯車の開発を目指しています。

そのほかに独自の「提案制度」があります。日常業務の中での気づきや、本格的な開発まで用紙にアイデアをまとめると、内容に関わらず報奨金がでます。“通路の段差をなくそう”という日常の安全対策から自動加工機の開発まで、多くのアイデアが現在の会社を支えています。また従来にはない金型構造を提案しお客様に大変喜ばれたこともあります。

「チバ大学」は歯車を基礎から大学レベルまで学べる社内の学校です。



「チバ大学」授業風景

武士俣所長は実際に最近まで大学で教鞭をとられていましたので、本格的な指導が社内で受けられるメリットは大変大きいものがあります。上級編になりますと幹部社員でもかなり手こずり、全員が卒業できるわけではありません。もちろん卒業試験や追試もあり、卒業生には卒業証書が授与されます。

3. 人を育む

創業当時は求人難であり、つてをたどって何とか採用した若者を、ニッチな業界の中であっても何とか一流と認められる人間に育てたいという思いが、「人を育む」と表現され、現在まで受け継

がれています。これは仕事だけではなく、人間性を養うことも目標にしています。まず入社すると挨拶の仕方から指導します。これがしっかり出来ると、成長のスピードが増すように思えます。人間関係が良好に成り、社内に限らずお客様からも「育ててやろう」というありがたい言葉をいただくことがあります。靴のかかとをふまない、ポケットに手を入れないなど当然と思われていることも口うるさく指導します。前述したように決して恵まれた採用が出来なかった創業時からの伝統で、「社内で一から指導すれば良し」の精神が受け継がれています。

また社員のモチベーションを維持していく目的で、年に3回の面接があります。そこでは技術者として、人としての目標や達成度等を確認し、フォローしていきます。また風邪で寝込んでいる社員を迎えにいき、病院まで付き添うような昔ながらの家族的な色合いも多く残っています。昼休みには屋上のフットサルコートで20代から60代までの社員が一緒になって汗をかいています。このような現在では敬遠されかねない密接な関係を築き人間性を高めあっています。

4. これから

最近一流といわれる大学生のグループが見学にやってきましたので、質問をしてみました。“海外にどんどん仕事に出て一旗あげたい人はいますか？”大半が男子学生でしたが、ほぼ全員が下を向き、唯一手をあげたのは女子学生でした。この傾向を最近いろいろな場面で感じます。我々の人を育む仕事は今後ますます増えそうですが、産学で情報交換をしつつ、よりよい仕組みづくりをしていけたらと考えています。

情報スクエア



第8回創造ものづくりフェア in TOKYO

東京都中学校技術・家庭科研究会事業部長 情野 政彦
目黒区立第九中学校長

創造ものづくりフェア in TOKYO は、東京都内の中学校に通う生徒が、技術・家庭科の学習で身につけた、ものづくりの技や知識を競い合い、ものづくりの意義を理解するとともに、互いの創造性を伸ばす場として開催している。その概要は、以下の通りである。

1. **主催** 東京都中学校技術・家庭科研究会
2. **後援** 東京都教育委員会
東京都産業教育振興会
東京都中学校長会
毎日新聞社
3. **日時** 平成22年11月13日(土)
平成22年11月20日(土) 食部門
4. **場所** 東京都立工芸高等学校
女子栄養大学(食部門)
5. **対象者** 都内中学校に通学する中学生
6. **内容**
 - (1) 全国中学生創造アイデアロボットコンテスト東京地区予選(授業内部門・応用部門)
 - (2) めざせ!!「木工の技」チャンピオン東京地区予選
 - (3) 「豊かな生活を創るアイデアバッグコンクール」東京地区予選
 - (4) 「あなたのためのおべんとうコンクール」東京地区予選
 - (5) 生徒作品コンクール東京地区予選
 - (6) 東京都中学校ロボットコンテスト(スプリッター部門・スラローム部門・格闘部門)
 - (7) ホームソーイングを体験しよう

7. 開催へ向けて

去年は、新型インフルエンザによる影響で参加校の減少や開催も危ぶまれたこともあった。しかし、東京都立工芸高等学校の校長先生をはじめ諸先生方の多大なご尽力をいただき、開催会場を東京都立工芸高等学校で実施できたことは、創造ものづくりフェア in TOKYO の回を重ねていく上で大切な実績であった。今年は、その実績を踏まえながら会場の下見・機材の搬入等について副校長先生をはじめ諸先生との打ち合わせが順調に進んだ。また、作品展の搬入でも十分にご協力をいただきながら開催へ向けての準備を進めることができた。ただ、昨年同様、関東甲信越大会の開催との都合で食部門の「おべんとうコンクール」(女子栄養大学)と同日開催とすることができなかった。

去年、準備不足もあり家庭科分野の「アイデアハーフパンツ」「ホームソーイング」については、申込者が少なく実施できなかったことから、再度各地区に呼びかけ、実施については、申し込み状況を見ながら進めることにした。

生徒作品コンクールは、作品の搬入・搬出での負担もあり作品数も限られた。この課題を改善しようと「公立学校美術展覧会」の会場から作品を工芸高等学校へ搬送できるよう進めた。

開催のスタッフは、東京都中学校技術・家庭科研究会事業部員を中心に工芸高等会場32名、女子栄養大学会場で24名の体制で準備を進めた。

8. 開催結果

今年の参加生徒は、作品コンクールの作品が増

えたこともあり、見学の保護者を含めると1,200名を超えた。その内訳と各部門の内容は次の通りである。

＜関東甲信越大会に向けての予選大会＞

○「創造アイディアロボットコンテスト」の授業内部門：17.5時間程度の技術・家庭科の授業での取り組みを想定して、モーター3個



授業内部門の競技会場

まで使用したロボットでゴミをかき集める早さを競う1対1の競技。112名の生徒が参加。応用部門：モーター4個まで使用した大型のロボットで、垂直の壁のピンに置いたピンポン玉とゴルフボールを所定の場所に移す早さを競う1対1の競技。116名が参加した。

○決められた木工具を正しく使用し、寸法通り正確に作品を製作する「木工の技チャンピオン」には19名参加。



木材を加工中の生徒

○「生徒作品コンクール」には、技術分野が91作品。家庭分野が71作品の出品があった。

○「あなたのためのおべんとうコンクール」は、レポートと写真の審査応募が162チーム427名。当日の参加は20チーム54名が参加した。



「おべんとうコンクール」東京地区予選（女子栄養大）



○「豊かな生活を創るアイディアバッグコンクール東京地区予選」4校 8名の参加であった。

＜東京都ロボットコンテスト＞ モーター2個

◇東京都独自として実施したロボットコンテスト

は、格闘型のロボットが主流になっている。2足走行のロボットへの参加が少なくなっている。

「スプリンター」部門は、スタートからゴールまで1.2mの距離をどれだけ速く通過できるかを競うもので3チーム4名の参加。「スラローム」部門は、迷路をスタートからゴールまでどれだけ速く歩かかを競うもので5チーム7名が参加した。

「格闘部門（団体戦）」は、900mm×900mmのリングで1チーム3台（先鋒、中堅、大将）の2足歩行ロボット同士が戦う競技である。2勝した方が勝ちになる。引き分けの場合は代表戦で勝負を決める。69チーム 197名が参加した。

◇「ホームソーイングを体験しよう」は、昨年まで競技制にしていたが参加者が少なく実施できない状況が続いていたので、基礎縫いやボタン付け等を（エプロン）製作をしながらソーイングを体験する内容に変更したが、周知不足のためか参加申し込みが少なく実施できなかった。

9. 成果と課題

全国大会につながる部門は、参加者も安定しており、東京都の中学生の技術・家庭科に対する関心・意欲を喚起し、関係諸機関等の本教科に対する認識を深められたと捉えている。

課題としては、東京都ロボットコンテストの「スラローム部門」「スプリンター部門」。被服の「ホームソーイングを体験しよう」については、新学習指導要領の内容にも十分対応できるものであり周知も含めて改善する必要がある。

開催会場の東京都立工芸高等学校、女子栄養大また、東京都教育委員会をはじめ、東京都産業教育振興会、東京都中学校長会、毎日新聞社から表彰状をいただいたことも、フェアの盛り上がりと充実結びついており感謝申し上げる。

第20回 全国産業教育フェア 茨城大会

— 見つけよう 魅力あふれる 我らの個性 —

第20回全国産業教育フェア茨城大会（さんフェア茨城2010）が「見つけよう魅力あふれる我らの個性」をキャッチフレーズとして掲げ、平成22年10月16日（土）と17日（日）の両日に渡り、つくば市の「つくば国際会議場」をメイン会場に開催された。この外に会場は広い県内、県立並木高校、県立水戸工業高校、県立土浦工業高校、つくばカピオ等で分散して行われた。

メイン会場では、総合開会式の開始にあたり、生徒実行委員会のオープニングアトラクションに続き、県立水戸工業高校ジャズバンド部のすばらしい演奏があった。続いて県内の専門高校生らによる司会進行のもとに華やかに式典が挙行された。

まずは都道府県旗入場、開会宣言に続いて大会会長・文部科学省・茨城県知事・県議会議長等の挨拶がありました。さらに生徒実行委員会からの歓迎の言葉に続き、この茨城大会に関するポスターやキャッチフレーズ等6部門の表彰があった。

午後は記念講演「ロボット開発への情熱—未来を担う子どもたちへのメッセージ」が行われた。講師は地元・筑波大学大学院システム情報工学研究科教授・山海嘉之氏で、科学の進歩発展は若者に期待することや、ご自身が開発・実用化したロボットスーツ HAL 等について、熱っぽく語りかけた。

開会式典や講演会と平行してメイン会場では、全国の専門高校生産物・学校開発商品等の展示即売、県内学校生産物展示即売、意見・体験発表会、フラワーアレンジメントコンテスト、ロボット相撲全国大会、児童・生徒作品コンクール、パソコン入力コンクール等のイベントが賑やかに

行われ、まさに産業教育のエネルギーが溢れている大会会場であった。



来賓の久保村副会長



開会式風景



筑波山

第 5 2 回 全国産業教育振興大会 (茨城大会)

開催日 平成 22 年 10 月 16 日 15:30 ~ 17:20

会場 つくば山水亭レセプションホール万葉

開会の言葉に続き、主催の全国産業教育振興会連絡協議会理事長・西澤宏繁（都産振会長）が挨拶に立ち、産業教育の現状と展望・厳しさ、産業界の低迷と日本航空再建等について、熱を入れて語られた。

来賓として文部科学省初等中等教育局主任視学官、茨城県教育委員会教育長が挨拶された。

続いて記念講演を行った。演題は「未知の世界を探る最先端研究施設 J-PARC - 美肌の秘訣から宇宙創生の謎まで」。講師は(独)日本原子力研究開発機構 J-PARC センター 広報セッションリーダー鈴木國広氏。内容は、素粒子・原子核から生命科学、ニュートリノ、中性子ビームから大強度陽子加速器計画など、素人にわかりやすく、ユーモアを交えながら立て板に水のごとくの講演であった。

講演後、西澤理事長が議長となり審議・協議を行い、大会決議文が満場一致で採択された。

次期開催県の鹿児島県産業教育振興会理事長の力強い挨拶で来年度の再会を約し閉会した。



全国産業教育振興会連絡協議会理事長挨拶
(都産振会長・西澤宏繁)

決 議 文

第 5 2 回全国産業教育振興大会（茨城大会）

次代を担う専門的職業人育成の中核である専門高校は、各産業・業種に有為な人材を輩出し、我が国の産業、経済、地域社会の発展に大きな役割を果たしてきた。特に、近年の産業現場就業者の高齢化、団塊世代の退職が進む中、技術・技能を有する後継者や高齢化社会の医療・福祉等を支える人材の育成が急務とされ、専門高校への期待は大きいものがある。

しかし、少子化や高等教育進学の高まりからの普通化志向や財源問題などによる各都道府県等の高等学校再編では、専門学科中心に統廃合が進められ、専門学科と普通科の生徒数の割合は昭和 4 5 年度専門学科 40.8%（普通科 58.4%）昭和 5 0 年度 36.3%（63.0）平成 2 2 年度 19.5%（72.4）と専門学科が普通化に比べ大幅に減少している。

このことは、厳しい国際社会で技術力を競う現在、我が国の産業経済を担う技術・技能のある職業人育成の社会的要請に応えるためにも、高校生の18才位までの発達段階における緻密さや機敏さ、豊かな感性が育つ適時性を考えるとき、極めて憂慮すべき状況にある。

国、地方公共団体におかれては、新学習指導要領、中央教育審議会の報告等を踏まえ、我が国の基盤づくりをなす専門高校充実のための施策をいっそう推進されることを要望する。

全国産業教育振興会連絡協議会は、専門高校生等による第20回全国産業教育フェア茨城大会にあわせ、ここに教育界と産業界の連携のもと、第52回全国産業教育振興大会を開催し、我が国の産業経済、地域社会の発展を担う人材育成を図る観点に立って全力を傾注し、次の事項の実現に向けて努力することを表明する。

1. 専門高校の専門性の基礎・基本を重視し、先端的、伝統的な知識、技術・技能の習得及び職業人としての規範意識や倫理観、コミュニケーション能力の向上など、実践的な能力を身に付ける専門教育の充実を図る。
1. 専門高校の産業技術の高度化・情報化に対応する学習推進のための産業教育実習施設・設備の一層の整備並びに教職員の定数改善、研修機会の確保及び専門教育担当の教員養成の充実を図る。
1. 社会的・職業的自立に向けた産業現場での長期インターンシップ(就業体験等)などのキャリア教育の積極的推進を図る。
1. ものづくり、農林・水産、健康・環境などの産業基盤を支える専門高校卒業生の雇用増及び現下の雇用の厳しさに対応する就職支援策の強化を図る。
1. 専門高校専攻科(2年課程)修了者(看護師、海技士等の国家資格取得等)の高等教育機関への編入学や準学士等の称号付与の制度化(弾力的運用を含む)の早期実施を図るとともに、大学進学希望者のための入学枠の拡大を図る。
1. 専門高校・産業教育に対する一般社会や小・中学校等への幅広い理解・啓発や学習成果発表の場となる全国産業教育フェアの推進を図るとともに、専門高校生への修学支援策(教科書、実験実習等の教育費負担軽減)の充実を図る。

以上決議する。

平成22年10月16日

報 告

平成 22 年度 東京都産業教育振興会 総 会

平成 22 年度総会及び講演会が 6 月 14 日(月) 午後 2 時から、都議会棟一階都民ホールにおいて開催されました。来賓として(財)産業教育振興中央会専務理事の中山淑廣様、東京都公立高等学校長協会副会長の花野耕一様(都立農芸高等学校長)、東京都中学校長会副会長の三町 章様(新宿区立西早稲田中学校長)をお迎えしました。

開会にあたり、西澤会長から次のような挨拶がありました。「都産振は、産業界、教育界、東京都の三者が協力して職業関連教育の充実を図ろうという主旨で熱心に働き協力いただいているところです。色々な変遷はございましたが、今また産業教育は非常に大変な局面にきているといわれております。それは私自身も強く感じているところです。産業界も商工会議所をはじめなるべく多く参加するように努力しているところです。しかし、景気が中々良くなならないことで教育に対する協力が今ひとつの感もあります。そのような中でも視野を広げ問題意識を深化させて産業教育を発展させていきたいと思っております。本日はよろしくお願い申し上げます。」

続いて、常任理事の直原都立学校教育部長から「東京都教育委員会では、都立学校改革推進計画に基づき、都民にとって魅力ある学校づくりを進めております。とりわけ産業教育におきましては、社会・経済状況の変化に対応した新しいタイプの学校の設置を進め、本年 4 月には先端的な科学技術を学び、理工系大学へ進学を目指す科学技術高校として 2 校目となる多摩科学技術高校を開校しました。又、昨年度新たに「ものづくり教育推進会議」を設置し具体的な論議を進めております。さらに、学校が企業と連携して生徒を育成するデュアルシステムは高い評価を得ております。

本日の総会におきましては、東京における産業教育の一層の充実発展に向けて、活発なご意見やご指導をいただければ幸いです。」との挨拶と来賓の方々からのご挨拶をいただきました。

議事に入り、まず報告事項として、以下の 3 件について報告されました。

○平成 22 年度 会長、副会長の選任結果

○平成 22 年度 理事長、常任理事、常任監事

○産業界会員功労者(永年会員)の表彰

続いて、以下の議案が提案され、審議の結果、各議案とも原案のとおり承認されました。

○第 1 号議案① 平成 21 年度事業報告(案)

○第 1 号議案② 平成 21 年度決算書(案)

○第 1 号議案③ 平成 21 年度監査報告

○第 2 号議案 平成 22 年度役員選任(案)

○第 3 号議案① 平成 22 年度事業計画(案)

○第 3 号議案② 平成 22 年度予算(案)

総会に続き、報告事項の産業界会員功労者(永年会員)に対する表彰が行われました。

今回表彰された企業は次の 2 社で、西澤会長から感謝状と記念品が贈呈されました。

* 表彰企業名 *

1 大洋エンビ株式会社

(2000 年 4 月 14 日 入会)

2 株式会社 イツエ・エレクトロ

(2000 年 8 月 7 日 入会)



産業界会員功労者の表彰

平成22年度 東京都産業教育振興会 教育功労者表彰

平成22年度(財)産業教育振興中央会実施の「御下賜金記念産業教育功労者」及び本会実施の「中学校技術・家庭科教育功労者」並びに「専修学校・短期大学産業教育功労者」に対する表彰式を平成22年11月22日に都庁第二本庁舎31階の特別会議室で行いました。

表彰式では、西澤会長から功労者に表彰状と記念品が手渡されました。会長の祝辞に続いて東京都教育委員会を代表して直原裕教育庁都立学校教育部長から祝辞がありました。続いて(財)産業教育振興中央会中山淑廣専務理事、関間征憲東京都公立高等学校長協会長、牛島正廣東京都中学校長会長の3名のご来賓の方々からご祝辞をいただきました。祝辞を受け、受賞者を代表して東京都立第一商業高等学校 鈴木敏夫校長から謝辞が述べられました。

表彰式の出席者は、御下賜金記念産業教育功労者11名、中学校技術・家庭科功労者11名でした。受賞者は次の方々です。

I 御下賜金記念産業教育功労者

(敬称略・順不同)

東京都立農芸高等学校	主任教諭	戸 辺 広 二
東京都立農産高等学校	主任教諭	中 村 典 正
東京都立農業高等学校	主幹教諭	原 達 昭
東京都立農業高等学校	実習教諭	武 藤 房 夫
東京都立三宅高等学校	教 諭	羽 深 義 昭
東京都立荒川工業高等学校	副 校 長	諏 佐 眞 一
東京都立工芸高等学校	主任教諭	青 柳 俊 政
東京都立工芸高等学校	主任教諭	大 沼 千 尋
東京都立工芸高等学校	校 長	瀧 上 文 雄
東京都立多摩工業高等学校	主幹教諭	和 田 信 仁
東京都立多摩工業高等学校	主任教諭	中 尾 孝 治
東京都立第一商業高等学校	校 長	鈴 木 敏 夫
東京都立大江戸高等学校	主任教諭	鮎 澤 正 治
東京都立農業高等学校	主幹教諭	出 川 紀 子
大森学園高等学校	教 諭	加 藤 三 郎
大森学園高等学校	教 諭	山 口 高 司
東京都立第四商業高等学校	元副校長	島 村 栄 一

II 中学校技術・家庭科教育功労者

愛国中学校	教 諭	宮 西 三智子
八丈町立富士中学校	主任教諭	荒 井 育 子
北区立稲付中学校	校 長	長谷川 義 美
北区立十条富士見中学校	副 校 長	佐々木 健 一
清瀬市立清瀬第五中学校	校 長	千 野 和 子
中央区立銀座中学校	校 長	太 田 達 郎
多摩市立落合中学校	教 諭	大河原 敏 光

北区立十条富士見中学校	主任教諭
江戸川区立瑞江第三中学校	主幹教諭
調布市立第四中学校	主幹教諭
足立区立第四中学校	主任教諭
葛飾区立桜道中学校	主任教諭
東京学芸大学附属小金井中学校	教 諭
東京学芸大学附属竹早中学校	副 校 長

石 川 勝 江
石 田 文 雄
磯 部 正 則
服 部 敏 雄
和 久 育 代
葉 山 盛 雄
西原口 伸 一

III 専修学校・短期大学教育産業功労者

該当者なし



教育功労者表彰式

平成 22 年度 東京都産業教育振興会後援事業

下記の事業に対し後援した。

	対 象 事 業	開催期間	実 施 場 所	参加者数
1	第 59 回全国高等学校農場協会関東支部大会	8 月 19 日～ 20 日	ザ・クレストホテル立川	200
2	全国農業高等学校長協会関東支部総会並びに研究協議会			50
3	第 53 回全国自動車教育研究大会	10 月 14 日～ 15 日	セミナーハウス「クロス・ウェーブ府中」	68
4	第 26 回葛飾区産業フェア ○工業・商業・観光展	10 月 15 日～ 17 日	テクノプラザかつしか 城東地域中小企業振興センター	87,000
	○農業・伝統産業展	10 月 22 日～ 24 日	テクノプラザかつしか	
5	第 8 回創造ものづくりフェア in TOKYO	11 月 13 日及び 20 日	東京都立工芸高等学校 女子栄養大学	1,049
6	第 17 回東京都高等学校工業科生徒研究成果発表大会	11 月 20 日	東京都教職員研修センター	230
7	第 11 回全国中学生「創造ものづくり教育フェア」	1 月 22 日～ 23 日	新木場タワー 中央区立銀座中学校 女子栄養大学	11,000

平成22年度 「作文コンクール」 入選者一覧

今年度の「作文コンクール」の応募者数は、中学校の部が34校・142名、高等学校の部は19校126名、専修学校の部は4校19名で、総数287名でした。昨年度に比べ中学校の部は19名減少しましたが、高校の部は30名の増、専修学校の部は倍増し、全体で21名約8%増加しました。今後も更に作文コンクールの意義等をPRしていく必要があります。

全作文について、各部の選考委員による第一次選考を経て、約20%が第2次選考にあがりました。第2次選考は、高校・専修の部が10月26日に、中学校の部は11月2日に行われました。厳正な選考の結果中学校の部は、最優秀賞：1、優秀賞：4、佳作：18の23名が、高校・専修の部からは最優秀賞：1、優秀賞：5、佳作：17、計23名、総計46名(約16%)が選考されました。

入選者に対する表彰式は12月17日に選考委員、本会役員、東京都教育庁管理職等の出席を得て、都庁内の会議室において行われました。

入選者は以下の通りです。

中学校の部

最優秀賞	誰かのために作る	新宿区立西戸山中学校	3年	吉元雅喜
優秀賞	働くということ	愛国中学校	2年	横尾海香
優秀賞	職業体験を終えて	大田区立馬込中学校	3年	山岸陸
優秀賞	ものづくりと人、そして、未来へ	北区立十条富士見中学校	2年	鈴木紫央里
優秀賞	ミニベンチを製作して	北区立十条富士見中学校	3年	石曾根斐子
佳作	将来の夢	愛国中学校	3年	中野志保
佳作	「ものを生かす」	港区立高松中学校	3年	小谷拳乙
佳作	学習した過去と未来への展望	新宿区立西戸山中学校	3年	西忍
佳作	身の回りの技術と将来	新宿区立西戸山中学校	3年	明石和謙
佳作	仕事への価値観	新宿区立西戸山中学校	2年	蒔田博文
佳作	家事	文京区立第六中学校	3年	水野峻介
佳作	私の目標	墨田区立両国中学校	3年	阿部桃子
佳作	体験で見つけたこと	品川区立小中一貫校日野学園	2年	廣井花歌
佳作	職場体験を終えて	大田区立大森第一中学校	2年	千枝由美子
佳作	実際にやらなくてはわからないこと	大田区立大森第一中学校	3年	小林亜美
佳作	職業体験を終えて	大田区立馬込中学校	3年	重野茜
佳作	職業体験	大田区立馬込中学校	3年	木内龍之介
佳作	職場体験	大田区立馬込中学校	3年	中宮健吾
佳作	社会の厳しさ	練馬区立三原台中学校	3年	鈴木拓真
佳作	今、職場体験をふり返って考えたこと	練馬区立三原台中学校	3年	柿崎亮太郎
佳作	私の将来の夢	足立区立第六中学校	3年	渡邊美幸
佳作	保育体験	足立区立第七中学校	3年	齊藤未来
佳作	日陰 <small>のみ</small> の鑿	江戸川区立鹿骨中学校	3年	眞利子雅貴

高等学校の部

最優秀賞	一生ものの免許	愛国高等学校 衛生看護科	3年	矢 作 彩 香
優 秀 賞	精神看護実習	愛国高等学校 衛生看護科	3年	田 中 みのり
優 秀 賞	実習で学んだこと	愛国高等学校 衛生看護科	3年	渡 辺 三 紗
優 秀 賞	経験を生かして	蒲田女子高等学校	1年	辻 明日香
佳 作	社会福祉士になりたい理由	蒲田女子高等学校	1年	吉 野 美 紀
佳 作	私の生きがい	蒲田女子高等学校	3年	田 中 史 織
佳 作	誰かのための私、私のための誰か	岩倉高等学校 商業科	3年	沼 野 翔
佳 作	夢を実現した私を目指して	岩倉高等学校 機械科	3年	清 宮 匠
佳 作	「デザインする」ということ	東京都立忍岡高等学校 生活科学科	3年	小 林 愛 奈
佳 作	将来の夢	東京都立農産高等学校 園芸デザイン科	3年	鈴 木 博 也
佳 作	父の姿から学ぶ	東京都立農産高等学校 食品科	2年	吉 川 大 輝
佳 作	ヒトは動物の身 <small>しん</small> を育て、動物はヒトの心 <small>しん</small> を育てる	東京都立瑞穂農芸高等学校 畜産科学科	2年	迎 沙梨葵
佳 作	調理実習で気付いたこと	東京都立農業高等学校 食物科	2年	田 湯 由 華
佳 作	一つの野菜から学んだ多くのモノ	東京都立農業高等学校 食品科学科	2年	西久保 恭 平
佳 作	ものづくりを通して学んだこと	東京都立中野工業高等学校 総合技術科	4年	滝 口 貴 大
佳 作	学生生活で学んだこと	東京都立中野工業高等学校 総合技術科	4年	稲 江 紀 子
佳 作	「私の将来の夢」	東京都立江東商業高等学校 総合ビジネス科	1年	横 山 夏 澄
佳 作	マーケティング実践	東京都立江東商業高等学校 総合ビジネス科	1年	海 老 真由香
佳 作	商業高校に入学して	東京都立江東商業高等学校 総合ビジネス科	1年	中 村 帆七海
佳 作	念願の全国大会出場	東京都立第五商業高等学校 商業科	1年	佐 竹 美 鈴

専修学校の部

優 秀 賞	人生観を変えたボランティア活動	ホスピタリティツーリズム専門学校 エアライン学科	2年	笹 野 愛 紗
優 秀 賞	成長、そして、未来へ	ホスピタリティツーリズム専門学校 エアポートカーゴ学科	2年	金 東 賢
佳 作	私の職業観	中央工学校 3D-CAD 科	1年	稲 川 和 夫

作文コンクール最優秀作文

誰かのために作る

新宿区立西戸山中学校 三年 吉元 雅喜

「人のために作る」

これが、この三年間の技術・家庭科の授業で僕が学んだことです。

一年生で作ったウサギのペン立てと本棚は、今も僕の机の上で活躍しています。整理整頓が苦手な僕の強い味方です。ファイルカバーは、家庭科の授業で配布されたプリントをはさんでいるファイルに使っています。これがあるおかげで僕のファイルは新品そのものです。二年生で作ったプログラムクロックは、毎朝僕を起こしてくれます。僕が学校に遅刻しないのは、七時にアラームが鳴るようにプログラムした、この目覚まし機能のおかげです。ギャルソンエプロンは、調理実習で活用しています。ポケットがたくさんついていて重宝しています。

これまで作ったものを振り返ると、すべて僕の生活にはなくてはならないもので、もし一つでも欠けてしまうと不便さを感じるような気がします。技術・家庭科の授業で作ったものすべてが、生活を豊かにしてくれるものです。ついこの間まで、僕はこのように感じていました。

その気持ちに変化が生じたのです。それは、家庭科の調理実習で、「あなたのためのお弁当コンクール」に参加することになったことがきっかけでした。

調理実習の班は、クラスで話し合った結果、くじびきで決めました。たまたま集まった三人で、誰のために作るのか考えたとき、「僕の弟のために作りたい。」と、一人が言い出したのです。

僕には兄弟がいません。家庭科の授業で家族について学習していても、それはあくまで知識でしかありません。実際の家族生活の中で、八歳の男の子がどんなことに興味があるのかは無知の状態でした。そんな僕が、友だちの弟のためにお弁当のコンセプトを考え、実際に作っていくことに、難しさを感じました。しかし、特に作ってあげたい対象がなかった僕は、友だちの提案に乗ることにしました。そうすると、友だちにいろいろ聞くしかありません。好きな食べ物、嫌いな食べ物、好きなキャラクター、色の好み…ありとあらゆることを聞きました。いろいろなことを教えてくれたおかげで、なかなかいいお弁当を作ることができたと思っています。

このお弁当コンクールに参加することを通して、誰かのためにものを作ることは、とても難しいことだと思いました。その対象となる人の好みや興味のあることなどを調べてから作らなければいけないからです。また、せっかく作るのだから、喜んでほしいと思うと、さらに難しくなります。失敗したものを渡してしまうと、相手はどう思うのか。絶対に失敗してはいけない。そんなことを考えてしまうからです。でも、それだけ相手のことを考えて作れば、自分のために作る「ものづくり」よりも、確実によいものができる気がします。

一年生に入学したばかりの僕たちに、技術の授業で、先生はポケットに入っている三つのものを見せてくれました。一つ目は、技術室のカギやドライバーなどの技術の授業で使う道具でした。二つ目は、僕たちの頑張りを評価し、それを書き留めておく記録用紙です。そして三つ目。先生は、右手を握って、「この手のひらの中に入っているものを見たい人はいますか。」と言いました。僕たちは、身を乗り出

して、その手の平をのぞき込みました。すると、そこには何も入っていませんでした。がっかりした僕たちに、先生はこう話しました。「今、皆さんは『何が入っているんだろう』『中身を知りたいな』という気持ちを抱いたはずです。その気持ちが、技術の授業には大切です。それを ” 好奇心 ” と言います。これからの三年間の授業で、ぜひその気持ちを大切にしていってください。」

あの時の僕は、先生が言っていることをあまり理解していませんでした。しかし、こうして三年間技術・家庭科の授業を受けてみると先生の言いたかったことがよくわかります。教科書を読めば、素材・材料について、道具の使い方について、いろいろなことを学ぶことができます。しかし、これだけでは決していいものは作れないと思います。僕が友達の弟のために、満足のいくお弁当を作ることができたのも、友達の弟がどんな子なのか知りたいという好奇心があったからです。そして、それに基づいて行動したからです。失敗を繰り返しながら、自分たちが納得できるまであきらめなかったからだと思います。

世の中で行われている「ものづくり」は、すべて人のために行われているものです。今身につけている制服も、授業で使っている鉛筆や消しゴム、これらは使う人のことを考え、何度も改良を繰り返しながら商品化され、僕たちの手元に届きました。家庭生活の中でも自分のためにお弁当を作ることがあるかもしれないけど、今は母が僕のために作ってくれるものです。「人のために作る」という経験は、ものづくりの本質、世の中のしくみ、そして家族生活について考えるきっかけとなりました。このことを教えてくれた技術・家庭科の授業には、とても感謝しています。

一生ものの免許

愛国高等学校 衛生看護科 三年 矢作 彩香

「ごめんなさいね。」

その患者様の一言がいつも胸に引っかかっていた。私が受け持たせて頂いた患者様は経過的には回復に向かっているが、床上安静が強いられていた。床上安静とは病室内ならなんとか動いたり出来るがたいていはベッドの上で全てのこと済まなければならない。衣食住という基本生活の全てを四人部屋の病室で行わなくてはならない。私達が普段当たり前前に思っていることが出来なくなるのだ。

私達学生は実習をさせて頂いている。自分たちの夢、目標である看護師になるべく、環境を整えているのだ。そのための仕事は勉強として苦勞とは思っていない。けれど、私の受け持たせて頂いている患者様はディスポータブルトイレのバケツを流しに行くたびに、

「動けないから…ごめんなさいね。」

と少し悲しげにぼそつと言う。それを聞くとなぜかグッと胸が痛くなり、何にも言えないまま「はい、大丈夫です。」としか言えなくなってしまう。患者様が原因ではなく、病気が原因なのにどうして毎回気を遣わなくてはならないのだろう。更に患者様のベッドは大部屋で、廊下側にある。今日はどんな天気だろうかと外の景色を眺めることも用を足したときに換気することも出来ない。ディスポータブルトイレが病室にある患者様にとってベッドが窓側にあるということはとても大きい。何か私に出来ることはないだろうか・・・私なりのアイディアは消臭スプレーを利用することだった。以前患者様とコミュニケーションを取っていたときに好きな匂いはレモンとおっしゃっていたのを思い出し、お手製の消臭スプレーを作ろうと思いついた。その夜、実習中の記録、学習とある中、材料を買いに出

かけたりして完成させた。とても忙しかったがそれでも充実していた。次の日、指導者さんにその完成品を見せると、

「ちょっと待って、保留。」

と言われた。え？どうして？と心の中で驚きを隠せない。心がこだまする。なんで？どうして？せわしく理由が聞きたくなる。指導者さんは言葉を選びながら説明してくれた。

「確かに消臭スプレーは一つの手かもしれないね。でもすぐ消臭スプレーと結びつけるのはどうだろうか、もしあなたが患者様と同じ立場で『用を足したら使ってください。』とスプレーを渡されたらどんな気持ちになるだろうか。私が気にする以上に周りの方が臭気を気にしているのでは、とショックを受けてしまうかもしれないね。」

私はハッとした。その日の夜は涙が涸れてしまうのではないかと思うくらい泣いた。自分が情けない。気を遣わせないようにと考えた結果は逆に気を遣わせて、自由を更に奪うところだったのだ。どうしていつも一つの方向からでしか見られないのだろう。もう私には看護師は向いていないのではないかと考え始めた頃、母が枕にうずくまる私の前にそっと座ってこう話し掛けた。

「まだまだ始まったばかりでしょ。出来なくて、考えが浅いなんてみんな承知の上、でもね、みんなそうやって一步步一人前になっていったのよ。出来ないことや考えられないことを恥じることはないからね。一生ものの免許だもの、そんなに簡単に取れないわよ。沢山苦しんで、泣いて最終地点で沢山考えることの出来る看護師になればいいのよ。」と。母の重く深みのある言葉を聞いているうちに、だんだん気を取り直し、もう一度前に進んでいこうと思えた。

そうだ。まだ私達は始まったばかりだ。そしてこの道を進む限りゴールなんてない。看護とは変化を続けるものだから、終わりなんてない。一生ものの免許だ。「看護の世界」は私にとってとても奥深く成長して止まない世界だ。だからこそ悩むし、問題にぶつかる。けれどそれでいいんだ。一人前の看護師に一步でも近づくためにまた明日も頑張ろう。大切なのは逃げないこと、目の前の実習がすべてではなく、次につながるための実習でもあるのだということを忘れず、一步、一步進んでいこう。

一生ものの免許なのだから。

作文コンクール最優秀作文 (含・応募人数・入選者数)

東京都産業教育振興会

< 中学校の部 >

番号	区・市名	学 校 名	応募 人数	入選 者数
1	中央区	晴海中	5	
2		御成門中	1	
3	港区	六本木中	1	
4		高松中	1	1
5	新宿区	西戸山中	8	4
6		第六中	4	1
7	文京区	第八中	4	
8		第九中	4	
9	墨田区	両国中	10	1
10	品川区	小中一貫校日野学園	2	1
11		大森一中	3	2
12	大田区	大森六中	1	
13		南六郷中	4	
14		馬込中	6	4
15	世田谷区	用賀中	2	
16	北区	十条富士見中	7	2
17		浮間中	1	
18	荒川区	荒川三中	1	
19	板橋区	志村第一中	7	
20		豊玉中	1	
21		石神井中	1	
22	練馬区	三原台中	10	2
23		南が丘中	1	
24		開進第四中	5	
25		足立第六中	4	1
26	足立区	足立第七中	6	1
27		足立第十一中	6	
28		金町中	4	
29	葛飾区	東金町中	5	
30		堀切中	10	
31	江戸川区	小岩第四中	2	
32		鹿骨中	6	1
33	府中市	府中第二中	2	
34	私立	愛国中	7	2
3 4 校		中学小計	142	23

入選校数 13 校

< 高等学校・専修学校の部 >

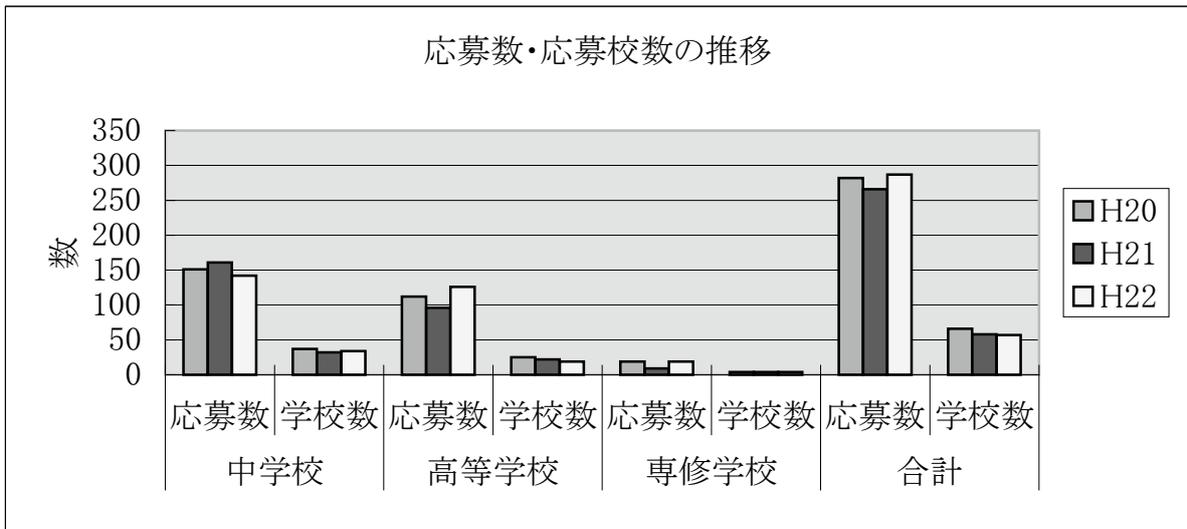
番号	学 校 名	応募 人数	入選 者数
1	都立忍岡高	10	1
2	都立農芸高	3	
3	都立農産高	9	2
4	都立瑞穂農芸高	10	1
5	都立農業高	9	2
6	都立中野工業高	6	2
7	都立葛西工業高	2	
8	都立科学技術高	5	
9	都立芝商業高	1	
10	都立江東商業高	10	3
11	都立第五商業高	1	1
12	都立青梅総合高	10	
13	都立町田総合高	1	
14	都立橘高	10	
15	都立八王子桑志高	6	
16	(私) 蒲田女子高	10	3
17	(私) 岩倉高	10	2
18	(私) 愛国高	6	3
19	国際理容美容専門学校	7	
1 9 校	高校等小計	126	20

入選校数 10 校

1	東京エアトラベル・ホテル専門学校	2	
2	ホスピタリティツーリズム専門学校	6	2
3	中央工学校	10	1
4	青山製図専門学校	1	
4 校	専修小計	19	3

入選校数 2 校

校 種 (入 選 校)	応募 人数	入選 者数	
中学校	3 4 校 (1 3)	142	23
高等学校等	1 9 校 (1 0)	126	20
専修学校	4 校 (2)	19	3
総 計	5 7 校 (2 5)	287	46



	中学校		高等学校		専修学校		合計	
	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数	応募数	学校数
H20	151	37	112	25	19	4	282	66
H21	161	32	96	22	9	4	266	58
H22	142	34	126	19	19	4	287	57

応募数の変化(前年度から見た変化)

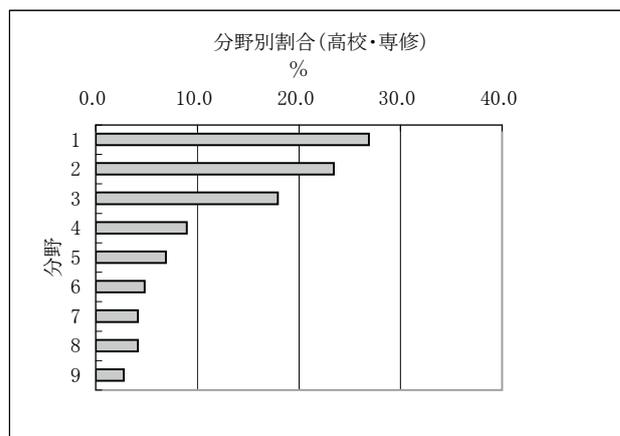
校種	平成20年度(08)		平成21年度(09)		平成22年度(10)		平均 応募数
	応募数	増減	応募数	増減	応募数	増減	
中学校	205⇒151	26%減	151⇒161	7%増	161⇒142	12%減	166
高校	99⇒112	13%増	112⇒96	14%減	96⇒126	31%増	99
専修学校	20⇒19	5%減	19⇒9	53%減	9⇒19	111%増	18
総数	324⇒282	13%減	282⇒266	6%減	266⇒287	8%増	283

作文コンクール 入選数の集計

校種	平成20年度(08)			平成21年度(09)			平成22年度(10)			平均	
	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	応募数	入選数	%	入選数	%
中学校	151	28	19	161	28	17	142	23	16	26	17
高校	112	29	26	96	18	19	126	20	16	22	20
専修学校	19	5	26	9	3	33	19	3	16	3	23
総数	282	62	22	266	49	18	287	46	16	52	19
参考	選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			選考要領は15%程度			—	

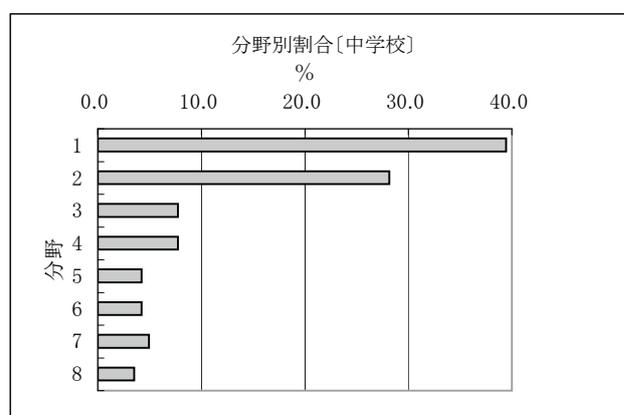
分野別応募数 高校・専修の部(22年度)

	数	%
1.就業体験や現場実習で学べたこと	39	26.9
2. 私の進路・将来の夢	34	23.4
3. 専門教科の学習で学べたこと	26	17.9
4. 私の職業観・その他	13	9.0
5. 学習に対する心構え	10	6.9
6. つくることの喜び・ものづくりの喜び	7	4.8
7. 働くことの喜び	6	4.1
8. 私の生きがい	6	4.1
9. ボランティア活動等によって学べたこと	4	2.8
	145	100.0



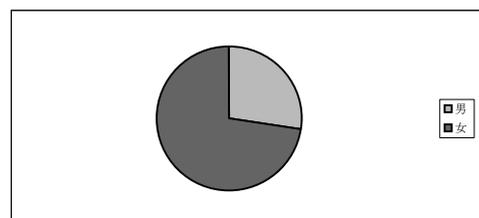
分野別応募数 中学校の部(22年度)

	数	%
1.職場体験やボランティア活動等によって学べたこと	56	39.4
2. 私の進路・将来の夢	40	28.2
3. 技術・家庭科の授業を通して学べたこと	11	7.7
4. つくることの喜び・ものづくりの喜び	11	7.7
5. 学習に対する心構え	6	4.2
6. 私の職業観・その他	6	4.2
7. 私の生きがい	7	4.9
8. 働くことの喜び	5	3.5
	142	100.0

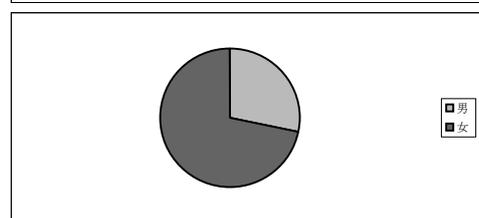


応募者の男女比(22年度)

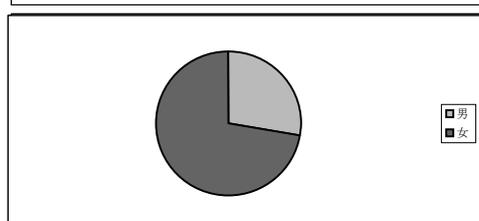
中学校	人数	男女		計
		男	女	
	39	103	142	
	%	27.5	72.5	100



高校・専修	人数	男女		計
		男	女	
	41	104	145	
	%	28.3	71.7	100



全体	人数	男女		計
		男	女	
	80	207	287	
	%	27.9	72.1	100



本会の概要

平成22年度 事業経過報告

(2月28日現在)

1 会計監査

4月20日(火) 午後3時から、都庁第二本庁舎28階 第三会議室を会場
常任監事、監事2名による各種帳簿類等の監査実施(本会事務局長立会い)

2 理事会

5月17日(月) 午後4時から、都庁第二本庁舎31階 特別会議室23で開催

3 総会・講演会

6月14日(月) 午後2時から、都議会議事堂棟・1階 都民ホールにて開催

○ 講演 演題 「産学官連携はなぜ必要か」

講師 国立大学法人 電気通信大学長 梶谷 誠 氏

※ 総会報告は会報第138号に、講演報告は第139号に掲載。

4 委員会

(1) 企画推進委員会 6月25日(金) 都庁第二本庁舎31階 特別会議室25で開催

(2) 中学校技・家庭教育功労者選考委員会

9月24日(金) 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

(3) 作文選考委員会 6月17日(木) 全体会 都庁第二本庁舎28階 第三会議室で開催

10月26日(火) 分科会(高校・専修) 都庁第二本庁舎28階第三会議室で開催

11月2日(火) 分科会(中学校) 都庁第二本庁舎29階 第二会議室で開催

5 振興奨励事業

(1) 中学校技術・家庭科教育功労者(13名)及び御下賜金記念産業教育功労者(17名)の表彰式を11月22日(月)午後3時から都庁第二本庁舎31階・特別会議室26において挙行了。本会より表彰状の授与と記念品贈呈を行い、記念撮影をした。

(2) 産業教育関係の研究団体に対する奨励助成として、農業、工業、家庭、定時制・通信制、中学校技術・家庭科の各研究会に対し、研究資料作成など事業活動費の一部として5研究団体の合計額12万5千円を助成した。

(3) 中学生、高校生、専修学校生、短大生に対する作文募集を行い、応募総数は287点であった。その中から最優秀賞2名(中学校1名、高校1名)、優秀賞9名(中学校4名、高校3名、専修学校2名)、佳作35名(中学18名、高校16名、専修学校1名)の入賞者を決定し、12月17日(金)に都庁第一本庁舎・103会議室において「作文コンクール表彰式」を行い、賞状と賞品を授与した。また、入賞されなかった応募者全員に記念品を贈呈した。

(4) 優良卒業生に対し、各学校の校長を通じ、本会会長並びに産業教育振興中央会会長の表彰状の交付及び授与を行った。

○本会会長の表彰

中学校	827名	高等学校	225名		
専修学校	34名	高専・短大	14名	計	1,100名

○産業教育振興中央会会長の表彰

高等学校及び高等専門学校	計	116名
--------------	---	------

(5) 産業教育の普及向上に寄与する事業を実施する団体等に対して、本会の後援の名義使用を承認している。本年度は7団体、7事業に対して後援名義の使用を承認した。

6 産学交流事業

(1) 産学懇談会… 今年度実施せず。

7 情報連絡事業

- (1) 平成22年度は会報「東京の産業と教育」を年2回発行、第138号を7月13日、第139号を12月10日に発行し、会員及び関係諸機関に配布した。
- (2) 会誌「東京の産業教育」第48号を3月中旬に発行し、会員及び関係諸機関に配布する。
- (3) 生徒作文集「明日に生きる」第21号は入選作品46編を掲載して、3月2日に発行、会員及び関係諸機関に配布する。
- (4) 産業教育振興中央会主催の「産業実地研修会」は、毎年、夏季休業期間に関係機関、研究所及び企業等において実施されているが、本会からの参加申し込み者はなかった。
- (5) 産業教育振興中央会の実施する「産業教育改善に関する特別研究助成」には、今年度本会から工業系(高等専門学校)1名の採択があった。
- (6) 産業教育振興中央会における平成22年度海外産業教育事情視察には、本会からの参加申し込み者はなかった。
- (7) 文部科学省・産業教育振興中央会ほか主催の第52回全国産業教育振興大会・第20回全国産業教育フェア茨城大会が10月16日(土)～10月17日(日)、つくば国際会議場他7会場で開催され、本会から会長、副会長、事務局長、事務局員の6名が出席した。
- (8) 全国産業教育振興連絡会議・全国産業教育振興会連絡協議会役員総会は、5月28日(金)東京で開催された。本会より会長、副会長、事務局長が出席、その他多数の会員が出席した。
- (9) 関東地区産業教育振興連絡協議会は、平成22年度もしばらく休止することになった。
- (10) 東京都産業教育振興会のホームページを毎月一回更新した。

8 会員の増加運動の推進

学校会員6校(都立中学4校、都立高校2校)、企業会員8社および個人会員1名が新規に加入した。

平成21年度 決算

総収入額 ¥3,278,073 総支出額 ¥2,616,034 残 額 ¥662,039 (次年度へ繰越し)

[収入の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 額	摘 要
会 費	2,566,000	2,541,000	△ 25,000	1 学校会員 1,546,000
				① 公私立中学校 413校 826,000
				② 都立高校 全 52校 312,000
				定 37校 111,000
				③ 私立・国立高校 全 25校 150,000
				定 1校 3,000
				④ 高専・短大 6校 36,000
				⑤ 専修学校 17校 18口 108,000
				2 産業界会員 995,000
				① 企 業 67社 97口 *4社4口22年度 分含む 970,000
② 個 人 5名 5口 25,000				
利子収入	1,172	245	△ 927	預金利息
雑収入	165,000	120,000	△ 45,000	会誌広告料ほか
繰越金	616,828	616,828	0	前年度繰越
合 計	3,349,000	3,278,073	△ 70,927	

[支出の部]

(単位：円)

科 目	予算額	決算額	差 額	摘 要	
事務費	555,000	499,258	55,742		
項 目	需用費	106,000	85,457	20,543	総会資料印刷、消耗品費等
	役務費	449,000	413,801	35,199	配送費、郵便振込手数料、郵券等
	旅 費	0	0	0	全国産業教育フェア(神奈川)
	会議費	112,000	35,473	76,527	理事会、総会、各種委員会
事業費	2,429,000	2,001,303	427,697		
項 目	振 興 奨励費	803,000	622,153	180,847	①教育功労者表彰 117,502
					②研究奨励助成 125,000
					③作文表彰 265,849
					④永年会員表彰 14,532
					⑤表彰状印刷 72,870
					⑥表彰状筆耕料 26,400
情 報 連絡費	1,616,000	1,376,000	240,000	①会報発行(2回分) 256,200	
				②会誌47号発行 510,300	
				③作文集20号発行 412,500	
				④HP更新費 189,000	
				⑤全産協参加費 6,000	
				⑥中央会図書費 2,000	
産 学 交流費	10,000	3,150	6,850	産学懇談会	
分担金	80,000	80,000	0	全国産業教育振興会連絡協議会	
予備費	173,000	0	173,000	緊急対応	
合 計	3,349,000	2,616,034	732,966		

平成22年度 予算

総収入額 ¥3,356,000
 総支出額 ¥3,356,000
 差引額 ¥0

[収入の部]

(単位：円)

科目	本年度 予算額(A)	前年度 予算額(B)	増△減 (A-B)	摘 要
会 費	2,568,000	2,566,000	2,000	1 学校関係 1,578,000
				① 公私立中学校 417校 834,000
				② 都立高校 全 53校 318,000 定 31校 93,000
				③ 私立・国立高校 全 23校 138,000 定 1校 3,000
				④ 高専・短大 4校 24,000
				⑤ 専修学校 27校 28口 168,000
				2 産業界関係 990,000
				① 企 業 66社 96口 960,000 *70社100口の内 4社4口納入済
				② 個 人 15名 15口 30,000
				利子収入 961 1,172 △ 211 預金利息
雑収入 125,000 165,000 △ 40,000 広告料ほか				
繰越金 662,039 616,828 45,211 前年度繰越				
合 計 3,356,000 3,349,000 7,000				

[支出の部]

(単位：円)

科 目	本年度 予算額 (A)	前年度 予算額 (B)	増△減 (A-B)	摘 要
事務費	588,000	555,000	33,000	
項 目	需用費 94,000 106,000 △ 12,000	総会資料印刷、消耗品費等		
	役務費 494,000 449,000 45,000	配送費、郵便振込手数料、郵券等		
	旅 費 0 0 0	全国産業教育フェア（茨城）		
会議費 48,000 112,000 △ 64,000	理事会、総会、各種委員会			
事業費 2,470,000 2,429,000 41,000				
項 目	振 興 奨励費 944,000 803,000 141,000	①教育功労者表彰 210,000		
		②研究奨励助成 165,000		
		③作文表彰 400,000		
		④永年会員表彰 50,000		
		⑤表彰状印刷 84,000		
		⑥表彰状筆耕料 35,000		
情 報 連絡費 1,516,000 1,616,000 △ 100,000	①会報発行(2回分) 270,000			
	②会誌48号発行 545,000			
	③作文集21号発行 503,000			
	④HP更新費 190,000			
	⑤全産協参加費 6,000			
	⑥中央会図書費 2,000			
産学 交流費 10,000 10,000 0	産学懇談会			
分担金 65,000 80,000 △ 15,000	全国産業教育振興会連絡協議会			
予備費 185,000 173,000 12,000	緊急対応			
合 計 3,356,000 3,349,000 7,000				

(注) 科目間の流用は、会長承認によって行うことができる。

平成22年度 東京都産業教育振興会 役員 (敬称略・順不同)

会 長	(株)企業再生支援機構代表取締役社長	西 澤 宏 繁
副 会 長	TDO グラフィックス(株) CEO (株)カナック企画相談役 東京都立青梅総合高等学校長	久保村 昭 衛 金 子 昌 男 野 中 繁
理 事 長	都教育委員会教育長	大 原 正 行
常 任 理 事	都教育庁都立学校教育部長 都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長	直 原 裕 藤 本 龍 夫
理 事	経済同友会副代表幹事・専務理事 東京商工会議所総務統括部長 東京経営者協会常務理事 信川化学工業(株)取締役社長 (株)日刊工業新聞社代表取締役社長 三和電気工業(株)社長 墨田区教育委員会教育長 江東区教育委員会教育長 武蔵野市教育委員会教育長 中央区教育委員会学務課長 江東区教育委員会学務課長 東京誠心調理師専門学校理事長 中央工学校理事長 日本工業大学駒場高等学校長 岩倉高等学校長 安部学院高等学校長 京北学園白山高等学校副校長 東京都立農芸高等学校長 東京都立北豊島工業高等学校長 東京都立蔵前工業高等学校長 東京都立芝商業高等学校長 東京都立赤羽商業高等学校長 東京都立忍岡高等学校長 府中市立府中第二中学校長 中央区立銀座中学校長 都教育庁指導部長 都教育庁指導部高等学校教育指導課長 都教育庁指導部主任指導主事(産業教育担当) 都教育庁都立学校教育部ものづくり教育推進担当課長 都教育庁都立学校教育部高等学校教育課計画担当係長	前 原 金 一 橋 本 昌 道 和 栗 安 広 信 川 仁 道 千 野 俊 猛 石 井 卓 爾 久 保 孝 之 高 橋 三喜男 山 上 美 弘 長 嶋 育 夫 武 田 正 孝 廣 瀬 喜久子 大 森 厚 大 森 和 夫 浅 井 千 英 安 部 元 彦 杉 原 米 和 花 野 耕 一 小 林 薫 豊 田 善 敬 本 多 吉 則 戸 田 勝 昭 清 水 ゆかり 三 浦 登 太 田 達 郎 高 野 敬 三 宮 本 久 也 仙 田 直 人 山 川 富 也 加 野 哲 朗 鈴 木 信 孝 飯 吉 修一呂 池 田 敦 彦
理事・事務局長	都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長	
常 任 監 事	(有)飯吉製作所代表取締役	
監 事	足立区立六月中学校長	

平成 22 年度 東京都産業教育振興会各委員会委員 (敬称略・順不同)

企画推進委員会

東京都立園芸高等学校長	千 谷 順一郎
東京都立墨田工業高等学校長	松 本 光 正
東京都立第四商業高等学校長	渡 邊 淳 子
東京都立城東高等学校長	小 峯 健 治
東京都立葛飾総合高等学校長	三 田 清 一
昭和第一学園高等学校長	大神田 忠 弘
安部学院高等学校長	安 部 元 彦
東京誠心調理師専門学校副理事長	廣 瀬 道
東京都立産業技術高等専門学校長	荒 金 善 裕
目黒区立第九中学校長	情 野 政 彦
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	守 屋 文 俊
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	松 永 かおり

作文選考委員会

東京都立瑞穂農芸高等学校長	岡 本 利 隆
東京都立小金井工業高等学校長	牧 内 利 之
東京都立町田工業高等学校長	高 松 清
東京都立第五商業高等学校長	中 山 博 之
東京都立江東商業高等学校長	金 城 和 貞
東京都立野津田高等学校長	米 山 泰 夫
東京都立町田総合高等学校長	松 井 薫
安田学園高等学校教頭	根 岸 宏 明
京北学園白山高等学校 副校長	杉 原 米 和
国際理容美容専門学校長	中 村 文 雄
昭島市立清泉中学校長	小谷野 茂 美
清瀬市立清瀬第五中学校長	千 野 和 子
練馬区立豊玉第二中学校長	長 南 良 子
品川区立大崎中学校副校長	金 児 京 子
新宿区牛込第三中学校副校長	寺 島 京 子
練馬区立上石神井中学校長	小 野 雅 保
板橋区立志村第一中学校長	松 本 洋 人
八王子市立館中学校校長	里 吉 武 仁
北区立十条富士見中学校副校長	佐々木 健 一
渋谷区立広尾中学校副校長	土 居 貞 夫
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	平 柳 伸 幸
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	山 田 和 人
東京都教育庁指導部高等学校教育指導課指導主事	金 澤 正 美
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	和 田 栄 治
東京都教育庁指導部義務教育特別支援教育指導課指導主事	山 村 智 宏

産業界会員名簿

50音順

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
1	(株)秋月電子通商	世田谷区		
2	浅地事務所	港区	—	経営相談、コンサルティング、社外役員の紹介及び仲介他
3	(有)飯吉製作所	葛飾区	—	金属プレス加工業を昭和24年創業、昭和37年会社設立後、永年培った技術を活用し、アルミ押し出し型材のプレス加工金型の設計製作を始め、各種プレス金型分野に進出、傍ら自社ブランドのキャストを開発、製造販売を始め、現在に至る。
4	(株)イツエーエレクトロ	北区	—	電子部品の販売及びヨーロッパからの機械輸入販売。
5	(株)エイコー	葛飾区	(○) 高校卒	昭和35年にビルメンテナンス業を創業。 平成13年、同業他社に先駆けて「ISO9001」を取得。現在、ビルメンテナンスのみに留まらず総合管理業として、躍進しております。
6	エス・イー・シーエレベーター(株)	台東区		
7	(株)エヌ・アール	千代田区	—	不動産の賃貸及び管理業
8	(株)大崎コンピュータエンジニアリング	品川区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	「信頼とサービス」をモットーに、営業・システム・施工保守・技術部門が一体となって、システム開発から通信ネットワーク構築、アウトソーシングサービスまで、トータルなIT環境を提供する総合インテグレータ。富士通・富士電機・NTTグループのディーラー業務等。
9	OZAWA 小沢(株)	中央区		
10	(株)オーム社	千代田区	(○) 高専卒 (○) 四大卒 (○) 大学院	科学技術関係の書籍及び月刊誌を発行。情報科学、情報通信、電気電子、応用物理、機械制御、土木建築、空調衛生設備、化学環境、生命科学、医用電子など理工学全分野に及ぶ。定期雑誌は『OH M』『新電気』『電気と工事』『設備と管理』『Medica 1 Bio』『ロボコンマガジン』の月刊・隔月刊6誌。
11	(株)カナック企画	葛飾区	—	当社は、カーオーディオやカーナビゲーションなどカーAV(Audio Visual)機器の取付キットビジネスの最前線を常に開拓するリーディングメーカーです。ISO9001・14001を取得して品質を重視し、環境に配慮した商品の開発を行っております。
12	亀有信用金庫	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	信用金庫法に基づく金融業。葛飾区、足立区、三郷市、八潮市を中心に24店舗(1出張所を含む)を構え、お客様との信用・信頼を第一に地域のコミュニティバンクとして活躍しています。
13	(株)川邑研究所	目黒区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	固体被膜潤滑剤の研究・開発・製造・販売
14	機械研究(株)	台東区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	教育・研究用実験試験装置設計製造。大学、高専、工業高校、職業能力開発校、民間企業等に多数の納入実績があります。
15	(株)ククチ	品川区	(○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	ビルディングオートメーションシステムのメンテナンスサービス。設備管理サービス。電気計装工事。
16	(株)キトウ	千代田区	(○) 四大卒	中学校技術・家庭科および美術科・工芸科用教材・教具および機械・工具の専門店。工作機械、工作台等のメンテナンスサービスも充実させています。
17	(有)グローバル・コミッション	大田区	(○) 四大卒	製造業を中心とした中小企業へのコンサルティング。東京都立産業技術高等専門学校様との産学連携で大変お世話になっています。
18	恵雅堂出版(株)	新宿区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	卒業アルバム及び一般書籍の出版。
19	(株)建築資料研究社	豊島区	—	建築資料研究社は、日建学院をはじめとして書籍やハード・ソフト、関連用品、スクール等建築・建設に関する様々なニーズにお応え致します。(あなたの「夢」応援します。)
20	(株)小葉印刷所	中央区		創業80年の印刷会社。学会誌、書籍の編集・印刷に強み。近年、エディトリアルデザインやWeb用のデータ作成業務に力を入れている。
21	(株)コヤマ服装	府中市	—	学生服他、製造販売。
22	三和電気計器(株)	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	従業員70名の中小企業ですが、2011年に創業70周年を迎える現場用電子計測器の専門メーカーです。高品質のアナログテスタ、デジタルマルチメータ、クランプメータ、絶縁抵抗計などを製造し、日本国内はもとより世界74ヶ国以上に輸出し、SANWAブランド製品として高い信頼を得ています。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
23	(株)JTB 法人東京 東京教育旅行 東京東支店	千代田区	(○) 四大卒	個人旅行から修学旅行、遠足、クラブ合宿、職員旅行、謝恩会、海外語学研修、ホームステイプログラムといった団体旅行まで、様々な分野のご旅行のお手伝いをさせて頂いております。また、大きく変革する学校教育の課題解決にお応えするために「旅行業から教育コンサルタント業」へと変化し続けています。
24	実教出版(株)	千代田区	(○) 四大卒	高等学校用教科書・補助教材類・専門図書等の出版・販売および不動産賃貸業を展開。情報・実業科目に強み。情報教育・情報処理検定試験等にも注力している。1941年創業、従業員150名。
25	(株)昭和理化	豊島区	(○) 高校卒	消防用設備（自動火災報知設備、消火設備、避難設備）、弱電設備（インターホン、ナースコール、テレビ共聴、放送、映像、監視用テレビカメラ、防犯）の施工、保守。多様化社会の昨今、需要多く多岐にわたる技術及び法対応に自信を持って対応致しております。
26	(株)鈴木塗装工務店	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒	全国主要都市に支店・営業所を有し、ビル・マンション・工場等のリニューアル工事を多岐に亘り施工しております。また、安全・環境・美観対策に効果的な工法を積極的に取り入れた施工を行い、ISO 9001：2008 認証取得により品質管理を徹底しております。
27	青和信用組合	葛飾区	(○) 短大卒 (○) 四大卒	「限定地域主義」の方針のもと、葛飾区の8町、江戸川区の2町、足立区の5町に居住される約98,810世帯（人口208,420人）と、地域内で事業を営まれる中小企業、そこに勤務される方々を対象に活動しており、現在、約44,660世帯（63,667人）の個人の皆様と、2,444先の法人等の方々にお取引をいただいております。
28	(株)セレモニーユニオン	葛飾区	—	当社の事業内容：葬祭業・仏壇仏具の製造販売・墓石の建立のうち特に仏壇は当社の代表者自身が東京都認定の「東京仏壇」の伝統工芸士に認定されている。東京仏壇は、業界の中では超高級品として扱われている。
29	千住金属工業(株)	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒 (○) 大学院卒	携帯電話、コンピュータ等には欠かせないはんだでは世界のトップメーカーです。インテル社より2009年度最優良納入業者として表彰（世界で13社）を受けました。海外拠点も26ヶ所になります。
30	(株)第一科学	文京区	(○) 高校卒	高校、大学、官公庁（都内）への理科機器、コンピュータ、教育用機材の販売
31	太平観光(株)	練馬区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	昭和38年創業。学校関係主体の旅行業者。資本金8,000万円、従業員25名（常勤役員4、正社員20、パート1）。年商10億。学校関係70%、海外旅行10%、国内募集旅行10%、個人一般旅行10%。
32	大洋塩ビ(株)	港区	—	
33	(株)竹尾	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	1899年の創業以来、一般印刷用紙、特殊印刷用紙（ファインペーパー）の開発、販売を通して「情報の伝達」「環境の保護」「文化の向上」等の社会貢献に寄与しています。「ファインペーパーの竹尾」と全国に知れ渡り、約400銘柄、9,000種の紙を取り扱い、市場ニーズにあった製品の提供を続けています。
34	東京デンハン株式会社	千代田区	(○) 高校卒 (○) 短大卒	当社は専門商社の名にふさわしく、取扱商品は実に多彩。その種類は2万を超えています。主なものは各種抵抗器、コンデンサー、水晶振動子等、ケーブルコネクタ、ニッケル電池、組立加工、DVD、リードリレー、IC、液晶素子、プラズマディスプレイ、情報機器の開発設計、光ハイパー応用品等。
35	(株)チバダイス	葛飾区	(○) 専修卒 (○) 四大卒	プラスチック歯車の金型や金属の歯車を製作。自社歯車の開発や、研究所ではトライボロジーの研究も行っています。売上げの3割は海外との取引です。
36	鉄道機器(株)	中央区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	大正3年創業。昭和62年の国鉄民営化までは日本国有鉄道の指定工場として鉄道分岐器を専門に製作し、民営化後はJR各社をはじめ私鉄各社、各都府交通局等向け分岐器の設計・製作・販売を全国的に展開してきました。近時は特に低騒音化、低振動化、地震対策等、時代のニーズに対応した分岐器の開発・改良に注力しています。
37	東京ガス(株)	港区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	当社は、1885年の創立以来、120年余りの長きにわたり、首都圏を中心とした地域への都市ガス供給を通じて、お客様の豊かな暮らしや産業の発展を支えてまいりました。現在では、1000万件を超えるお客さまに対し、都市ガスに加え、電力・熱供給などエネルギーまわりの付加価値を提供させて頂いております。
38	東京書籍(株)	北区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	1909（明治42）年の創業。「教育と文化を通じて人づくり」を企業理念とし、新しい時代に挑戦する個性的、創造的な人材の育成を目指す。小中高等学校の教科書を中心に、ワークブック・問題集・辞典などの教材、ビデオ、パソコンソフト、教科書、辞典、エッセイなどを幅広く発行。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
39	東京スマイル農業協同組合	葛飾区	(○) 高校卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	概要：指導・信用・共済・経済事業等を行っている。特色：地域に密着した取組をしている。
40	東京電力(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	「エネルギーの最適サービスを通じて豊かな生活と快適な環境の実現に貢献していくこと」を経営理念に掲げ、電気を安定してお客さまにお届けするとともに、関連新規事業を展開しています。また、エネルギー教室（出前授業）・発電所見学会などを通して、学校教育への支援をさせていただいています。
41	東京都農業会館	立川市	—	
42	(株)東京都民銀行	港区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	昭和26年の創立以来、金融サービスを通じ、地元東京と中小企業の発展、個人の豊かなライフステージの実現のために、東京の頑張る人を応援している地方銀行です。お客様のニーズに合わせ、各種預金商品、融資商品の提供、近隣地銀の横浜銀行、千葉銀行やセブン銀行等と提携し、首都圏約8,000ヶ所のATMで平日日中に手数料無料でお引き出しできるネットワークの充実を図っています。給料日前に働いた範囲内で給料を受け取るサービス「前給」（特許取得済）の取扱、ビジネスマッチングのための展示商談会の開催、中国でのビジネス支援をするコンサルティング会社としての上海現地法人「都民銀商務諮詢（上海）有限公司」の設立、M&Aのご相談等様々な金融ビジネス展開を行なっています。
43	(有)東京プリンテック	世田谷区	—	“信頼を紙上に示す”をモットーに、お客様のご要望にきめ細かく対応することを心がけております。名刺・封筒・カタログ・冊子まで、便利な街の印刷屋さんを目指しています。
44	戸田建設(株)	中央区		
45	(株)トンボ鉛筆	北区	(○) 四大卒 (○) 工業高校卒	文具の製造販売。「書く」「消す」「貼る」の三つの分野を中心に商品を開発、販売しています。
46	(株)日刊工業新聞社	中央区	(○) 四大卒	わが国唯一のモノづくり総合紙
47	(株)日本化薬東京	足立区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒	当社はインクジェットプリンター用色素、繊維・紙パルプ用染料を製造しております。会社運営のキーワードとして（3つのCSQE）、即ち「コストダウン」「コンプライアンス」「コミュニティ」「セーフティー」「クオリティー」「エコロジー」掲げ、高機能都市型工場を目指しております。
48	日本自動ドア(株)	中野区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	日本自動ドアは、人々の暮らしの快適さと利便性の向上を目的とし、高品質の自動ドアエンジンと、迅速で信頼性の高いメンテナンスサービスを提供しています。
49	ニュー秋葉原センター	千代田区	—	
50	信川化学工業(株)	葛飾区	—	超大型射出成形機を多数設備し、プラスチック製品を製造する。中型・大型・超大型のプラスチック射出成形品には、J A 機器・建築・土木・工業品・自動車・家電・日用品雑貨等幅広い分野の製品がある。射出成形機 2,700t、2,200t、1,600t × 2、1,200t、850t × 4、650t × 2 他計 21 台。クレーン 20t、10t 他。
51	日野自動車(株)	日野市	(○) 中学卒	「人、そして物の移動を支え、豊かで住みよい世界と未来に貢献する」を社会的使命として掲げ、企業活動と地球環境保全との調和を図るとともに、世界各地域の経済発展に貢献すべく、安全かつ効率のよい輸送を担うトラック・バスの開発・製造・販売・サービスに努めております。
52	丸工化学(株)	葛飾区	—	プラスチック製品製造業。従業員17名。主に容器の製造。中空成形機14台。小はスポイト位の物から大は灯油缶位の物迄できる。
53	(株)三井住友銀行	千代田区	(○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	経営目標である「お客様、株主や市場、社会から最高の信頼を得られ世界に通じるトップバンクの実現」に向けて、強みである個人向けコンサルティング、中小企業向け融資、投資銀行ビジネスなどに注力しながら、他業態とのアライアンスなど新たなビジネスに積極的に展開していく。
54	(株)ムトーエンジニアリング	品川区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 四大卒	設計製図機器、光学式計測器の開発・製造・販売、リサイクルトナー販売。LED関連製品の製造・販売、オゾン関連商品の販売。CADソフト及びデバイス類の販売
55	(株)明輝	渋谷区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 四大卒 (○) 短大卒	プラスチック成型用金型製造。国内の工場は厚木、一関。海外は英、マレーシア、メキシコ、タイ。
56	森山精機(株)	文京区	(○) 高校卒	流体実験装置の製造販売並びに教育機器の販売を50年継続。

	企業会員名	所在地	過去5年間の採用実績 (○印)	企業の概要・特色
57	山崎教育システム(株)	東村山市	(○) 専修卒 (○) 四大卒	全国中学校、高等学校オリジナル実習教材、教育用ソフトウェア企画、開発、販売(全国代理店 500 社)
58	山崎製パン(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	パン・和洋菓子等の製造及び販売
59	ヤマ産業(株)	文京区	(○) 高校卒 (○) 四大卒	教育備品を販売して 50 年。学校よりの信用を得て、安定している。
60	(株)雄電社	品川区	(○) 高校卒 (○) 専修卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	昭和 5 年創業以来一貫して、電気設備工事の設計・施工を行う。全国展開し、支店など 8 拠点。民間を中心に年間 120 億円の工事高。
61	(株)読売新聞社東京本社	中央区	(○) 四大卒 (○) 大学院卒	「読売新聞」は 1874 年(明治 7 年) 11 月の創刊で、1000 万部を超える発行部数は日本一。創刊 140 周年を超える 2014 年の竣工を目指して、千代田区大手町に新社屋を建設中。工事期間は中央区銀座に一時移転している。
62	ルネサスエレクトロニクス株式会社	千代田区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	2010 年 4 月に(株)ルネサステクノロジと NEC エレクトロニクス(株)が合併して発足した半導体企業です。創造力を発揮し、絶え間ない技術革新により、世界中のお客様のニーズに誰よりも早く応えます。そして、信頼されるパートナーとして、持続的に成長する強いグローバル半導体企業を目指します。
63	ミリオンアロー(株)	千代田区	(○) 高校卒 (○) 高専卒 (○) 短大卒 (○) 四大卒	紳士服、製造、卸、小売。婦人スーツパターンオーダー。制服等の製造

個人会員

1. 堀居英治
2. 齋藤武捷
3. 倉持俊義
4. 梶谷正義
5. 末松茂孝

学校会員名簿

50音順

学校名	所在地	課程	平成23年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
私立高校				
1 爱国高等学校	江戸川区	全	普通科(240) 商業科(120) 家政科(80) 衛生看護科(40) 衛生看護専攻科(40)	平成22年春に新学生寮落成。普通科はA(一般教養)・B(進学)の2コースが、商業科は「会計」・「情報処理」の2コースがあり、どちらも公認資格をできる限り取得させる。卒業時に、家政科は調理師資格を、衛生看護科は准看護師受験資格を、衛生看護専攻科(上級2年コース)は看護師受験資格を取得する。上級学校には、上記衛生看護専攻科の他に、大学(人間文化学部)・短期大学(家政科)・保育専門学校(幼児教育科・介護福祉士専攻科)がある。
2 安部学院高等学校	北区	全	商業科(200)	1940年(昭和15年)に創立して以来、一貫して「商業教育のみの女子高校」と歩み続け、現在で満69年を迎えました。在校生には、「5つの挨拶」「資格取得」に力を入れて指導しています。2年次よりコース制になり、簿記1級の取得を目指す「会計コース」とパソコンなどの実務的な授業を多く履修する「ビジネスコース」の2コースに分かれて授業を行っています。卒業後の進路は、以前は就職する生徒が9割近くを占めましたが、現在は就職希望者だけでなく、進学希望者も増えています。
3 岩倉高等学校	台東区	全	普通科(120) 運輸科(105) 機械科(70) 商業科(70)	我国最初の鉄道学校として明治30年に創立。卒業生の多くは鉄道・運輸業界で活躍している。機械科・運輸科・商業科・普通科を持つ総合制高校として、就職のみならず進学面でも成果が顕著である。なお、平成21年4月に新校舎の完成を予定しており、充実した環境の中で、特色ある各科の内容の充実や新コースの設置等、生徒の夢をより具現化する新カリキュラムで学力の向上をはかっている。
4 大森学園高等学校	大田区	全	普通科(80) 工業系(280) 機械科 電気科 情報技術科 総合技術科	【創立】昭和14年大森地区の中小機械工場主により大森機械工業徒弟学校を創立。 【学校改革】創立70周年(平成21)にむけて「学校改革」始まる。平成16年、新校舎建築に着手。平成17年、学校名を「大森工業高校」から「大森学園高校」に変更。同時に普通科を新設し、第1期生をむかえる。平成19年校舎建築完了、普通科を共学化。平成21年4月、創立70周年記念式典を挙げる。
5 科学技術学園高等学校	世田谷区	通	普通科(2,750) 電気科(900) 機械科(600)	昭和39年に広域の通信制工業高等学校として創立し、すでに11万人超の卒業生を輩出している。昭和52年普通科設置とともに現校名に変更する。一般生を中心とした単位制のコースと集団生対象の技能連携のコースを持つ。平成18年4月より単位制に週4日通学コースを設置し、様々な生徒のニーズに対応できるようにしている。単位制は登校コースおよびeラーニングコースがあり、生徒個々の充実した学校生活をサポートしている。
6 蒲田女子高等学校	大田区	全	普通科： デザインクラス(30) 医療福祉クラス(40) 幼児教育クラス(80) スポーツクラス(40) 生活文化クラス(60)	昭和16年に漢学者・簡野道明の遺志により設立。「子供の教育に最も大切なのは母親であり、その母親となる女性の教育こそ教育の根本である。」にもとずき、道徳しつけ教育に重点をおき、自立する女性の育成を行っている。教育内容改革改善の取組みとして5つのクラス制を導入し、特に医療福祉クラスでは、ホームヘルパー2級、障害者ヘルパーの資格が取得でき、介護福祉士の国家試験受験資格を取得できる。2年次より看護系進学者に対する指導にも力を入れ特進クラスも設けている。
7 関東第一高等学校	江戸川区	全	特別進学コース(男女30) 進学選抜コース(男女70) 進学Aコース(男女120) 進学Gコース(男女160) スポーツコース(男80) 機械科(男80) 建築ビジュアル科(男女40)	平成18年度に建築とアートの融合を切り口として、建築科を建築ビジュアル科に科名変更した。同時に共学とし、女子生徒のデザイン教育にも重点を置く。
8 京華商業高等学校	文京区	全	商業科(150)	生徒一人ひとりの個性を伸ばすオンリーワン教育を推進。資格検定試験合格にむけたきめこまかい指導を行っている。また、はやくからインターンシップをとり入れるなど、キャリア教育にも力を入れている。
9 京北学園白山高等学校	文京区	全	商業科(160)	人間力を①自己学習能力②コミュニケーション能力③プレゼンテーション能力の3つの力と定義し、その育成に努力する。 現役大学進学率7割の新しいスタイルの商業科進学校。
10 昭和第一高等学校	文京区	全	普通科(280) 商業科(0)	昭和4年設立、平成17年度男女共学開始。 校訓「明るく、強く、正しく」のもとに生徒一人ひとりがしっかりとした目標を持ち、円満な人格と高い教育を身につけ、国際社会にも通用する心身ともに調和のとれた人間を育成する。きめ細かな教科指導はもとより、生活指導にも力を入れている。
11 昭和第一学園高等学校	立川市	全	普通科(331) 工学科(240) 総合工学コース 機械コース 電子情報コース 建築デザインコース	普通科：特進コース、総合進学コース(2年次より文。理選抜)。 工学科：1年次共通の科目を学ぶ。2年次から4つのコースに分かれる。総合工学コース、(進学向けのコース)、機械コース、電子情報コース、建築デザインコースで専門科目を学ぶ。
12 昭和鉄道高等学校	豊島区	全	鉄道科(215)	鉄道専門科目を通じ、サービス業務など実践的な教育に取り組んでいる。
13 大成高等学校	三鷹市	全	普通科： 特別進学コース(70) 文理進学コース(280) 情報進学コース(40)	大成は大きく変わりました！—伝統を活かした改革さらに充実—近年、大学進学が急速に伸び、部活動も活性化しています。それに[南館校舎](地上8階、地下1階)[アリーナまい進](講堂・体育館)の完成に続いて[第2体育館]が生まれ、学習環境・体育環境の充実が、進学・部活の成果を上げています。今、生徒の目が輝いています。

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
14	中央学院大学 中央高等学校	江東区	全 通	普通科 (35) 商業科 (65) 22 年度閉課程	少人数クラスをベースにしなが、生徒一人ひとりの将来を考えた教育を展開しています。中央学院大学への優先入学とともに、幅広い進路に配慮した指導に特色があります。
15	東京学園 高等学校	目黒区	全	普通科： 普通コース (245) 選抜コース (35)	「文化に産業に、社会の要請に順応できる有為の人材を育成する」という建学の精神の基、「知・徳・体」の 3 拍子揃った生徒の育成に努めている。また平成 18 年には目黒区と協定を結び、本校の敷地内を一部区に提供し、災害時に於ける目黒区の備蓄倉庫を設置し、本校の生徒だけでなく地域の方々にも貢献できる体制を整えている。
16	東京実業 高等学校	大田区	全	機械科 (135) 電気科： 電機コース (45) ゲーム IT コース (45) 普通科： ビジネスコース (180) 文理コース (90)	全科男女共学。週 5 日制。総合学園高校として各科、各コースの生徒は目的を持って学校生活を送ります。自立できる人間を育成するために、3 年間で各種の資格取得に力を注ぎ、進路の決定に役立てます。また、転科試験で学校生活を見直す機会を持ち、国際交流としてアメリカ・コロラド州への留学があります。 平成 22 年度より電気科ゲーム IT コースを新設する。
17	日本工業大学 駒場高等学校	目黒区	全	普通科： 特進コース (30) 理数特進コース (30) 総合進学コース (80) 工業科： 理数工学科 (80) 国際工学科 (40) 機械科 (80) 建築科 (40) 電子情報システム科 (40)	100 年間培ってきた工業技術教育を大切に、その有用性を生かした新しい時代の新しい普通科と工業科により、生徒の卒業後進路の多様化に具体的な支援をする。特に普通科は 22 年度、1 年から 3 年までが完成し卒業後の進路が注目される。
18	日本女子体育大 学附属 二階堂高等学校	世田谷区	全	普通科： 総合進学コース (80) 体育コース (80) 保健福祉コース (40)	本校は普通科の高校であり、総合進学・体育・保健福祉の 3 つのコースを設けています。旧来の福祉コースは介護福祉士の資格が取れる専門に重点を置いた教育に取り組んできましたが、平成 21 年度より保健福祉コースに改組しました。保健福祉は「福祉」という分野を保育・看護医療も含めた広い「保健福祉」という視野でとらえ、本気で生徒一人ひとりの可能性を引き出すコースとして再出発します。
19	八王子実践 高等学校	八王子市	全	普通科： 特進コース (80) 文理コース (160) 普通コース (240) 調理科 (80)	八王子の高台に位置し、優れた環境の中で、実践的な教育に取り組んでいる。平成 20 年度よりカリキュラムを一新し、普通科では特進コース・文理コース・普通コースの編成となる。 調理科については優秀な教授陣を要し、施設設備等最高のものを設置している。
20	朋優学院 高等学校	品川区	全	調理科・ 調理コース (45) デザイン科・ デザインコース (45) 普通科・ 特進コース (60) 進学コース (185) 美術コース (45) 国公立コース (15)	調理コース：食の幅広い知識として調理専門科目を学習。卒業時に調理師免許取得。 デザインコース：コミュニケーションツールとしてのデザイン、コンピュータや手作業による造形を体験学習・共同作業などで学習。 全コース (3 学科 6 コース) とも男女共学。
21	村田女子 高等学校	文京区	全	普通科 (80) 商業科 (82)	夢を叶え素敵な未来を拓くために、目的を持って現役進学を目指す普通科と現代社会に即した知識と技術を磨き、社会で活躍するステキな女性を目指す商業科。 村田は二科四コースで生徒一人ひとりのキャリアデザインを支援しています。 その柱になるのが「資格取得」教育。中学までは気がつかなかった自分の可能性を、「検定試験」への挑戦で引き出し、自信につなげていきます。
22	安田学園 高等学校	墨田区	全	普通科 (182) ビジネス情報科 (76) システム情報科 (40)	本学園は、創立者安田善次郎翁の建学の精神のもと、実践的能力に秀でた人材の育成を目指し、一人ひとりの個性の重視と可能性を伸張させる教育に重点をおいています。普通科に関するコース (特別進学・進学選抜・総合進学・中高一貫) と商業に関する学科にビジネス情報科・工業に関する学科にシステム情報科とし、社会に即応した教育を実践しております。
23	日野工業 高等学園	日野市	通	(40)	日野自動車株式会社にある、「モノづくり」のリーダーの育成を目指す企業内高校です。授業、実習、クラブ活動、様々な学校行事があります。知識・技能だけでなく、心の育成にも重点をおき、心技体のバランスのとれた人材を育成し、卒業後は各職場で活躍しています。

学校会員名簿

学校名	所在地	課程	平成23年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
-----	-----	----	----------------------	----------

都立高校

▽農業に関する学科				
1	都立園芸 高等学校	世田谷区	全 園芸科(70) 食品科(35) 動物科(35) 定 園芸科(30)	平成20年度に100周年を迎えたが、平成18年度に重点支援校の指定を受け、地域やNPO等との連携のもと「園芸高校リバイバルプラン」を推進している。園芸科、食品科、動物科では、2年次から、生徒の特性等に応じたコースを設け、食品科では、専門学校との連携により在学中に調理師の資格取得が可能である。定時制では家庭的な雰囲気での学習が進められ、園芸技術専修生制度もある。
2	都立農業 高等学校	府中市	全 都市園芸科(35) 緑地計画科(35) 食品科学科(35) 服飾科(35) 食物科(35) 定 食品化学科(30)	全日制では、農業・家庭の両科の専門学習とその教育資材を生かし、環境教育に取り組んでいる。学校設定科目「地域貢献」を通じて、生徒が専門教科の学習の目的を理解し、自信を持って学べるように取り組んでいる。平成19年より、都市からの農業の担い手育成事業である「東京アグリカレッジ」を東京農工大学をはじめとする地域の諸機関と連携・協力して開催している。さらに、食育、環境教育に重点を置き全校をあげて教材開発及び授業実践を行っている。定時制では、「食育」、「環境」、「奉仕」を三本柱として地産地消と循環型農業の学習に取り組んでいる。また、平成21年度入学生より三修制を実施しています。
3	都立農芸 高等学校	杉並区	全 園芸科学科(35) 食品科学科(70) 緑地環境科(35) 定 農芸科(30)	食料、農業、環境に関する地域のセンター校として、地域貢献活動を推進し、行動力豊かな生徒の育成に努めている。一昨年度環境省エコアクション21を取得し、環境マネジメントシステムを導入し、全校あげて環境負荷を軽減した学校運営に取り組んでいる。都立高校唯一の馬術部を有し、過去5年間連続して全国大会に進出している。
4	都立農産 高等学校	葛飾区	全 園芸デザイン科(70) 食品科(70) 定 農産科(30)	東京東部にある唯一の農業高校で、「食と緑の学園」をモットーに教育活動が行われている。全日制では、2学科4類型を設置している。園芸デザイン科では栽培からバイオ、フラワーデザインまで、食品科では加工から食品デザインまで広く体験を通して学べる。定時制は、園芸系と食品系両方を学ぶことができ、通常授業の前後に行なわれる授業を受けることにより、3年間で卒業できる制度があり人気が高い。
5	都立瑞穂農芸 高等学校	西多摩郡 瑞穂町	全 畜産科学科(35) 園芸科学科(35) 食品科(35) 生活デザイン科(70) 定 併合科(普通・農業)(30)	都内唯一の畜産科学科があり、大動物の飼育・管理が学習出来る。豊かな自然環境、恵まれた施設・設備の下、充実した専門科目の学習に取り組める。キャリア教育の一環として地域と連携した教育活動を推進し、望ましい職業観や豊かな社会性を育てる。定時制も規模が小さく、きめ細かな指導が行われ、大変落ち着いた学習環境である。
▽工業に関する学科				
6	都立足立工業 高等学校	足立区	全 総合技術科(175)	機械・電気系の総合技術科。1年は機械、電気基礎を共通履修、2年から機械系か電気系を選択、選択科目で得意分野を伸ばす。第二種電気工事士を中心に資格取得に力を入れている。地域密着の工業高校として、小中学校や地域連携を積極的に推進している。施設・設備拠点校に指定され、施設・設備が充実している。
7	都立荒川工業 高等学校	荒川区	全 電気科(70) 電子科(35) 情報技術科(70) 定 電気・電子科(30)	全日制では「ものづくり」に関する技術・技能を身につけさせる。電気系専門技術者に必要な基礎的な学力をつけさせる。社会で役立つ資格(第2種電気工事士等)を取得させ生徒に自信をつけさせる。とくに、第2種電気工事士の合格者は、6年連続30名以上の実績を誇る。定時制では基礎・基本の徹底を図り、分かる授業を行い、分かるまで教える。良いことを誉め、悪いことは正す。資格取得や検定合格で自信と意欲を育てる。
8	都立葛西工業 高等学校	江戸川区	全 機械科(70) 電子科(35) 建築科(70)	都教委指定のデュアルマイスター導入校(平成23年度入学生)施設が充実しており、設備拠点校実習を行なっている。地域産業界、小中学校と連携し、ものづくりを担う人材を育成。区役所や地域と協力し、地域に貢献する教育活動。
9	都立北豊島工業 高等学校	板橋区	全 総合技術科(175) 定 機械科(30)	○全日制 機械・電気系の総合技術科として工業に関する技術・技能を幅広く学び、社会に貢献できる人材を育成している。危険物取扱者、電気工事士、工事担任者など社会で役立つ資格取得にも力を入れている。また、平成21年6月にエコアクション21の認証を取得し、環境教育にも積極的に取り組んでいる。都教育委員会より施設・設備の拠点校として指定され施設・設備が整っている。 ○定時制 機械科単科1クラス落ち着いた雰囲気の中で、工業技術者として幅広い知識と人間性を涵養している。中学校の先生方から「中学校で不登校だった生徒が何故、高校には通えるのですか」と高い評価を頂いている。就職希望者の内定率100%を維持している。
10	都立蔵前工業 高等学校	台東区	全 機械科(70) 建築科(35) 電気科(35) 設備工業科(35) 定 建築工学科(30)	○全日制 東京都教育委員会からもものづくり人材育成教育プログラムに関わる「特定分野推進校」及び「ものづくり高大連携教育推進校」の指定を受け、3年生から進学コース、専門コースに分かれ、スペシャリストの育成を目指した教育を実践している。 ○定時制 都内の定時制課程で唯一「建築と設備工業」の専門を学べる。学修方法によっては、3年間で卒業も可能。学外単位の履修も弾力的に認定し、学ぶ側に立った教育活動を展開している。

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
11	都立工芸 高等学校	文京区	全 定	マシクラフト科(35) アートクラフト科(35) インテリア科(35) デザイン科(35) グラフィックアーツ科 (35) マシクラフト科(30) アートクラフト科(30) インテリア科(30) グラフィックアーツ科 (30)	本校は、100年を越える伝統と実績をもつ都内で唯一の工芸・デザイン系の専門高校です。ものづくりを通して個性と創造力を伸ばし、一人一人の感性と美的センスを磨き、心豊かな人間性をはぐくみます。ものをつくる技術は、心を伝える手段です。開校以来2万人を越える卒業生の中には、人間国宝や文化勲章受章者も輩出しており、デザイナー、ディレクター、作家、エンジニアをはじめとして、広く社会で活躍しています。また、在校生の活躍もめざましく、高校生ものづくりコンテスト全国大会での優勝や韓国・台湾等を含む大学生を対象としたコンペで大賞を受賞するなど各種のコンテストで常に上位入賞を果たし、ものづくり・デザイン等における生徒の感性・実力及び教育実績は全国のトップクラスにあり、内外から高く評価されています。卒業後の進路は進学が最も多く、有名国公私立大の美術系を中心に幅広い分野への進学を果たしています。
12	都立小金井工業 高等学校	小金井市	全 定	平成 22 年 3 月閉過程 機械科(60) 電気科・電子科(30)	昭和 14 年に開校し、昨年創立 70 周年記念式典を挙行了。地域に根ざした教育で、多摩地域を中心に、東京都の産業を支える人材を多く輩出している。卒業生数は 2 万人を超える。今年度から小金井工業は定時制のみとなる。全日制は多摩科学技術高校となり、科学技術科を設置し 1 学年が在籍している。
13	都立杉並工業 高等学校	杉並区	全	機械科(70) 電子科(70) 理工環境科(35)	都立工業高校で唯一(都立高校全体で 2 校)、環境マネジメントシステム ISO14001 を取得し、全教科で環境保全に関する学習を進めている。風力発電及びビオトープがある。平成 20 年度に高反射率塗装(屋上)及び窓遮熱フィルム貼付、太陽光発電設備拡大。資格取得に力をいれている。平成 17 年度の資格取得者数が都立高校 No.1。部活動が活発で、柔道部及び陸上競技部の関東大会出場など、どの部も輝かしい実績を残している。 平成 19 年度、「キャリア教育優良取組団体」として文部科学大臣表彰、「環境学習及び地域温暖化防止取り組み等」において環境大臣表彰及び東京都教育委員会表彰を受けた。
14	都立墨田工業 高等学校	江東区	全 定	機械科(35) 自動車科(35) 電気科(70) 建築科(35) 総合技術科(30)	全日制は、4 学科を持つ工業の専門高校として、自治・勤労・敬愛を校訓に掲げ、技術力を身につけた社会に役立つ人材の育成を行っている。資格取得や検定合格など実践的な教育に取り組み、進路希望達成率 100% を常に維持している。今年度 110 周年を迎える歴史と伝統を持ち、多くの卒業生が産業界をはじめ各方面で活躍している。定時制においても全日制と同じく進路希望達成率 100% を実現しており、生徒主体の実践的教育に取り組んでいる。
15	都立総合工科 高等学校	世田谷区	全 定	機械・自動車科(70) 電気・情報デザイン科(70) 建築・都市工学科(70) 総合技術科(60)	平成 18 年 4 月に世田谷工業高校と小石川工業高校を発展的に統合して開校。全日制では、大学進学に対応した教育課程を編成するとともに、学科の枠を越えた魅力ある学校設定科目を多く設定することで、充実した専門教育を行なう。海外修学旅行も含めた国際理解教育の推進と、部活動の振興を図る。 定時制では、資格取得を中心に、2 年次から自動車、電気・メカトロ、建築コースの 3 コースが選択できる教育課程を編成している。また、高等学校卒業程度認定試験、技能審査及び都立砂川高校通信制課程併修等の学校外における学修により、3 年間での卒業が可能な三修制を実施する。
16	都立田無工業 高等学校	西東京市	全	機械科(70) 建築科(70) 都市工学科(35)	本校は、機械科、建築科、都市工学科の三科からなる工業高校である。都市工学科は全国でも数少ない学科であり、建築科は多摩地区の工業高校では唯一本校に設置されている。「地域との連携」や「資格取得」に重点を置いた教育を推進しており、どの科も地域に根ざした技術者の育成を目標としている。
17	都立多摩工業 高等学校	福生市	全	機械科(70) 電気科(70) 環境化学科(35)	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和 38 年、西多摩地域に唯一の工業高校として開校、平成 22 年度で 48 年目を迎えた。平成 13 年度、時代とともに進展する生徒の多様化、産業社会のニーズ等に対応するため、工業化学科を都立高校で唯一の環境化学科に学科変更した。 ・さらに、地域産業を担う人材の育成、生徒個々の進路希望に応えるために、学科ごとに類型コース制を導入し、合わせて教育課程の改変を行った。 ・全校を上げての環境教育、環境活動が環境省が提唱する「エコアクション 21 環境経営システム・環境活動ガイドライン」の要求事項に適合するという事で平成 19 年 3 月「エコアクション 21」に認証・登録された。 ・平成 22 年度東京都教育委員会「スポーツ教育推進校」。 ・平成 23 年度「デュアルシステム」導入校
18	都立中野工業 高等学校	中野区	全 定	総合技術科(175) 総合技術科(30)	本校では、総合技術科の特色を生かして、一人一人の自己実現を応援する教育を行っている。また、都内で、唯一食品工業が学べる工業高校である。 1 学年で、工業の基礎を学習しながら、自分が目指す専門分野を探索する。 全日制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型、工業化学類型の係わる各コースを選択し、専門性を深める。 定時制課程では、2 学年から、機械類型、食品工業類型のいずれかを選択し、専門性を深める。
19	都立練馬工業 高等学校	練馬区	全	キャリア技術科(175)	平成 18 年度から、生徒の「やる気」を応援し頑張りを励ます学校として、工業高校初のエンカレッジスクール「キャリア技術科」をスタートさせました。基礎の基礎から学び直すことができ、工業分野の幅広い知識・技術を体験的に学びながら適性を見つけ、それを将来の進路選択に生かせる学校です。就業体験や資格取得にも力を入れ、3 年生では 6 系列(機械加工技術、オートメカニック技術、設備技術、コンピュータ技術、デザイン・DTP 技術、インテリア技術)から選択して、より専門的な学習を行います。
20	都立八王子工業 高等学校	八王子市	定	募集停止	平成 21 年度、第 4 学年のみ。平成 22 年 3 月閉過程・閉校。

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
21	都立府中工業 高等学校	府中市	全	機械科 (35) 電気科 (70) 情報技術科 (35) 工業技術科 (35)	都教委より「ものづくり人材育成プログラム」の指定を受け各種資格取得に向けた指導に積極的に取り組んでいる。 野球部を中心にバスケット部、陸上部、少林寺拳法部、自動車部など活発に活動し実績をあげている。
22	都立本所工業 高等学校	葛飾区	定	総合技術科 (30)	<ul style="list-style-type: none"> ・少人数指導の特色を生かし、きめの細かい・わかりやすい指導を推進している。 ・生涯にわたるキャリア設計に基づいた進路実現が図れるよう支援する。そのための技能・資格取得の指導が充実している。 ・平成 18 年に新校舎が落成。平成 19 年度にグラウンド、人工芝テニスコートも含め、全面改修工事完了。
23	都立町田工業 高等学校	町田市	全	総合情報科 (175)	総合情報科は、情報デザイン、アプリケーション、情報システム、電気システム、機械システムの 5 つの系列からなり、1 年生では系列に関わりなく同じ学習内容を行います。2 年生から自らの興味関心、進路希望等により各系列にわかれ勉強します。選択科目も多く、充実した施設・設備を活用し、自分にあった教育課程が選択できます。
▽工業に関する学科 (単位制)					
24	都立六郷工科 高等学校	大田区	全	プロダクト工学科 (70) オートモビル工学科 (35) システム工学科 (35) デザイン工学科 (35)	平成 16 年 4 月に開校した、都立高校で初めての単位制・二期制の工業系高校である。東京都初の東京版デュアルシステムを持ち、夜間定時制課程も設置されている。全日制課程には、機械系のプロダクト工学科、自動車 3 級整備士資格取得可能なオートモビル工学科、電気電子情報系のシステム工学科、コンピューターグラフィックスとプロダクトデザインが学べるデザイン工学科の 4 科がある。各科ともに、一年次から「工業技術基礎」を中心に工業分野の基礎・基本を学べる。普通科目も 1 学年と 2 学年の英語・数学を習熟度別クラス編成にしたり、進学に必要な自由選択科目を用意している。 デュアルシステム科は、将来のものづくりを担う人材育成のために設置された全国で唯一のデュアルシステム専門の科である。地域の企業と学校で連携して生徒に技術指導する。企業での長期就業体験を最大 29 単位卒業の単位として認めている。 夜間定時制には、単位制と 3 修制を取り入れた生産工学科と普通科の 2 科がある。
			定	定時制過程： 普通科 1 学年 (30) 生産工学科 1 学年 (30)	
▽科学技術科					
25	都立科学技術 高等学校	江東区	全	科学技術科 (210) 専攻科 (40)	都立高校改革推進計画に基づき設置された新しいタイプの進学型の専門高校です。平成 19 年度から文部科学省のスーパーサイエンスハイスクールに指定され「科学技術と人間」などの特色ある学校設定科目の設置、分野選択制、理系進学に対応した豊富な学習量と少人数指導などを特徴として、大学や研究機関と連携を図りながら、理論・実験（実習）、研究の 3 ステップ学習による科学技術教育を行っています。
26	都立多摩科学 技術高等学校	小金井市	全	科学技術科 (210) 予定	理系大学進学を前提とした進学型専門高校です。将来、理学、工学、薬学、医療など様々な分野で科学技術者として活躍することを目指し、科学への視野を広め、基礎力と基礎学力を高めます。インフォメーションテクノロジー、ナノテクノロジー、バイオテクノロジー、エコテクノロジーなど先端科学技術の基礎に関する幅広い学習と、大学入試に備えた数、英、理を中心とした普通教科学習に力を入れています。
▽商業に関する学科					
27	都立赤羽商業 高等学校	北区	全	商業科 (210)	社会を構成し運営するとともに自立した一人の人間として生きていくための総合的な力である【人間力】を培いつつ、生徒の目的意識を育成・高揚させ、その特性を伸ばさせる取り組みを重視した教育活動を展開している。その上で、【資格の赤商】【部活の赤商】【ボランティアの赤商】の 3 つの柱を中心に、多彩な学びや体験活動を通して、就職や進学など生徒の多様な進路実現を支援する学校を目指している。
28	都立足立 高等学校	足立区	定	普通科 (90) 商業科 (30)	学級数 17、在籍生徒数約 300 名の大規模な夜間定時制課程で、商業科は 4 学級ある。英語科で習熟度別授業を実施するとともに、芸術科では 2 名の専任教諭により豊かな情操を育てている。定時制のコンピュータ教室は 18 年度最新機種に更新された。学校規模を生かし文化祭やスポーツ大会など数多くの学校行事が行われる一方、部活動もさかんである。
29	都立荒川商業 高等学校	足立区	全	総合ビジネス科 (210)	平成 18 年度より文部科学省「目指せスペシャリスト」スーパー専門高校に指定（3 年間）され、特色ある教育活動を展開している。地元商店会の PR フラッグのデザインを考案（年 4 回更新）したり、生徒のデザインによるラッピング都電（外装塗装）を、平成 18 年より 22 年 3 月まで通常運行させるなど地域に根ざした教育活動が高く評価されている。生徒商業研究発表大会・全国産業教育フェアにも参加。平成 21 年度創立 50 周年を迎えた。
			定	商業科 (90)	
30	都立大田桜台 高等学校	港区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	平成 21 年度に開校した都内で 2 校目となるビジネスコミュニケーション科の進学型専門高校です。「本当に英語を使える人」を育てるために約 7,000 冊の英書を活用した「英語多読」の授業や「アメリカン・キャンプ（1 年生）」「キャリア・アップ修学旅行 in 九州 APU（2 年生）」などの学校行事を行います。また、「キャリア・デザイン」「東京の経済」「ファイナンス」「ビジネスモデル研究」など多様な学校設定科目により充実したビジネス教育を行います。平成 23 年度より大田区に全面改築をし、移転します。
31	都立五日市 高等学校	あきる野市	全	普通科： 「ことばと情報」の コース (80) 商業科 (70)	本校は四季折々に変化する武州の山なみに囲まれた静かな五日市にあります。普通科は平成 17 年度より「ことばと情報」のコースに改編しました。このコースではコミュニケーション能力の修得を柱とし 3 年間で「ことばの力」を身につけます。商業科では二年次に「簿記コース」と「情報コース」に別れ、これからの社会に対応した知識・能力・資格の修得を目指します。23 年度入学者選抜では、普通科及び商業科ともにバスケットボール女子 1 名ずつの文化・スポーツ特別推薦を実施します。 定時制は面倒見が良い指導で定評があります。進路実現 100%を目指しています。
			定	併合科 (30)	

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
32	都立葛飾商業 高等学校	葛飾区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	全日制、定時制ともに葛飾区に根ざした地域の専門高校として、キャリア教育の充実を図り、資格取得をめざし生徒一人一人の進路実現を確実に果たしている学校です。全日制は 22・23 年度部活動推進指定校となりました。定時制は、マーケティング部はもとより、バスケット、バレー、芸術部門の部活動がさかんで、生徒の活躍が学校全体の活力になっています。
			定	普通科 (30) 商業科 (30)	
33	都立江東商業 高等学校	江東区	全	総合ビジネス科 (175)	ビジネス三言語 (IT、会計、英語) に力点を置き、実践的な商業教育を核として教育活動に取り組んでいる。同時に、社会人としての必須のマナーを身につけた生徒の指導を行っている。さらに、クラブ活動の振興を積極的に図り、学んで楽しい学校作りを目指している。
34	都立芝商業 高等学校	港区	全	商業科 (210)	平成 17 年度より 4 年連続日本商工会議所 1 級合格者 (大学卒業レベル) を出す。公認会計士や税理士の道が開かれています。このような高度資格取得を基に、就職と進学にも力をいれています。「天下の芝商」として、商業 (ビジネス) 教育の先導的役割を果たしている学校です。
35	都立第一商業 高等学校	渋谷区	全	商業科 (210)	東京都の商業高校のリーダーとして、生徒に愛され、地域に愛され、都民の皆様信頼される学校として、教職員が一丸となって教育活動をすすめている。高度な資格取得、大学進学・企業就職の両方に対応した教育課程と進路指導を充実させており、半数以上の生徒が四年生大学進学で、指定校や公募推薦等で現役合格している。平成 18 年度には、卒業生が公認会計士試験に全国最年少 (20 歳) で合格した。ソフトボール部及び簿記部など部活動も活発であり、地域との連携では、各種の学校開放事業、地域の行事への参加、出前授業等「地域に学び、地域に貢献する学校」として高い評価を得ている。
36	都立第三商業 高等学校	江東区	全	商業科 (210)	全日制・定時制ともにこれからの日本の経済社会を担う人材を育成する学校として常に商業教育の充実を図っています。良き伝統を継承し、商業教育を幅広く「ビジネス教育」として捉え、生徒の希望する進路を 100% 保証できる新たな三商 (SUN 商) として、リスタートしました。今後も大学進学や就職に十分対応できる教育課程の点検・改善に鋭意取り組んでいきます。
			定	商業科 (30)	
37	都立第四商業 高等学校	練馬区	全	商業科 (140) 情報処理科 (70)	一マナーの四商、資格の四商、基礎・基本からビジネス社会での自立に向けて一創立 70 周年を終え、今年度から全日制課程のみのビジネス専門学校として新たな歩みを始めました。商店会のポスター・チラシ、Web ページ制作等地域連携や IT パスポート試験合格など着実に力を磨いています。部活動も盛んで、珠算部・簿記部の全国大会出場、アーチェリー部の関東大会出場をはじめとし、硬式野球・女子バレー等もめざましい活躍をしています。
38	都立第五商業 高等学校	国立市	全	商業科 (210)	全日制課程は、「資格の五商」「部活の五商」といわれる伝統校です。生涯にわたる学ぶ土台となる基礎基本を幅広く身につけ、社会人としてふさわしい感性やマナーを磨く学校です。定時制課程は、①基礎基本の学習を大切にします。②生活指導に力を入れて指導します。③資格取得と進路実現に力を入れます。④一人ひとりの夢を実現するために計画的に指導します。
			定	商業科 (60)	
▽ビジネスコミュニケーション科					
39	都立千早 高等学校	豊島区	全	ビジネスコミュニケーション科 (210)	・英語とビジネス教育に重点をおいた進学型専門高校。 ・「使える英語」を目指して「多読と発表」を授業に取り入れ、会話もイングリッシュキャンプ (1 年)、海外修学旅行 (2 年) と行事で実践。 ・新しいビジネス教育分野に NPO / NGO を学ぶ学校設定科目として「コミュニティデザイン」を設置。ビジネスで社会を学び大学卒業後を見据えた進学を特色とする。
▽家庭に関する学科					
40	都立忍岡 高等学校	台東区	全	普通科 (160) 生活科学科 (70)	平成 18 年 4 月 1 日、全日制・単位制、普通科と生活科学科の併置校として開校した。学科の目標は、普通科「大学進学希望の実現」、生活科学科「将来のプロフェッショナルとして必要な資質・能力の育成、大学進学希望の実現」である。単位制を活用して様々な選択科目を設置するとともに、習熟度別授業、少人数授業により基礎的・基本的な学力の定着に努めている。また、大学・専門学校と連携した専門性の高い授業も実施している。茶道、華道、将棋などの「日本の伝統文化」を自由選択科目として第 7 限に設置している。
41	都立町田 高等学校	町田市	全	普通科 (320) 家政科 H22 年度から 募集停止	戦前からの長い伝統を誇る本校家政科は、一般教養を高めるとともに、被服・食物・保育等の生活に関する理論と実習、またフードデザイン・ファッションデザイン・被服製作・発達と保育・家庭情報処理・家庭看護福祉などのユニークな専門科目を通して、高度な専門的技術・知識の習得、並びに豊かな人間性を育てることを目標に取り組んでいる。
▽福祉に関する学科					
42	都立野津田 高等学校	町田市	全	福祉科 (35)	平成 8 年度より普通科看護福祉コースとしてスタートし、平成 18 年度から学科改編をおこない、東京都として初の福祉科を設置した。介護福祉士の国家試験の受験資格が得られる唯一の都立高校である。

	学校名	所在地	課程	平成23年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
▽国際関係に関する学科					
43	都立大島海洋 国際高等学校	大島町	全	海洋国際科 (80)	「海を通して世界を知る」というコンセプトに基づき、体験的な国際教育・海洋教育により、21世紀の課題を発見・探求するとともに、これに貢献する高い志と国際化社会に対応する優れたコミュニケーション能力、良識、学力、逞しさをもつ国際人を育成します。2年生からは「国際社会系」と「国際海洋系」に分かれ、前者は文系4年制大学、後者は理系・海洋系4年制大学や海洋系公務員等を目指します。また、都立高校唯一の実習船大丸による国際航海学習、海外語学研修を行い、寄宿舎においては自律的な生活習慣を育て、学習サイクルと「宅習3時間」による学習習慣により、生徒の進路実現を図ります。
▽併合科					
44	都立大島 高等学校	大島町	全	併合科(農林・家政) (35)	農林科・家政科で構成されている。約17万㎡という都立高校の中で、もっとも広い校地を所有し、その半分を農林科が実験及び実習地として管理している。平成18年3月には、パーソナルコンピューターを20台更新し、実業意欲向上プログラムやふれあいロードプログラムに積極的に取り組んでいる。家政科は、大島町の生活産業や社会福祉施設と幅広く連携し、職業人、地域人としての自覚を促す授業を展開している。
45	都立八丈 高等学校	八丈町	全	普通科(120) 併合科(園芸・家政) (35)	八丈島唯一の高等学校として、地域のニーズから左記の各科を設置している。敷地面積は約7万平米(東京ドームの1.5倍)を有する。全日制は習熟度別学習や少人数制を導入し、生徒の学力に応じた授業を展開している(昨年度進路実績100%)。部活動が大変盛んで、生徒の約85%が所属している。部活動は大変盛んで、生徒の約85%が所属している。定時制は三修制を取り入れるなど、生徒の要望に柔軟に対応している。島のほぼ中央に位置し、学校内外、花と緑に囲まれた素晴らしい環境にあり、東京空港(羽田)から空路約50分、1日3便就航。大変至便な学校である。
			定	普通科(30)	
46	都立三宅 高等学校	三宅村	全	併合科(農業・家政) (35)	併合科は、農業科または家政科の専門科目を中心に学び、食の生産や加工、生活の改善などに積極的に取り組む能力を身につけさせる学習を行っている。少人数の長所を生かし、生徒一人ひとりの個性・能力を伸ばす指導を実践している。
▽産業科					
47	都立橋 高等学校	墨田区	全	産業科(210)	本校は、キャリア教育を重視し、「ものづくりから流通、販売まで」を総合的に学習して、産業界で活躍する人材や起業家を育成することを目標予定されていることから、「ものづくり・ビジネス・IT」を専門教育の柱に、勤労観・職業観を身に付ける教育を実践します。
			定	産業科(60)	
48	都立八王子桑志 高等学校	八王子市	全	産業科 ：デザイン分野(70) ：クラフト分野(35) ：システム情報分野(35) ：ビジネス情報分野(70)	本校はIT特区&学園都市八王子に開校、産業界や地域社会との連携を進展させます。国家試験をはじめ高度な資格取得や検定合格で自信をつけ将来を切り開き、複眼的に考える力と専門性を身につけ各界において活躍する人材を育て、広く社会から信頼される学校を目指します。特色は、桑高ブランド指導計画「千の夢計画」をもって時代の要請に応える人材育成です。
▽情報科(単位制)					
49	都立新宿山吹 高等学校	新宿区	全	普通科(150) 情報科(65)	都立高校で最初に「単位制・無学年制」の昼夜間開講の普通科と情報科を設置した学校で、定時制・通信制(通信制は毎週土曜日にスクーリングを実施している)を併設している。また、生涯学習講座も開講しており、生徒も生涯学習講座を受講でき単位認定している20年目を迎えた特色ある学校である。生徒は自分の生活スタイルや学習ペースに合わせて学習に取り組んでおり、毎年、国立大学、難関私立大学や専門学校への進学をはじめ公務員、就職などにも力を入れている学校である。通信制課程では、添削・スクーリング・定期考査の3点セットをクリアしないと単位認定できない全国でも先進的な学校である。
			定	普通科(110)	
▽総合学科(単位制、チャレンジスクール)					
50	都立青梅総合 高等学校	青梅市	全	総合学科(240)	平成18年旧都立農林高等学校跡地に、全・定併置の総合学科高校として開校した。都立高校随一の広大な校地、大規模改修を行った新校舎、充実した施設・設備を有している。全日制課程は文科・理科、生命・自然、食品・健康、環境・資源、生活・福祉の5系列を設けている。定時制課程は生命・自然、生活・福祉の2系列を設けている。
			定	総合学科(90)	
51	都立葛飾総合 高等学校	葛飾区	全	総合学科(240)	平成19年4月に開校した東京東部地区初の全日制総合学科高校。国際コミュニケーション、スポーツ福祉、生活アート、環境サイエンス、情報メディア、メカトロニクス等の6系列を設置し、生徒の興味関心に応じた幅広い選択科目と大胆な選択制を採用して、生徒一人ひとりに明確な目的意識を育てつつ、進路実現を図る。
52	都立杉並総合 高等学校	杉並区	全	総合学科(240)	都立桜水商業高校と都立永福高校とを前身として、平成16年度に都立で3番目の総合学科高校として開校。国際理解教育やキャリア教育を重視、部活動の推進や学校行事の充実などと合わせて、生徒の意欲を高め「生きる力」を育て、個性や能力の伸長をめざす。
53	都立世田谷総合 高等学校	世田谷区	全	総合学科(240)	○平成20年4月開校 ○幅広い6系列(社会・教養、環境・サイエンス、国際・文化理解、情報デザイン、ライフデザイン、ものづくり)に100科目以上を配置し、大幅な科目選択制で、一人ひとりにきめ細かく対応した時間割を作成。 ○生活マナー(身だしなみ、頭髪等)を重視し、自主・自律の態度を育成するために、ノーチャーム、ノー放送を展開。男女ともに制服を決め、毎日校門指導を実施。女子制服には、パンツスタイルも採用。 ○進路実現をサポートするために、「産業社会と人間」の授業の他、キャリア教育を重視

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
54	都立つばさ総合 高等学校	大田区	全	総合学科 (240)	平成 14 年に新規開校した都立 2 校目の総合学科高校である。国際・コミュニケーション、美術・デザイン、スポーツ・福祉、情報・サイエンス、生産・テクノロジーの幅広い 5 系列を持ち、生徒の能力、興味・関心に基づいた個人別カリキュラムで勉強ができ、大学進学を中心とした希望進路を実現している。ISO14001 (国際環境認証) を取得し、環境教育にも力を入れている。平成 19 年度「環境大臣賞」を、平成 21 年度には「文部科学大臣賞」を受賞した。地域との連携も深めている。
55	都立晴海総合 高等学校	中央区	全	総合学科 (240)	東京都の総合学科高校のバイオニア校として平成 8 年に開校。近代的で充実した校舎・設備を持ち、「産業社会と人間」の工夫やキャリア教育の充実をベースに、情報システム、国際ビジネス、語学コミュニケーション、芸術・文化、自然科学、社会経済の 6 系列に多様な選択科目を設置し、大学進学を視野に入れた生徒の進路実現を図れる学校である。
56	都立東久留米 総合高等学校	東久留米 市	全	総合学科 (240)	本校は、平成 19 年 4 月に開校した全日制、定時制併置の総合学科高校。全日制では、学ぶ意欲を育てるための魅力授業や先進的な進路指導により大学などへの希望進路の実現を図る。自然科学、人文科学、情報・ファイナンス、スポーツ科学、看護・福祉、美術・デザインの 6 系列を設置。定時制では、教養、情報・ファイナンスの 2 系列を設置するとともに、三修制を実施。
			定	総合学科 (60)	
57	都立若葉総合 高等学校	稲城市	全	総合学科 (240)	平成 17 年度に開校した、多摩地区最初の総合学科高等学校。自らを「進路指導充実校」と名づけ、多彩な教育活動により生徒の意欲と力を伸ばし、進路実現を目指す。人間探究・芸術表現・伝統継承・情報交流の 4 系列を持つ。 教育目標のコンセプト ” TO BE AMBITIOUS, ACTIVE, AND ATTRACTIVE ” ※大志を抱き (AMBITIOUS)、生き生きと活動し (ACTIVE)、魅力あふれた (ATTRACTIVE) 若者を育てる学校
58	都立町田総合 高等学校	町田市	全	総合学科 (240)	○平成 22 年度 4 月開校、全日制総合学科高等学校 ○社会での生き方を視野に捉えた「キャリア教育」を教育活動の根幹とした学校 ○校訓「創」;「自分創り」に取組み、「社会創り」の基礎を身に付け、「未来創り」に備える。 ○基本的な学力を養うとともに、生徒一人ひとりが自己実現のための科目を自ら選択する。自分で創る自分自身のための時間割 ○「暮らし」「ひと」「まち」「自然」の 4 つの系列・自らを磨く「日本文化」の授業社会と連携し、体験を重視した教育活動・自主・自立・自律の部活動
59	都立大江戸 高等学校	江東区	定	総合学科 (150)	平成 16 年 4 月開校の三部制総合学科 (単位制、定時制) 高校。「伝統・文化」「情報・ビジネス」「生活・福祉」の三系列があり、地域に根ざした特色ある教育活動を行います。体験学習や実習を重視し、少人数の授業で一人一人が分かるまで指導します。「一人一人の学びを実現する学校」「一人一人のチャレンジを支援する学校」「地域に支えられ育てられる学校」
60	都立桐ヶ丘 高等学校	北区	定	総合学科 (150)	平成 12 年度に開校した、最初のチャレンジスクール (総合学科、単位制、昼夜間開講三部制の定時制) です。 『夢・挑戦・感動』を校訓に「福祉教養」「情報ビジネス」「アート・デザイン」の 3 系列で①多様な教科・科目を設置した総合学科②基礎・基本の重視③単位認定の弾力化④体験学習の重視⑤充実した相談体制 など、特色ある教育活動を展開しています。
61	都立世田谷泉 高等学校	世田谷区	定	総合学科 (180)	「学ぶ時間帯」を選べる三部制、「学ぶ計画」を選べる単位制、「学ぶ科目」を選べる総合学科のチャレンジスクールといわれる定時制の学校です。「制作・技術」「生活・福祉」「創作・表現」の三系列があり、たくさんの選択科目や体験学習を用意しています。
62	都立総ヶ丘 高等学校	中野区	定	総合学科 (210)	平成 19 年 4 月に昼夜間開講の定時制、単位制、総合学科のチャレンジスクールとして、都立四谷商業高校の敷地に開校した。安心してチャレンジするための「学校環境」、チャレンジの成果を確実にあげる「科目の積み重ね」、チャレンジを飛躍につなげる「キャリア教育」を行う。系列では、情報・デザイン、ビジネス・コミュニケーション、人間・環境の 3 つの系列を置く。
63	都立六本木 高等学校	港区	定	総合学科 (150)	平成 17 年に開校し六年目を迎えたチャレンジスクール。小・中学校において不登校を経験した生徒、高校を中退した生徒及び、これまでの教育の中では十分に力を発揮できなかった生徒が自分の夢に向かってチャレンジしている。教育目標は「見つけて磨いて 未来を拓く」である。演劇・美容・和太鼓・陶芸等、市民講師による特色ある授業も実施している。三修制により平成 22 年度末には第 4 回目の卒業生が出ます。
▽普通教育を主とする学科 (単位制)					
1	都立浅草 高等学校	台東区	定	普通科 (240)	平成 18 年 4 月開校。生徒のライフスタイルに応じた柔軟な教育課程を持つ、昼夜間三部制、普通科の単位制高校である。9 階建て全館冷暖房完備のオフィスビルディングタイプの校舎と地下に年間フル稼働の温水プールを持つ。学び直しから大学受験まで対応するカリキュラムと保育体験や介護体験のできる「体験学習」などを特色とする。

国立高校

1	東京工業大学 附属 科学技術 高等学校	港区	全	科学・技術科 (推薦 60、一般 140)	科学技術における基礎学力の充実に重点を置き、高大連携の強化により、先端的な科学技術を注視しながら、より高度な教育に対応できる多面的素養を身に付けることが出来る授業を展開している。2 年次から、応用化学、情報システム、機械システム、電気電子、建築デザイン 5 分野に分かれる。
---	------------------------------	----	---	--------------------------	---

	学校名	所在地	課程	平成23年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
高等専門学校					
1	都立産業技術 高等専門学校	品川区 荒川区	全	ものづくり工学科 (320) 創造工学専攻 (32)	工業高専と航空高専が一つになり、本科の”ものづくり工学科”内に新たな教育8コースを設置するとともに、2年間の高度な専門知識及び技術を学べる専攻科を加え平成18年4月に都立産業技術高等専門学校として開校しました。本校では首都東京の産業振興や課題解決に技術的観点から貢献できる”ものづくりスペシャリスト”の育成を目指しています。また、平成20年4月には公立大学法人首都大学東京に移管し、産業技術大学院大学との連携による9年間一貫のものづくり教育を推進していきます。科学技術の高度化、複合化、グローバル化に迅速に対応できる創造的で実践的な技術者を育成することを目指し、平成18年4月に、専攻科が設置されました。現在、産業技術大学院大学接続コースを含む6つのコースがあります。
専修学校					
1	愛国学園保育 専門学校	江戸川区	昼	幼児教育科 (50) 介護福祉士専攻科 (40)	本校は、昭和44年に設立された伝統のある専門学校である。幼児教育科は、卒業と同時に保育士資格、幼稚園教諭2種免許状が取得でき、介護福祉士専攻科は、卒業と同時に介護福祉士資格が取得できる。学生は、完備された学園において、斯界の権威ある教授に囲まれ、楽しく熱心に勉強している。 就職についてみると、幼児教育科は毎年ほぼ100%の就職率となっており、幼稚園や保育所などに就職している。介護福祉士専攻科は、毎年100%の就職率となっており、介護老人福祉施設などに就職している。 卒業生は勤務先から、専門に精通しており、明るく元気で、礼儀正しく、真面目で就職後もよく成長するという評価を得ている。
2	青山製図 専門学校	渋谷区	昼 夜	建築工学科 (35) 建築設計デザイン科 (80) 建築インテリア工学科 (35) 商空間デザイン科 (30) 建築インテリアデザイン科 (65) 建築設計研究科 (60) 建築科 (60) インテリア工学科 (30)	昭和52年に設立以来、設計・製図・デザイン・CADの技術者を輩出している。現在、建築・インテリア系の8学科を設置。実践的な授業を展開し、産業界のニーズに沿った即戦力となる技術者、国際性豊かな幅広い知識を持った常識ある社会人の育成を目指している。
3	国際デュアル ビジネス専門 学校(新校名) 国際観光専門 学校(旧校名)	台東区	昼	国際観光学科 4月生 (40)10月生 (40) 国際ホテル学科4月生 (40) 国際ホテルデュアル学科 4月生 (40) 航空貿易学科4月生 (40) 医薬デュアル学科4月生 (40)	実践的な観光、医療及び薬業従事者の育成を目指し、座学と企業実習を組み合わせた教育を行っている。 現場力のある職業人を養成していく。 平成22年4月より国際デュアルビジネス専門学校と校名を変更した。
4	国際理容美容 専門学校	荒川区	昼 夜 通	専門課程⇒理容科 (80) 美容科 (120) ビジネス美容科 (120)【修 業年限2年】 高等課程⇒美容高等科 (40)【修業年限3年】 専門課程⇒美容科Ⅱ部 (40)【修業年限2年】 理容科 (40)、美容科 (80) 【修業年限3年】	理容師・美容師の育成、ホスピタリティマインド豊かなエステティシジャンの養成等で、本校が半世紀に渡る教育を育んできた、技術教育を超えた「技術者教育」と、心と技術が織りなす感動を未来へ伝承することができる「美の創造者」を育成することを目指しています。
5	中央工学校	北区	昼 夜	建築学科、建築工学科、 建築設計科、女子建築設 計科、木造建築科、建築 設備設計科、建築室内設 計科 (240) インテリアデザイン科、 インテリア科 (40) エン ターテインメント設営科 (20) 都市環境学科、木 建設科、造園デザイン科、 測量科、地理空間情報科 (100) 機械学科、メカニ カルデザイン科、3D-C AD科 (50) スポーツ 健康学科 (40) 建築科 (80) 土木科・測量科 (30)	中央工学校は1909年(明治42年)に創設し、2009年10月21日創立100周年を迎えた。伝統と歴史を誇る専門学校で、社会に送り出した卒業生は10万人を超え日本の国づくりをリードしています。教育理念を『厳しい実務教育』『人間涵養教育』『楽しい学校生活』『誇りの持てる学校』とし、時代の変化やニーズに対応した教育内容と実習施設・設備を完備し、本格派の技術者を育成しています。学習免においては、クラス担任制で決め細やかな指導を行い、教師人も技術革新の時代にふさわしい内容で備えています。学生寮なども充実しており、地方からの進学者にも安心して学べる環境となっています。資格についても建築系の全ての学科で卒業と同時に2級建築士の受験資格、土木・造園・測量系学科では国家資格の測量士補が卒業と同時に無試験取得できる学科などプロフェッショナルになるためのカリキュラムを整えており、また、資格取得のバックアップ体制も整えています。就職指導においては、全国に広がった卒業生とのネットワークを活かしてクラス担任と就職指導の担当職員が連携を取り、学生の希望職種に就職できるようにしっかりとサポートしています。毎年ほとんどの学生が自分の目指す職業に内定を決めています。『中央工学校=就職に強い学校』の評判は広く社会に認められています。
6	東京エアトラベル・ ホテル専門学校	小金井市	昼	エアライン科 (100) ホテル科 (80) 観光旅行科 (40) 鉄道交通科 (40) ブライダル科 (40) 国際英語科 (80)	昭和48年の設立と同時にスイス航空日本人スチュワーデス第一期生の採用と教育を実施。以来、エアライン、ホテル、観光、ブライダル、英語の各分野に優秀な人材を送り出している。仕事に直結した豊富な実習や海外研修、インターンシップ実習で企業の現場を体験したり、ことば遣いや礼儀作法などのホスピタリティ教育にも力を入れている。こうした教育内容が企業から厚い信頼を得て、高い就職率につながっている。

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
7	東京工学院 専門学校	小金井市	昼	研究科 (40) 情報処理科 (40) 電気電子学科 (40) 航空学科 (40) 建築学科 (40) インテリアデザイン科 (40) 情報システム科 (40) 経営情報科 (40) 法律情報科 (30) 大学併修学科 (40) コンサート・イベント科 (40) 放送芸術科 (30) 音響芸術科 (20) CG クリエーター科 (40) Web クリエーター科 (40) マンガ科 (40) 演劇・声優科 (40) スポーツビジネス科 (40) ミュージック科 (30) ゲームクリエイター科 (40) アニメーション科 (30) グラフィックデザイン科 (40) メディア文学科 (20) 教育専攻科 (40) こども学科 (40) 公務員科 (40) 幼児教育学科 (40)	昭和 34 年、文部省認定唯一のテレビ専門学校「名城大学付属東京テレビ高等技術学校」として創立。オックスフォード大学をはじめとする海外大学との提携や一流企業の現場でのインターンシップ体験、各業界で活躍している講師陣による徹底指導など、時代のニーズに応える高度な専門性や広い視野を持つ人材を 50 年以上社会に送りだしている。 26 学科 42 コースもの多彩の専門分野から構成される総合学院であり、各専門分野の知識や技能を修得するのみならず、他の専門分野との学科間、コース間を越えた学びも可能。それぞれの専門分野が協力して成り立っている社会という形を学校内に再現することで、学生たちにとっては貴重な経験となっている。一つのキャンパスで様々な専門分野を学ぶ学生同士が交流できることで、新たな価値観に触れ視野を広げ、コミュニケーション能力を鍛えるのも特長の一つ。また、4 年制大学通信教育課程と連携した W スクールシステムにより、「専門士」と「学士」の両方の学位の取得も可能。ビジネスの最先端で求められる力を身につけたスペシャリストの育成を目指している。
8	専門学校東京工科 自動車大学校 (新校名) 東京工科専門学校 (旧校名)	中野区	昼	1 級自動車整備学科 (4 年・40 名) 自動車整備学科 (2 年・160 名) エンジンメンテナンス科 (2 年・80 名)	昭和 4 4 年設立。平成 22 年 4 月より専門学校東京工科自動車大学校と校名を変更し、自動車業界のメーカー・ディーラー・モータースポーツ等様々な職種に対応した学科を設置するクルマとバイクの自動車大学校です。一級・二級自動車整備士資格をはじめ多種資格取得にも対応できるカリキュラム改革を展開し、安心できる授業システムによる解る・出来る取れる授業運営をしております。
9	東京誠心調理師 専門学校	大田区	専門 高等	調理師科 2 年制 (120) 調理師科 1 年制 (120) [調理技術・洋菓子製パン 介護福祉調理・日本型 薬膳] フードコーディネイト専 攻科 (40) 調理師科夜間部 1.5 年制 (80)	本校は、1970 年創立。変わりゆく外食産業と共に本校の教育内容も変化しました。2007 年 8 月京急蒲田駅西口側に HACCP を完備した新校舎完成。更には、2010 年 2 月に ISO 22000:2005 を取得する等技術教育だけでなく、食品衛生に関わることのついででも学ぶことのできる環境となっています。また、全国調理技術コンクールでは、毎年数々の賞を受賞しており技術教育についてもその質の高さを誇っています。
10	東京テクノロジー コミュニケーション 専門学校	新宿区	昼	スーパー IT 科 (80) IT・デザイン科 (80) ブリッジ IT 翻訳・通訳 科 (80)	本校は、業界が必要とする人材育成を産学協同教育によって行っています。学科は、IT を核としたエンジニア、クリエイター、デザイナーの育成カリキュラムで構成されています。資格取得にも力を入れ国家資格、ベンダー資格、業界資格の取得に取り組んでいます。
11	東京美容 専門学校	新宿区	昼 通	ヘアスタイリスト科 (専門課程)(80) エステ ティック科(専門課程) (20) トータルビュー ティー科(専門課程)(40) メイク・ネイルアーティ スト科(一般課程)(40) 美容通信科(通信)(120) エステティック通信講座 (16)	本校は 1947 年の創立以来、「堅実な学风、先進の技術」という建学の精神を大切に 60 年の歴史を重ねてまいりました。現理事長、田中みさ子は、約 80 店舗のヘア&ブライダルサロングループを率い、国内外の美容業界において活躍しています。また、海外のコスメティックスメーカーとも提携し、教育システムにおいても多くのサポートを受けてきました。こうした伝統を踏まえ、常に「時代と共にある美のスペシャリスト、時代を超える美しさ」を模索しながら、ハートフルな美容師育成に専心し、そのために必要な施設、カリキュラムを充実させております。
12	東京ホテル ビジネス 専門学校	豊島区	昼	ホテル科 (160 名) ホテリエコース レストラン&バーコース ブライダルプロデュース コース	接客&ホテル業界に的を絞った専門教育を展開。客室、ドア・ベルパーソン、フロントを中心に全般的ホテルビジネスを学ぶホテリエコース、料飲部門(料理・飲料)のサービススタッフを育成するレストラン&バーコース、ホテルの宴会・婚礼ビジネスを総合的に学び、ブライダルのコーディネーターの仕事とビューティーに関する知識・技術の学べるブライダルプロデュースコースがある。

	学校名	所在地	課程	平成 23 年度募集 学科及び募集人数	学校の概要・特色
13	日本電子 専門学校	新宿区	昼	コンピュータグラフィック 学科(160)、高度コンピュ ータグラフィックス科(40)、 CG 映像科(40)、ゲーム制 作科(160)、ゲーム制作研 究科(120)、ゲーム CG デ ザイン科(80)、ゲーム企画 科(80)、アニメーション 科(80)、アニメーション研 究科(40)、Web デザイン 科(80)、グラフィックデザ イン科(80)、コンピュ ータミュージック科(40)、ケ ータイ・アプリケーション科 (40)、Web システム科(40)、 組込みシステム科(80)、コ ンピュータネットワーク科 (80)、ネットワークセキュ リティ科(80)、情報処理科 (120) 情報システム開発科 (80) 高度情報処理科(80)、 電子応用工学科(40)、電気 工学科(50)、電気工事技術 科(50)、ケータイ・アプリ ケーション科(40)	「電子技術を核とした創造性豊かな技術者の育成を通して世界に貢献する」という建 学の精神により、現在は「最先端の技術をいち早く実学として取り込み、個性を生か せる教育環境の中で、国際社会に貢献することのできる感性豊かなスペシャリストを 育成する」を教育理念として掲げ、独自の教育システムを構築している。
			夜	コンピュータグラフィック 学科(40)、キャラクターデ ザイン科(40)、ゲーム制 作科(40)、ネットワークセ キュリティ科(40)、情報処 理科(40)、電気工学科(50)、 電気工事士科(50)、キャ クターデザイン科(40)	
14	二葉栄養 専門学校	武蔵野市	昼	管理栄養士学科(40) 栄養士科(120) 調理師科(300)	二葉栄養専門学校は開校以来数多くの調理師、栄養士の養成を志してまいりました。 平成 14 年より管理栄養士学科を東日本地区にて第一番目に設置し、平成 20 年には第 3 期生の 87.8%を合格者として輩出いたしました。栄養士科においては 2 つのコー スを 2 年次に選択し、希望の就職先に合わせた教育により就職希望者に対する就職率 100%を実現しています。又、調理師科においては基礎衛生知識と食の安全を中心に学 習、調理技術実習は 420 時間設定し、知識と技術をバランスよく学び即戦力に対応で きる人材を育成しています。
15	ホスピタリテ ィーズ 専門学校	中野区	昼	旅行学科(100) ホスピタリティサービス学 科(150) 航空・運輸学科(130)	当校は旅行・観光業界から「プロを養成してほしい」という要請を受けて設立された 「観光業界立」の学校です。観光・サービス産業で最も大切な「ホスピタリティマインド」 ＝「おもてなしの心・相手を思いやる心」を持った業界人を育成するため、「Smile for you」を合言葉に、学生・先生すべてが笑顔の絶えない学校を目指しています。 各学科とも企業実習を取り入れ、実践で役立つ資格取得や多くの体験型授業（イベン ト）にも取り組んでいます。また、無料で参加できる短期留学制度（希望者 30 名）や 1 年間のサンドイッチ留学など国際感覚を養う独自の制度も特徴です。
		夜	旅行学科(60) ホスピタリティサービス学 科(120) 航空・運輸学科(100)		
16	マリールイズ 美容専門学校	新宿区	昼	美容本科(40) ・ブライダルアーティスト コース ・国際スタイリストコース	本校は、前身であるマリールイズ美容講習所の開設が 1913 年と美容界でも有数の歴史 を誇る美容師養成施設であり、創立者マリールイズ女史の言葉である「一に人格、二 に技術」をモットーに人材育成に努めております。また、関連企業で明治神宮・明治 記念館・目黒雅叙園にある美容室を運営する(株)美容マリールイズの協力のもとに、平 成 22 年度より新たにブライダルアーティストコースと国際スタイリストコースを設置 し、実践的なカリキュラムをくんでおります。
17	武蔵野東技能 高等専修学校	武蔵野市	昼	総合キャリア学科(75)	「理想」～世のために役立ち、人々に必要とされる社会人となる～を校訓に、将来の 職業生活に直接役立つ専門的な知識・技術を学ぶとともに人間の成長を図る。 また、一般教養科目も強化し、スポーツ大会、林間学習、学園祭などの体験学習を重 視している。

短期大学

1	愛国学園 短期大学	江戸川区	全	家政科： 家政専攻(50) 食物栄養専攻(50)	家政専攻では、衣食住の分野を幅広く学び、豊かな教養とともに実践的な生活スキル を持つ自律した社会人を育成します。また、食物栄養専攻では、食と健康に関わる広 範囲な学問を学び、人々の健康の維持・増進に役立つ栄養士を育成します。 栄養士資格及び中学校教諭 2 種免許状（家庭）を取得できます。
2	嘉悦大学 短期大学部	小平市	全	ビジネスコミュニケー ション学科(150)	本学では、社会で即戦力として活躍するための実践的なビジネス知識・技能を 2 年間 で習得します。 「医療・福祉」「会計・FP」「販売・営業」「観光・ホテル」「広報・企画」「編入学・留学」 など多様な進路に直結した 6 つの育成モデルを用意しています。
3	東京家政大学 短期大学部	板橋区	全	保育科(200) 栄養科(180)	本学の学びには、社会で活躍するための即戦力となる専門知識と技術の習得、資格取 得に加えて人間性を高め、視野を広める教養教育が備わっている。

平成22年度会員中学校

公立中学校

	学校数		学校数		学校数		学校数		学校数
千代田区	3	墨田区	12	中野区	12	練馬区	34	調布市	8
中央区	4	品川区	16	杉並区	23	足立区	37	狛江市	4
港区	10	目黒区	10	豊島区	8	葛飾区	24	東大和市	5
新宿区	11	大田区	28	北区	12	江戸川区	33	羽村市	3
文京区	10	世田谷区	31	荒川区	10	武蔵野市	6	三宅村	1
台東区	7	渋谷区	8	板橋区	23	府中市	11		

都立中学校
都立白鷗高等学校附属中学校
都立両国高等学校附属中学校
都立武蔵高等学校附属中学校
都立富士高等学校附属中学校
都立大泉高等学校附属中学校
都立小石川中等教育学校
都立桜修館中等教育学校
都立立川国際中等教育学校
都立南多摩中等教育学校
都立三鷹中等教育学校

私立中学校
愛国中学校
武蔵野東中学校

国立大学法人
筑波大学附属中学校

東京都産業教育振興会会則

第1章 総 則

第1条 この会は、東京都産業教育振興会という事務所を東京都教育庁内におく。

第2条 この会は、産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、本都における国公私立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善進歩をはかり、もって産業経済の自立発展に寄与することを目的とする。

第3条 この会は、前条の目的を達成するために次の事業を行う。

- (1) 産業教育振興運動の推進に関すること。
- (2) 産業教育の調査研究に関すること。
- (3) 産業教育の普及理解に関すること。
- (4) 産業教育、就職問題などに関する懇談会、講演会、研究会などの開催並びにこれらについての資料の頒布、情報の連絡に関すること。
- (5) 産業教育振興に関し関係機関への建議に関すること。
- (6) 関係行政機関の施策に協力すること。
- (7) 産業教育に関する教職員の研究奨励に関すること。
- (8) 産業教育に関する生徒の就学並びに学習の奨励に関すること。
- (9) その他本会の目的を達成するのに必要なこと。

第2章 会 員

第4条 本会は次の会員をもって組織する。

- (1) 団体会員 会社、工場、本都内における学校およびこれが振興を目的とした団体を代表するもので本会の趣旨に賛同したもの。
- (2) 個人会員 本会の趣旨に賛同したもの。
- (3) 名誉会員 産業教育又は本会に功績があった者で会長が理事会の議を経て推薦したもの。

第3章 役員及び職員

第5条 この会に会長1名、副会長3名、理事25名以上35名以内及び監事3名をおく。

第6条 会長、副会長は理事会で選出する。会長は会務を総理し、本会を代表する。

2. 副会長は会長を補佐し、会長事故あるときはこれに代る。

第7条 理事は東京都教育委員会教育長、東京都教育庁都立学校教育部長、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 理事長は東京都教育委員会教育長の、常任理事は東京都教育庁都立学校教育部長及び東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課長の職にある理事をもって充てる。
3. 理事長は会務を掌理するとともに理事会を代表し、常任理事は日常の会務を執行する。
4. 理事は理事会を組織する。
5. 理事会は理事長が招集し重要な会務を処理する。

第8条 監事は東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある者のほか、総会で選出する。

2. 監事のうち1名は常任監事とし、東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課管理係長の職にある監事をもって充てる。
3. 監事は会計を監査し、総会に報告する。

第9条 この会の役員の任期は1年とする。ただし再任を妨げない。

第10条 この会に顧問・参与をおくことができる。

2. 顧問は会長の諮問に応じ、参与は理事会、総会に出席して意見をのべることができる。

第11条 この会の事務を処理するために事務局をおく。事務局には事務局長、書記その他の必要な職員をおくことができる。

2. 事務局の職員は理事長が任免する。

3. 事務局長は日常の事務を総括処理し、書記その他の職員は日常の事務を処理する。

4. 職員は有給とすることができる。

第4章 総 会

第12条 総会は年1回会長が招集する。ただし、会長が必要と認めるときは臨時招集することができる。

2. 総会は会長を議長とし、事業方針、予算決算その他重要な会務を審議する。

第13条 総会の決議は出席者の過半数によって定める。

第5章 部会分会

第14条 この会には部会又は分会をおくことができる。部会又は分会に関する規定は理事会の議を経て会長が定める。

第6章 会 計

第15条 この会の事業執行に要する費用は会費、寄付金及びその他の収入をもってあてる。

第16条 会費は次の通りとする。

(1) 団体会員

ア 産業界会員 1口 年額1万円

イ 学校会員

○高等学校全日制 1口 年額6千円

○高等専門学校 同

○短期大学 同

○専修学校 同

○高等学校定時制・通信制 1口 年額3千円

○中学校 1口 年額2千円

(2) 個人会員 1口 年額2千円

ただし、総会の決議により臨時会費を徴収することができる。

第17条 本会の会計年度は毎年4月1日から翌年3月31日までとする。

第7章 支 部

第18条 この会に支部をおくことができる。

第8章 会則の変更及び解散

第19条 この会の会則の変更及び解散は総会の決議を経なければならない。

第9章 付 則

第20条 本会則実施に必要な細則は会長が理事会の議を経て定める。

昭和30年5月20日制定

以下の総会で一部改正

昭和46年度、52年度、58年度、平成18年度、20年度、22年度

本会への入会のご案内

本会は、「産業界、教育界および行政当局が一体となって相互に連絡協調し、東京都における国公立の中学校、高等学校、高等専門学校、短期大学および専修学校などの産業教育の改善・進歩を図り、もって産業経済の自立・発展に寄与する」ことを目的としています。

産業に教育に関心のある方、ご入会いただける方、新会員をご紹介いただける方は、本会事務局までご連絡ください。

(問合せ先) 〒163-8001 東京都新宿区西新宿 2-8-1
東京都新宿区教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
東京都産業教育振興会 事務局
TEL 03-5320-6729 FAX 03-5388-1727

編集後記

- ・ 本年度は、会誌の特集テーマとして「魅力ある産業教育を目指して」と題して各学校・各学科の実践教育活動の執筆をお願いしました。
- ・ 産業界及び教育界が一体となり産業を支える人材を育成していくことは今後、ますます重要なものとなっていくと考えますが、その意味でも企業と地域と連携した各学校の取り組んでいる実践活動と企業の方からの経営理念の報告を今後に活用していただき、産業教育の改善に役立てていただければ幸いです。
- ・ お忙しい中、本誌への執筆協力をしていただきました皆様に感謝し、御礼を申し上げます。
- ・ 今後とも、本会へのご支援、ご協力を賜りますようお願いいたします。

ホームページアドレス <http://www.tosanshin.org/>

東京の産業教育 第48号

発行 平成23年(2011年)3月25日 発行
東京都産業教育振興会
〒163-8001
東京都西新宿 2-8-1
東京都教育庁都立学校教育部高等学校教育課内
TEL 03(5320)6729 FAX 03(5388)1727

印刷 昭和印刷株式会社

再生紙を使用しています

高校生の新・就職面接の攻略

パーソナル・プレゼンテーション能力を身につける

就職面接のしくみ・ねらいを理解するために！
面接時のマナー・言葉づかい・態度を身につけるために！
十分な準備をして、自信を持って面接に臨むために！
実践的な面接対策ビデオ教材（約25分）

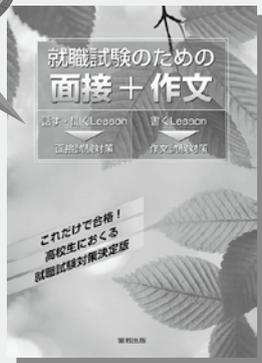
文部科学省
選定



VHS版/DVD版 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社

書込式ノート教材



就職試験のための面接+作文

面接試験・作文試験に必要な基礎力養成のために！
企業採用担当者が何を見ているか、という立場に立った
面接ノウハウを解説！
書き込み式で、自分の考え方を整理できる進路教材

B5判/64頁 定価400円(税込)

キャリア教育用DVD教材 新・高校生のキャリアプラン

自分に合ったキャリアプランとは？
高校生必見のキャリア教育映像教材！

- 第1巻 自己分析と適性 自分を知ろう
- 第2巻 インターンシップ 自分を再発見しよう
- 第3巻 キャリアプランの立案 自分の将来設計を考えよう

DVD全3巻(各約20分) 定価各18,900円(税込)

制作：(株)映学社



「東京トライアル発注認定制度」東京都認定番号 2158 号 ヒカリ★マス LP-1 シリーズ（埋込式ソーラーライト）



製品の概要

ソーラーパネルを内蔵しているため昼間に太陽光を受け、電気二重層コンデンサーで蓄電し、夜間にその電力を利用してLEDを長時間発光させます。従来の類似製品では、満充電後の発光時間が6～8時間程度でしたが、本製品は満充電時で20時間発光と、悪天候時の充電不足による発光障害を解消しました。直径8.5cm高さ8cmの形状の埋込式で赤、青、緑、橙、白の5色をご用意しております。



■ダブルレンズ構造

ダブルレンズ（光を水平方向にするレンズ及び拡大するレンズ）の採用により、上方向および360度水平方向に照射可能です。そのため、真上から見ることもでき、かつ遠くからの視認も可能です。

■二重構造方式

ケース本体は二重構造で形成されており、外ケースにより、コンクリートの外部収縮による本体ケースの破損を防ぎます。

全天候型ソーラーライト「ヒカリ★マス LP-1」は、自発光システムの採用により、CO₂の排出がなく、地球環境に優しい製品です。電源不要なので、配線の必要がなく電池交換の必要もない等のメリットがあり、経済的にメンテナンスフリーを実現しております。

想定される使用例・使用箇所

1. 敷地内の景観・安全サービスが求められる場所…公園の道路や広場の境界、学校、病院
2. 災害避難場所…防災公園の避難場所指定地への誘導道路
3. 安全上、注意を要する場所…暗い場所での階段、踏み外すと落下する場所
4. 環境の模範となる場所…公園、公共施設の広場
5. 配線工事が困難な場所…大きな公園、山道、農道、海

会社概要

事業者名	TDO グラフィックス株式会社
代表者名	唐沢 伸
所在地	東京都千代田区外神田 2-2-17 共同ビル 4 階
電話番号/FAX 番号	03-5296-7151/03-5296-7152
ホームページ	http://www.tdo-g.jp
主要商品	蓄光・無機蛍光製品および LED を利用した特殊照明製品
事業内容	「環境」「健康」「安全」に立脚し、地球温暖化防止対策をテーマに新製品の開発を実施。具体的には、無機蓄光材、無機蛍光材等の自然発光製品および LED を利用した特殊照明製品等の事業を展開。

ホテル

テーマ
パーク

薬店

等で企業実習

学費は自分で稼ぎ 自力進学

の夢を叶えるデュアルシステム！

学校（授業）＋ 企業（有給実習）

知識・教養を身につける

現場力の養成

☆ 学科紹介 ☆

《デュアルシステム導入学科》

●国際ホテルデュアル学科

●医薬デュアル学科

☆ デュアル生受け入れ企業先 ☆

パレスホテル・ANA インターコンチネンタル東京・リーガロイヤルホテル東京・目黒雅叙園・
浅草ビューホテル・ホテル メトロポリタンエドモント・東武ホテルレバント東京・キッザニア
東京・三井記念病院・昭和大学付属病院・(株)ぱぱす 等

《本科》

●国際観光学科

●国際ホテル学科

●航空貿易学科



国際デュアルビジネス専門学校

〒111-0052 東京都台東区柳橋2-20-14

TEL:0120-37-0811

JR総武線浅草橋駅東口 徒歩7分

都営地下鉄浅草線浅草橋駅A6出口

徒歩5分

100年を超える伝統と確かな教育実績で 即戦力として活躍できる人材を育成!

中央工学校は1909年(明治42年)に創立。以来100年間、専門教育の基本方針として、仕事に役立つ技術力をそなえる『厳しい実務教育』と、正しい心・思いやる心を育てる『人間涵養教育』を心がけています。

この方針のもとで自らを高め鍛えた学生は、産業界から高く評価され、多くの人材ニーズの中から理想の職業分野へはばたいています。この間の卒業生は10万人を超えました。この伝統と数多くの卒業生が築いた社会との信頼の絆は、ますます堅固になっています。



建築・設備



木造



インテリア



家具



舞台美術



土木・測量



造園



機械・CAD



スポーツ

～ Information News ～

平成22年一級建築士試験『設計製図の試験』合格者

平成22年12月16日、財団法人建築技術教育普及センターが、「平成22年一級建築士試験『設計製図の試験』学校別(大学・専門学校含む)合格者数一覧(合格者10名以上で84校)」を公開しました。

中央工学校は全体ランキングの第9位(64人合格)。専門学校ではトップの成績でした。

中央工学校

専門学校コンソーシアムTokyo 加盟校
the consortium of colleges in Tokyo

- 〒114-8543 東京都北区王子本町一丁目 26-17
- TEL: 03-3906-1211(学校代表)
- PC: <http://chuoko.ac.jp>(携帯からもアクセス可)
- Mail: info@chuoko.ac.jp

イベント情報は
こちらから!!



伝承される技術と心。

The beauty training school which was established by The principal Marie Louise at 1912. By keeping the history and tradition for 97years, it have been become The Marie Louise Beauty Special School. We have philosophy that of `1st personality, 2nd technique`. We educate students who will be able to produce the beauty and the happiness. We create originality by absorbing from the leading fashion, yet inheriting from the tradition. Yes! We, Marie Louise Beauty Special School, will send out many `professionals` to the world.



新生マリエルイズ美容専門学校が胎動をはじめました。

Newly reborn, Marie Louise Beauty Special School has been germinated in the Japanese Beauty Culture.

初代校長マリエルイズが創設した美容講習所は、97年の歴史を経て現在のマリエルイズ美容専門学校に至っています。「一に人格、二に技術」という理念のもと、美と幸せをプロデュースする人材を育成。伝統を受け継ぎながらも、時代の最先端をゆく美容を取り入れ、オリジナリティを大切にされた教育方針で、「プロフェッショナル」を送り出しています。

■国際スタイリストコース

海外経験豊かな教員の指導のもと、語学、技術ともに将来グローバルに活躍する美容師育成に力を入れています。

■ブライダルアーティストコース

マリエルイズグループで婚礼美容業務に携わっている教員の指導のもと、着付けはもとより、ヘアセット、アップ、メイクまで丁寧に教育しています。

●一学年 40 名の少人数体制 ●美容師免許取得可能 ●充実したサロン実習

「学校見学&体験入学」随時受付中! ※詳しくはお電話又はホームページにてお問い合わせください。



学校法人 マリエルイズ学園 厚生労働大臣指定

マリエルイズ美容専門学校

<お問い合わせ>

TEL:03-3357-8015 www.marie-louise.ac.jp

〔調理師科2年制〕

西洋料理専攻コース

日本料理専攻コース

中国料理専攻コース

〔調理師科1年制〕

調理技術コース

洋菓子製パンコース

介護福祉調理コース

薬膳コース

〔フードコーディネイト専攻科〕

〔調理師科夜間部1.5年制〕

国際フード製菓専門学校 ◆

〔製菓製パン科2年制〕

洋菓子専攻コース

和菓子専攻コース

パン専攻コース

〔製菓製パン科1年制〕

〔調理師科1年制〕

〔製菓製パン科夜間部2年制〕



学校法人 誠心学園

東京誠心調理師専門学校
国際フード製菓専門学校

〒144-0052
〒220-0003

東京都大田区蒲田3-21-4
神奈川県横浜市西区楠町14-4

Tel.03-3734-4411
Tel.045-313-4411

MUTOH

教えるのも、教わるのも、MUTOH なら安心です。

「モノづくり」の設計現場で見直されている手描きの製図機器から、2次元 CAD、3次元 CAD、3D プリンタ。さらには電子商取引、組込制御といった情報処理分野まで。常に教育現場の先端を見つめ続けてきた MUTOH が長年の実績とともにお届けいたします。

設計の基本、手描きの「ドラフター」

B1 製図板サイズ・ドラフター・セット/LAJ-1000

手描き設計の快適性を追求し、MUTOH の伝統と信頼の技術を凝縮したドラフターです。製図室での幅広い用途に応える耐久性にも優れています。



●ドラフターは MUTOH の登録商標です。

LAJ-1000

製図室用
ドラフター



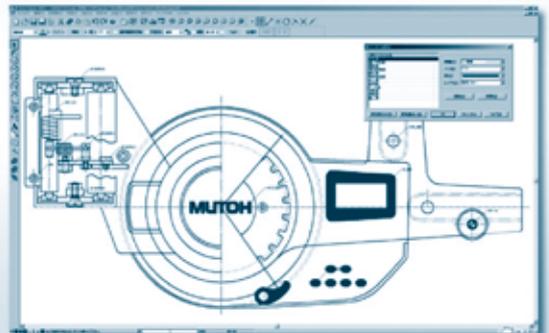
●最大適応製図用紙サイズ:A1
●製図板サイズ:B1(750×1050mm)

教育機関でも利用される2次元 CAD「M-Draf Spirit(エムドラフ・スピリット)」

M-Draf Spirit は、“仮想線”（下書き線）を利用して作図作業を進めるため、製図を学ぶ過程で、ドラフターや平行定規を使用した学生が次のステップで CAD に移行し易い特長があります。

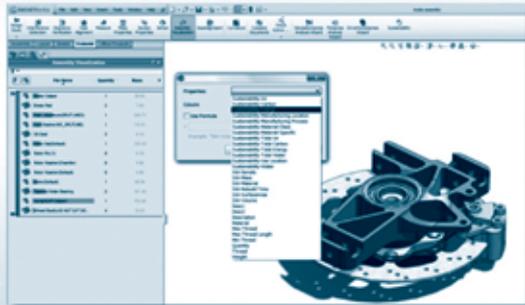


- ・仮想線
- ・JIS 準拠製図
- ・Windows 準拠
- ・DXF/DWG 変換



全世界で広く使われる3次元 CAD「SolidWorks」

SolidWorks で教育を行うことにより学生が将来、エンジニアとして必要とされる 3次元 CAD のスキルを習得させることが可能です。



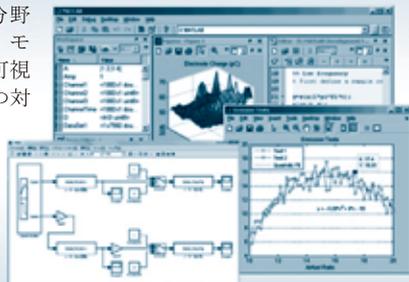
電子商取引教育ソフトウェア「スクールショッパー II」

スクールショッパー II は、ICT（情報通信技術）ネットワークを活用した商取引や広告・広報に関する知識と技術が習得できる環境を提供し、ウェブ環境上での ICT 関連知識、コンテンツ作成知識、ウェブデザイン関連知識、さらに電子商取引に関する総合的な学習が可能となっています。



数値計算ソフトウェア「MATLAB&SIMULINK」

産業界から教育分野まで広い分野で活躍しています。データ解析、モデリング、シミュレーション、可視化等。プログラミング機能を持つ対話型ソフトウェアです。



●MATLAB&SIMULINK は MathWorks, Inc の商標です。

MATLAB& SIMULINK

ムトーエンジニアリングオンラインショップ

MUTOH SHOP

<http://cadshop610.com/>

株式会社ムトーエンジニアリング

〒141-8683 東京都品川区西五反田 7-21-1 第5TOCビル 2F

TEL 03-5740-8200(大代表)

<http://www.mutoheng.com/>

食糧学院では、担任・進路指導課・キャリアセンターの三者で就職をサポートします。また、就職に必要な実践力を実習をくり返し習得させ、資格の取得をバックアップします。しつけや礼節を体得することも職業人として大切なことと考え、教育に組み込んでいる専門学校です。

東京栄養食糧専門学校

「食と栄養と健康」のスペシャリストの育成校



渋谷からひと駅の閑静な街

管理栄養士科(昼間部4年制)

栄養士科(昼間部2年制)

- スポーツ・ウエルネスコース
- 医療・福祉コース
- フードビジネスコース
- 子ども食育コース

製菓・カフェ経営科(昼間部2年制)

管理栄養士科(募集定員40名) → 管理栄養士国家試験合格を全力サポート(対策講座・eラーニング)

取得
できる
資格

栄養士
管理栄養士国家試験受験資格

目指す
資格

管理栄養士 ホームヘルパー2級
栄養教諭1種 フードアナリスト4級

栄養士科(募集定員260名) → 多様化する社会に対応できる専門選択コースの導入

取得
できる
資格

栄養士

目指す
資格

管理栄養士 フードアナリスト4級
栄養教諭2種 ホームヘルパー2級

製菓・カフェ経営科(募集定員40名) → ヨーロッパの伝統菓子から話題のスイーツやパンを習得

取得
できる
資格

フードコーディネーター3級

目指す
資格

製菓衛生師 3級レストランサービス技能士
ホームヘルパー2級 フードアナリスト4級

東京調理師専門学校

「食と美と技」のスペシャリストの育成校



新宿駅徒歩5分の好立地

高度調理技術科(昼間部2年制)

- 西洋料理 デセールコース
- 日本料理 和菓子コース
- 調理 パティシエコース

調理技術科(昼間部1年制)

- スタンダードコース ● フレックスコース

調理総合科(夜間部1.5年制)

高度調理技術科(募集定員200名) → 2年次には専門コースに分かれて深く学べる高度学科

調理技術科(募集定員150名) → 西洋・日本・中国料理を総合的に学べるスピード取得コース

調理総合科(募集定員50名) → 働きながらフルボリュームを学べる1年6ヶ月

→ 高度調理技術科

→ 調理技術科/調理総合科

調理師免許	取得できる資格	取得できる資格
食育インストラクター受験資格	取得できる資格	取得できる資格
3級レストランサービス技能士	目指す資格	
製菓衛生師	目指す資格	
専門調理師	目指す資格	
フードアナリスト4級	目指す資格	目指す資格
ふぐ調理師	目指す資格	

東京ホテルビジネス専門学校

「感動と美と喜びを創出する」スペシャリストの育成校



総合ビジネスサービス科(昼間部2年制)

- ホテル・レストランコース
- ブライダルプロデュースコース

ホテル・レストランコース → 都内一流ホテルでの実習や校内のバーやレストランで実践力を磨く

目指す
資格

ホテルビジネス実務検定 ビジネス能力検定 TOEIC 手話技能検定 観光英検
3級レストランサービス技能士 秘書検定 サービス接客検定 きき酒師
ワインエキスパート テーブルコーディネーター フードアナリスト4級

ブライダルプロデュースコース → 料理・ネイル・エステまでブライダル全般を習得し即戦力を目指します

目指す
資格

アシスタントブライダルコーディネーター(ABC)検定 フォーマルスペシャリストブロンズライセンス
3級レストランサービス技能士 色彩検定 TOEIC 観光検定 ビジネス能力検定
ネイル検定 サービス接客検定 秘書検定 フードアナリスト4級

